

学際基礎科目・人文科学系		
哲学思想史 a	佐野 好則	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 通年(a,b)の登録が望ましい	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 西洋古代中世の哲学思想史を概観する。		
<到達目標> 各哲学者の思想を他の哲学者の思想との関連に注目して理解する。神学の背景としての哲学の重要性を認識する。		
<授業の概要> 講義とディスカッションを通して、各哲学者の思想の特徴や相互の関連性を検討する。		
<履修条件> 学部1, 2年を主な対象学年とする。		
<授業計画> 第1回 哲学の始まり: ヘシオドスの神話的思考からミレトス派の哲学的思考への発展を考察する。 文献: ヘシオドス『神統記』、アリストテレス『形而上学』(授業内にプリント配布) 第2回 タレス、アナクシマンドロス、アナクシメネス: ミレトス派の自然哲学を考察する。 文献: タレス断片、アナクシメネス断片、アナクシメネス断片(授業内にプリント配布) 第3回 ピタゴラス派、ヘラクレイトス、パルメニデス: ミレトス派自然哲学の展開を考察する。 文献: ピタゴラス派断片、ヘラクレス断片、パルメニデス断片(授業内にプリント配布) 第4回 エムペドクレス、アナクサゴラス、原子論: パルメニデスの影響下の自然哲学の展開を考察する。 文献: エムペドクレス断片、アナクサゴラス断片、原子論断片(授業内にプリント配布) 第5回 ソフィスト達とソクラテス: 人間を中心とするソクラテスの哲学とその背景を考察する。 文献: 作者不明『両論』、プラトン『ソクラテスの弁明』『ゴルギアス』(授業内にプリント配布) 第6回 プラトン(1): イデア論の基盤を哲学諸派との関連に注目して考察する。 文献: プラトン『メノン』、『パイドン』、『国家』(授業内にプリント配布) 第7回 プラトン(2): イデア論の展開を考察する。 文献: プラトン『パルメニデス』、『ティマイオス』(授業内にプリント配布) 第8回 アリストテレス(1): 実体論の基盤をプラトンの哲学との関連に注目して考察する。 文献: アリストテレス『形而上学』(授業内にプリント配布) 第9回 アリストテレス(2): 実体論の展開、倫理学を考察する。 文献: アリストテレス『政治学』、『ニコマコス倫理学』(授業内にプリント配布) 第10回 ストア派、エピクロス派: ヘレニズム哲学における新しい傾向の哲学諸派を考察する。 文献: ストア派断片、エピクロス『メノイケウス宛の手紙』(授業内にプリント配布) 第11回 プロティノス: ローマ時代におけるプラトン派哲学の展開を考察する。 文献: プロティノス『エンネアデス』(授業内にプリント配布) 第12回 アウグスティヌス(1): 新プラトン主義の影響を中心に考察する。 文献: アウグスティヌス『告白』、『教師論』(授業内にプリント配布) 第13回 アウグスティヌス(2): 哲学的諸概念の神学的応用を考察する。 文献: アウグスティヌス『告白』、『神の国』(授業内にプリント配布) 第14回 アンセルムス、トマス・アクィナス: スコラ哲学における哲学諸派の受容を考察する。 文献: アンセルムス『モノロギオン』、トマス・アクィナス『神学大全』(授業内にプリント配布) 第15回 総括		
<準備学習等の指示> 各哲学者による著作の抜粋を読み、内容について検討しておくことが予習として課される。		
<テキスト> テキストとなる各哲学者の著作の抜粋をプリントして毎回配布する。		
<参考書・参考資料等> A.H.アームストロング『古代哲学史』みすず書房、1989年 内山/中山編『西洋哲学史、古代・中世篇』ミネルヴァ書房、1996年 熊野純彦『西洋哲学史、古代から中世へ』岩波新書、2006年		
<学生に対する評価(方法・基準)> 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。評価は授業でのディスカッションへの参加とレポート提出により、各哲学者の思想の理解、および相互の関連性の理解の到達度を基準とする。		

学際基礎科目・人文科学系		
哲学思想史 b	矢嶋 直規	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 近代ヨーロッパ哲学・倫理学の主要なテーマを、神の存在と人間の側の信仰の関係をめぐるものとしてとらえる視点を探求します。		
<到達目標> 近代ヨーロッパにおけるキリスト教の歴史の理論的背景ともいえる主要な哲学思想を単に文化史としてではなく、哲学そのものの学びとして習得する。主要哲学者の理論をキリスト教信仰と関連づけて理解し、それを自身の言葉で説明できるようになる。		
<授業の概要> デカルト、スピノザ、ライプニッツ、ホッブズ、ロック、パークリ、ハチソン、バトラー、ヒューム、スミス、カントの哲学・倫理思想をとりわけキリスト教信仰への立場に関連付けて概観する。		
<履修条件> 特にもうけません。		
<授業計画>  第1回 近代哲学概観 第2回 デカルトの人間の立場と二元論 第3回 デカルトからスピノザの自然の立場 第4回 スピノザの神即自然 第5回 ライプニッツのモナド論 第6回 マールブランシュの機会原因論と実体概念の変遷 第7回 ホッブズの機械論と利己主義の理論 第8回 ロックの社会契約とキリスト教の合理性の理論 第9回 利己主義の論駁：シャフツベリ、ハチソンの道徳感情論 第10回 バトラーの啓示宗教擁護と理神論批判 第11回 パークリとヒュームの認識論 第12回 ヒュームの道徳論とスミス：社会科学の成立 第13回 ヒュームの自然宗教批判 第14回 イギリス経験論へのカントの応答 第15回 近代哲学から現代哲学へ 最終試験		
<準備学習等の指示> 授業は講師からの一方通行的な講義ではなく、学生の発表と議論を取り入れる。		
<テキスト> 毎回の授業の前に配布もしくは指定する。		
<参考書・参考資料等> 宗像 恵 (著)、中岡 成文 (著)、『西洋哲学史 近代編—科学の形成と近代思想の展開』、ミネルヴァ書房、1995。 Steven M. Emmanuel, <i>The Blackwell Guide to the Modern Philosophers: From Descartes to Nietzsche</i> (Blackwell Philosophy Guides) 1991.		
<学生に対する評価 (方法・基準) > 授業では発表と最終レポートを総合して評価する。		

学際基礎科目・人文科学系		
キリスト教と世界史 a	小宮 正安	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 「ヴンダーカンマー」（珍品収集室／驚異の部屋）を切り口に、ルネッサンスからバロックにかけてのヨーロッパの諸相を学びます。		
<到達目標> ヨーロッパ近世（ルネッサンスからバロック）におけるキリスト教文化の変遷やヨーロッパの文化の特質を理解できることとします。		
<授業の概要> ルネッサンスからバロックにかけてヨーロッパを席卷した「ヴンダーカンマー」（珍品収集室／驚異の部屋）の変遷を辿りながら、当時の宗教観や宇宙観について芸術史、科学史、社会史等を織り交ぜることで、近世ヨーロッパの社会や文化の奥底に渦巻くものを学んでゆきます。		
<履修条件>		
<授業計画>  第1回 博物館とコレクションの歴史について 概論 第2回 ルネッサンスの再検証とヴンダーカンマーの誕生 第3回 ルネッサンスの宇宙観と聖書的世界観 第4回 メディチ家に見るコレクション保護政策 第5回 マニエリスムの誕生とヴンダーカンマーの変容 第6回 皇帝ルドルフの魔術的世界観とヴンダーカンマー 第7回 アルチンボルドとヴンダーカンマー的コレクション 第8回 キルヒャーと「キルヒャー博物館」 第9回 「自然科学」の萌芽に見る「近代的博物館」の予兆 第10回 バロックにおけるヴンダーカンマーの潇洒化 第11回 近代の訪れとヴンダーカンマーの解体 第12回 ヴンダーカンマーと博物館の差異 第13回 シュールレアリストたちによるヴンダーカンマー再発見 第14回 ヴンダーカンマーと博物館 各価値観の止揚 第15回 総論・まとめ 定期試験		
<準備学習等の指示> 事前にテキストを読み、また前回の内容を理解するために復習しておくこと。		
<テキスト> 愉悦の蒐集 ヴンダーカンマーの謎（小宮正安著 集英社新書）		
<参考書・参考資料等>		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度、レポートや試験を総合的に見て評価します。		

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目選択換算		
キリスト教と芸術2 音楽史 a	渡辺 善忠	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>通年の受講をお勧め致します。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 神の救いの御業が音楽によって伝えられてきた歴史を学びます。		
<到達目標> 旧約聖書時代（ユダヤ教）から初代教会～宗教改革時代の教会にかけて、神の救いの御業が音楽によって伝えられてきた歴史を辿ることによって、日本の教会における音楽の役割を考察することを目標とします。		
<授業の概要> ユダヤ教～初代教会～16世紀の教会の音楽史について、講義とCD鑑賞によって学びます。		
<履修条件> 礼拝と音楽の関わりを大切に考える方、牧師の基礎的な教養として音楽に親しみたい方、奏楽者や聖歌隊と良き交わりを築きたい方の履修を歓迎致します。		
<授業計画> 第1回 キリスト教音楽史概説（定義づけ、神学と音楽の関わり等） 第2回 旧約聖書時代の音楽①～古代から第一神殿時代にかけてのユダヤ教の音楽～ 第3回 旧約聖書時代の音楽②～第二神殿時代のユダヤ教から初代教会にかけての音楽～ 第4回 グレゴリオ聖歌とプロテスタント教会①～グレゴリオ聖歌の成立～ 第5回 グレゴリオ聖歌とプロテスタント教会②～グレゴリオ聖歌の発展～ 第6回 ミサ曲の成立と発展①～音楽史的側面～ 第7回 ミサ曲の成立と発展②～礼拝様式との関わりについて～ 第8回 オラトリオの成立と発展～音楽史的側面～① 第9回 オラトリオの成立と発展～聖書朗読からコンサート音楽へ～② 第10回 レクイエムの成立と発展 第11回 宗教改革直前の時代教会音楽 第12回 宗教改革時代の教会音楽 第13回 旧約時代から宗教改革時代の音楽と讃美歌①～聖書と讃美歌の関わり～ 第14回 旧約時代から宗教改革時代の音楽と讃美歌②～現代の教会における讃美歌～ 第15回 旧約聖書の時代から宗教改革時代までの教会音楽の発展と評価		
<準備学習等の指示> 受講者の方々の理解に応じて参考文献の下調べなどについてその都度指示します。		
<テキスト> 「礼拝における賛美の役割と課題」（渡辺善忠著）第1回の講義でコピーを配布する予定です。		
<参考書・参考資料等> 図書館のカウンター横の棚に参考図書のコナーを設けて頂く予定ですので、講義時に説明致します。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への取り組み方や質問等の平常点を考慮に入れながらレポートで評価致します。		

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目選択換算		
キリスト教と芸術2 音楽史 b	渡辺 善忠	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 神の救いの御業が音楽によって伝えられてきた歴史を学びます。		
<到達目標> 宗教改革時代（16世紀）から現代まで、神の救いの御業が音楽によって伝えられてきた歴史を辿ることによって、日本の教会における音楽の役割を考察することを目標とします。		
<授業の概要> 16世紀から現代までの教会音楽史について、講義とCD鑑賞によって学びます。		
<履修条件> 礼拝と音楽の関わりを大切に考える方、牧師の基礎的な教養として音楽に親しみたい方、奏楽者や聖歌隊と良き交わりを築きたい方の履修を歓迎致します。		
<授業計画> 第1回 キリスト教音楽史概説（定義づけ、神学との関わり等） 第2回 J. S. バッハ 第3回 G. F. ヘンデル 第4回 F. J. ハイドンとM. ハイドン 第5回 A. モーツァルト 第6回 L. V. ベートーヴェン 第7回 F. シューベルト 第8回 F. メンデルスゾーン 第9回 J. ブラームス 第10回 F. シュミット 第11回 J. ラター 第12回 現代のキリスト教音楽と将来の展望 第13回 讃美歌の選曲方法①～礼拝における讃美歌の役割～ 第14回 讃美歌の選曲方法②～讃美歌選曲の実践～ 第15回 宗教改革運動が始まった時代から現代までのキリスト教音楽の発展と評価		
<準備学習等の指示> 受講者の方々の理解に応じて参考文献の下調べなどについてその都度指示します。		
<テキスト> 「礼拝における賛美の役割と課題」（渡辺善忠著）第1回の講義でコピーを配布する予定です。		
<参考書・参考資料等> 図書館のカウンター横の棚に参考図書のコナーを設けて頂く予定ですので、講義時に説明致します。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への取り組み方や質問等の平常点を考慮に入れながらレポートで評価致します。		

学際基礎科目・社会科学系		
社会史 a	早川 朝子	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 特にありません	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 一般の人々の生きた社会を中心にヨーロッパ中世の歴史を学びます。		
<到達目標> ヨーロッパ中世の初期から末期までの大まかな歴史の流れと時代の特色を理解する。 ヨーロッパの中世史を学ぶうえで重要となる概念を習得する。		
<授業の概要> ヨーロッパ中世は、政治制度や行政組織だけでなく、芸術や学問、さらには人々の日常生活にまでキリスト教の影響が及びました。この授業では、キリスト教が浸透し定着していったヨーロッパ中世の歴史を概観したうえで、教会建築、聖人崇敬・巡礼など、人々の日常に関わる具体的な事柄を取り上げます。それぞれにみられるキリスト教の影響や、中世の人々の考え方などを考察します。なお、とり上げる事柄は状況により変更する場合があります。		
<履修条件> 特にありません		
<授業計画>  第1回 ヨーロッパ、中世、西暦について 第2回 中世前期のヨーロッパ社会とキリスト教 第3回 中世中期～後期のヨーロッパ社会とキリスト教 第4回 修道院 第5回 教会建築 第6回 聖人崇敬・巡礼 第7回 農村の生活 第8回 都市の成立と発展 第9回 結婚・家族・衣食住 第10回 教会暦と時間 第11回 死生観と救貧制度 第12回 ユダヤ人 第13回 病気と医療 第14回 知の復興と12世紀ルネサンス 第15回 ヨーロッパ中世の「世界」		
<準備学習等の指示> 配付したプリントを見るなど前回の復習をしていただくことが望ましいです。		
<テキスト> 指定しません。プリントを配付します。		
<参考書・参考資料等> 神崎忠昭『ヨーロッパの中世』（慶應義塾大学出版会、2015年）。 堀越宏一・甚野尚志編著『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』（ミネルヴァ書房、2013年）。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業の中で何度か復習を兼ねた練習問題を行います。そこでは、授業の内容について理解したことを自分のことばで、可能な限りの確かな文章表現を用いて書くことが重要となります。それは歴史学に限らず、学問することの基本であり、「共通評価指標」の①と②に関連します。練習問題への取り組みの他、出席状況、授業への参加状況により総合的に評価します。		

学際基礎科目・社会科学系		
社会史 b	早川 朝子	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 特にありません。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 宗教改革を中心に近世ヨーロッパの歴史と社会について学びます。		
<到達目標> 宗教改革の経過とそれがヨーロッパ社会に及ぼした影響についての理解を深める。 ヨーロッパの近世史を学ぶうえで重要となる概念を習得する。		
<授業の概要> ルネサンスと宗教改革を経て「近代」の幕が開いたと言われてきました。このような捉え方は相対化されつつありますが、プロテスタントを誕生させた宗教改革が、ヨーロッパやキリスト教の歴史において重要な出来事であることに変わりはありません。この授業では、中世の時代にすでに起きていた教会改革を求める動きを概観したうえで、ドイツにおける宗教改革の展開、宗教改革が社会に及ぼした影響、他地域へ広まった宗教改革について学びます。ルネサンスの近代的な側面と、近世社会に依然としてみられた非科学的な側面についてもみていきます。なお、授業の各回で扱う内容は状況により変更する場合があります。		
<履修条件> 特にありません。		
<授業計画>  第1回 ルネサンス 第2回 中世末期のヨーロッパ社会 第3回 中世中期の教会改革運動と異端 第4回 中世後期の教会改革運動と異端 第5回 マルティン・ルターと宗教改革 第6回 ドイツにおける宗教改革の経過 第7回 宗教改革の影響：都市騒擾・農民戦争 第8回 宗教改革思想の伝達：木版画 第9回 宗教改革を経た後の社会：信仰の分裂と改暦 第10回 ウルリヒ・ツヴィングリとスイスにおける宗教改革 第11回 再洗礼派の誕生とアーミッシュ 第12回 ジャン・カルヴァンの宗教改革とフランスの宗教戦争 第13回 イングランドにおける宗教改革 第14回 終末論 第15回 占星術		
<準備学習等の指示> 配付したプリントを見るなど前回の復習をしていくことが望ましいです。		
<テキスト> 指定しません。プリントを配付します。		
<参考書・参考資料等> ローランド・ベイントン著、出村彰訳『宗教改革史』（新教出版社、2017年）。 ティム・ダウリー著、青木義紀訳『地図で学ぶ宗教改革』（いのちのことば社、2017年）。 中村賢二郎他編訳『原典宗教改革史』（ヨルダン社、1976年）。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業の中で何度か復習を兼ねた練習問題を行います。そこでは、授業の内容について理解したことを自分のことばで、可能な限りの確かな文章表現を用いて書くことが重要となります。それは歴史学に限らず、学問することの基本であり、「共通評価指標」の①と②に関連します。練習問題へのとり組みの他、出席状況、授業への参加状況により総合的に評価します。		

学際基礎科目・社会科学系		
法と人権 1 法学概論	松田 浩道	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<b>&lt;授業のテーマ&gt;</b> 牧師を志す皆さんと一緒に、キリスト教思想の観点から「法と人権」に関する文献を読んでいこうと思います。あわせて、映画や新聞記事などを利用しつつ、現代社会で実際に生じている問題と「法と人権」、そしてキリスト教思想との関連を考えます。		
<b>&lt;到達目標&gt;</b> 1. 法と人権に関して自分なりの理論的視座をもつ。 2. 現代社会で生じている問題とキリスト教思想との関連を理解する。 3. 以上を踏まえ、牧師を目指す上で有意義な視点を得る。		
<b>&lt;授業の概要&gt;</b> 受講生の関心にあわせて文献を選び、レジュメを作成して文献購読を行うことに加え、各自が気になった新聞記事等を持ち寄り、毎回の授業でディスカッションを行う予定です。		
<b>&lt;履修条件&gt;</b> 特にありません。		
<b>&lt;授業計画&gt;</b>  第1回：文献講読 (1) 人権の歴史的考察 第2回：文献講読 (1) 人権の理論 第3回：文献講読 (1) 人権の現代的課題 第4回：映画鑑賞とディスカッション 第5回：文献講読 (2) 正義の歴史的考察 第6回：文献講読 (2) 正義の理論 第7回：文献講読 (2) 正義の現代的課題 第8回：映画鑑賞とディスカッション 第9回：文献講読 (3) 自由の歴史的考察 第10回：文献講読 (3) 自由の理論 第11回：文献講読 (3) 自由の現代的課題 第12回：映画鑑賞とディスカッション 第13回：文献講読 (4) 平等の歴史的考察 第14回：文献講読 (4) 平等の理論 第15回：文献講読 (4) 平等の現代的課題  文献や映画は受講生の関心に応じて選びます。詳細は初回授業で受講生と相談の上、決める予定です。		
<b>&lt;準備学習等の指示&gt;</b> 毎日新聞を読む習慣をつけるようにしてください。海外の新聞記事にも目を配るようにすると、さらに良いでしょう。		
<b>&lt;テキスト&gt;</b> 森島豊『人権思想とキリスト教 日本の教会の使命と課題』（教文館、2016）		
<b>&lt;参考書・参考資料等&gt;</b> 日本カトリック大学キリスト教文化研究所連絡協議会 編『キリスト教と人権思想』（サンパウロ、2008） E.ブルナー 『正義：社会秩序の基本原則』（聖学院大学出版会、1999） P.リクール 『正義をこえて—公正の探求〈1〉』（法政大学出版局、2007） P.リクール 『道徳から応用倫理へ：公正の探求 2』（法政大学出版局、2013）		
<b>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;</b> 文献の報告 40% ディスカッションへの参加 30% 期末レポート 30%		

学際基礎科目・社会科学系		
法と人権 2 日本国憲法	松田 浩道	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校） <科目> 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> 日本国憲法	
<授業のテーマ> 牧師を志す皆さんと一緒に、キリスト教思想の観点から日本国憲法に関する文献を読んでいこうと思います。あわせて、映画や新聞記事などを利用しつつ、現代社会で実際に生じている問題と憲法、そしてキリスト教思想との関連を考えます。		
<到達目標> 1. 日本国憲法の歴史と理念に関して自分なりの視座をもつ。 2. 現代社会で生じている問題を憲法及びキリスト教思想の視点から分析できる。 3. 以上を踏まえ、牧師を目指す上で有意義な視点を得る。		
<授業の概要> 受講生の関心にあわせて文献を選び、レジュメを作成して文献講読を行うことに加え、各自が気になった新聞記事等を持ち寄り、毎回の授業でディスカッションを行う予定です。		
<履修条件> 特にありません。		
<授業計画>  第 1 回：文献講読（1）西洋の立憲主義 第 2 回：文献講読（1）アメリカの立憲主義 第 3 回：文献講読（1）日本の立憲主義 第 4 回：映画鑑賞とディスカッション 第 5 回：文献講読（2）憲法史：明治憲法 第 6 回：文献講読（2）憲法史：八月革命 第 7 回：文献講読（2）憲法史：日本国憲法 第 8 回：映画鑑賞とディスカッション 第 9 回：文献講読（3）平和主義の思想史 第 10 回：文献講読（3）平和主義の理念 第 11 回：文献講読（3）平和主義の課題 第 12 回：映画鑑賞とディスカッション 第 13 回：文献講読（4）人権の歴史 第 14 回：文献講読（4）人権の理念 第 15 回：文献講読（4）人権の現代的課題  文献や映画は受講生の関心に応じて選びます。詳細は受講生と相談の上、決める予定です。		
<準備学習等の指示> 毎日新聞を読む習慣をつけるようにしてください。海外の新聞記事にも目を配るようにすると、さらに良いでしょう。		
<テキスト> 特定のテキストは用いません。受講生の関心にあわせ、授業の中で文献リストを示す予定です。		
<参考書・参考資料等> 森島豊『人権思想とキリスト教 日本の教会の使命と課題』（教文館、2016）など。 詳細は、授業の中で紹介します。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 文献の報告 40% ディスカッションへの参加 30% 期末レポート 30%		

学際基礎科目・自然科学系		
現代の自然観 a	松原 郁哉	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 古典物理学とその発展にともなう自然観の変化を学ぶ。		
<到達目標> (1)科学的なものの見方を身につける。(2)ニュートンの力学等によって自然観がどのように変化したかを理解する。(3)ガリレオやニュートンとキリスト教の関わりを理解する。		
<授業の概要> 主に力学、熱学、波動の基礎とそれに関わる科学者について講義する。平行して簡単な実験を行う。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画>  第1回 力と運動(1): 速度と加速度 第2回 力と運動(2): 運動の法則 第3回 力と運動(3): 落下運動と放物運動 第4回 ガリレオの科学と宗教 第5回 力と運動(4): 等速円運動 第6回 力と運動(5): 万有引力 第7回 ニュートンの科学と宗教 第8回 熱とエネルギー(1): 温度と熱膨張 第9回 熱とエネルギー(2): 比熱と熱容量 第10回 熱とエネルギー(3): 可逆過程と不可逆過程 第11回 熱とエネルギー(4): エントロピー増大則 第12回 波動(1): 波の種類と特性 第13回 波動(2): 波の重ね合わせと干渉 第14回 波動(3): 波動方程式 第15回 力学、熱および波動のまとめ 定期試験		
<準備学習等の指示> 毎回復習をして、次回までに内容を理解しておくこと。		
<テキスト> プリントを担当者が準備する。		
<参考書・参考資料等> 授業の中で紹介する。		
<学生に対する評価(方法・基準)> 各授業の最後を書くレポートと期末に行う筆記試験で評価する。評価にあたっては、「共通評価指標(1)」記載項目中(2)、(4)を特に重視する。出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。		

学際基礎科目・自然科学系		
現代の自然観 b	松原 郁哉	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 現代物理学の考え方とその自然観を学ぶ。		
<到達目標> (1)現代物理学の考え方の特徴を説明できる。(2)量子力学等によって自然観がどのように変化したかを理解する。(3)ファラデーやアインシュタインと宗教の関わりについて理解する。		
<授業の概要> 電磁気学、相対論、量子力学とそれに関わる科学者について講義する。並行して簡単な実験を行う。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画>  第1回 電気と磁気(1): 電荷と電場 第2回 電気と磁気(2): 電流と磁場 第3回 電気と磁気(3): 変動する電磁場 第4回 電気と磁気(4): 電磁波 第5回 ファラデーの科学と宗教 第6回 相対論(1): ガリレオの相対性原理と光速度 第7回 相対論(2): アインシュタインの特殊相対性理論 第8回 相対論(3): アインシュタインの一般相対性理論 第9回 アインシュタインの科学と宗教 第10回 量子論(1): エネルギーの量子化 第11回 量子論(2): 粒子・波動の2重性 第12回 量子論(3): シュレディンガー方程式 第13回 量子論(4): ベルの不等式 第14回 素粒子と宇宙 第15回 電磁気、波動、相対論および量子論のまとめ 定期試験		
<準備学習等の指示> 毎回復習をして、次回までに内容を理解しておくこと。		
<テキスト> プリントを担当者が準備する。		
<参考書・参考資料等> 授業の中で紹介する。		
<学生に対する評価(方法・基準)> 各授業の最後を書くレポートと期末に行う筆記試験で評価する。評価にあたっては、「共通評価指標(1)」記載項目中(2)、(4)を特に重視する。出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。		

学際基礎科目・自然科学系		
食品と栄養 a	福家 眞也	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>特になし	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 食品の特徴を理解し、どのような食品の摂取が望まれるのかを知る。食中毒について理解を深める。		
<到達目標> 日常生活において、どのような食品を摂取するのが望ましいかを知る。食中毒の予防を知る。		
<授業の概要> プリントとパワーポイントにより、食料を取り巻く環境、食品の成分とその有効利用法、加熱、調理に伴う食品成分の変化などについて学ぶ。また、食品衛生についても学ぶ。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画>  第1回 食料を取り巻く環境、食習慣、飽食と飢餓 第2回 食品の摂取と食品群、和食、地中海型食生活とその特徴 第3回 水について、世界の水、水のおいしさ、冷蔵、氷温、 第4回 糖質について、糖質の特徴、炊飯とコメのおいしさ（炭水化物1） 第5回 多糖類、焼き芋のおいしさはどうして生ずるのか（炭水化物2） 第6回 油（脂質）の特徴、油のおいしさ、食後のデザート（脂質1） 第7回 話題の油、マーガリン、トランス酸、酸化（自動酸化）（脂質2） 第8回 アミノ酸とは、コラーゲンとは何か、（タンパク質1） 第9回 タンパク質特徴とそれを利用した食べ物、牛乳とチーズなど（タンパク質2） 第10回 野菜、果実とジャム、ペクチン、寒天 第11回 野菜、果実と色、褐変、醤油、みそなど 第12回 食品の熟成、肉、魚のうま味成分、 第13回 食品の色、香、臭い、あくについて 第14回 ノロウイルス、ブドウ球菌その他の細菌性食中毒（食品の選択と食中毒1） 第15回 動植物、魚介類の毒（食品の選択と食中毒2） 定期試験		
<準備学習等の指示> 前回の講義内容をよく理解しておくこと		
<テキスト> プリントの配布		
<参考書・参考資料等> 最新食品学（総論・各論）講談社（2016）。食品学I（食品の化学・物性と機能性）南江堂（2017）		
<学生に対する評価（方法・基準）> テスト・レポートなど		

学際基礎科目・自然科学系		
食品と栄養 b	福家 眞也	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>特になし	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 食物の消化吸収のメカニズム、長寿と食生活、食生活とメタボとの関連などについて		
<到達目標> 飽食の時代にあって、適切な食生活により健康長寿な生活を送るにはどうすればよいのかを学ぶ。		
<授業の概要> プリントの配布、パワーポイントにより栄養素の消化吸収、必要な栄養素、メタボリックシンドロームと予防法、食物アレルギー、食品とがんとその予防などについて知見を広める。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画>  第1回 食品の持つ3つの機能（栄養的、感覚的、機能的） 第2回 よく噛んで食べる意味、朝食と健康（時間栄養学）、生体リズム、概日リズムなど 第3回 糖質の栄養と PFC バランス、食物繊維と疾病（炭水化物） 第4回 肉類と魚の油の違い健康（脂質-1） 第5回 脂肪異常症と肥満予防（脂質-2） 第6回 タンパク質の価値、アミノ酸の機能性について（タンパク質-1） 第7回 タンパク質摂取の意味（オートファジー、クワシオルコル、疲労回復、タンパク質-2） 第8回 骨の形成と促進成分、骨粗鬆症、虫歯と予防 第9回 貧血と食物、その他のミネラルの働き 第10回 腸内細菌と健康、プロバイオテックス、プレバイオテックス） 第11回 酒と健康、フレンチパラドックス、プリン体 第12回 水溶性ビタミン 第13回 脂溶性ビタミン 第14回 食物とアレルギー、がん 第15回 老化と食品による予防など 定期試験		
<準備学習等の指示> 前回の講義内容を理解しておく		
<テキスト> プリントとパワーポイントによる		
<参考書・参考資料等> 栄養の教科書（新星出版社:2016）など		
<学生に対する評価（方法・基準）> テストとレポートなど		

学際基礎科目・情報科学系		
情報基礎	竹井 潔	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校） <科目> 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> 情報機器の操作	
<授業のテーマ> 学生が情報社会で生きていく力として、コンピュータやネットワークの知識を理解し、ワープロソフト・表計算ソフトの基本的なスキルを習得する。		
<到達目標> 学生がワープロソフト・表計算ソフト等の基本的スキルを習得し、大学及び卒業後にパソコンが活用できるスキルを習得する。		
<授業の概要> 学生がパソコンの基本知識やワープロソフト・表計算ソフトのスキルを習得し、情報社会で必要となる基本的な情報リテラシーを身に着ける。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画>  第1回 ガイダンス 第2回 コンピュータの歴史と構造 第3回 OSとアプリケーション 第4回 情報モラルとセキュリティ 第5回 ワープロソフトの基本操作、タイピング 第6回 ワープロソフトの活用 基本的書式設定 第7回 ワープロソフトの活用 ビジュアル要素 基本（フォントスタイル、書式等） 第8回 ワープロソフトの活用 ビジュアル要素 応用（Smart Art, 図形等） 第9回 ワープロソフトの活用 レイアウト設定、表作成 第10回 表計算ソフトの基本操作 第11回 表計算ソフトの活用 表作成 第12回 表計算ソフトの活用 表計算 第13回 表計算ソフトの活用 グラフの作成 第14回 表計算ソフトの活用 データベースの作成、データの並べ替え等 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> パソコンに慣れていない人はタイピングの練習をしておくこと。		
<テキスト> 授業中に指示する。		
<参考書・参考資料等> 定平誠『しっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト』 技術評論社		
<学生に対する評価（方法・基準）> 平常点（50%）、期末課題（50%）		

神学基礎科目 A		
キリスト教通論 I	須田 拓	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 学部1年生は必修	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 神学のある教会生活について学び、神学を学ぶための土台を形成する。		
<到達目標> 教会とは何か、信仰生活でなされていることにどのような意味があるのかについて、神学的に考えることができるようになる。		
<授業の概要> 教会生活について学ぶと共に、議論することを通して、神学的に考えるとはどのようなことであるかを学ぶ。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画>  第1回 オリエンテーション 第2回 「新しい伝道の時代へ」(はじめに) 第3回 「教会生活の鍵」 第4回 「伝道的教会と伝道的信仰」(前半) 第5回 「伝道的教会と伝道的信仰」(後半) 第6回 「洗礼」 第7回 「聖餐」(前半) 第8回 「聖餐」(後半) 第9回 「信仰告白と信仰生活」 第10回 「信仰告白と教会形成」 第11回 「祈りの意味」 第12回 「讃美歌の意味」(前半) 第13回 「讃美歌の意味」(後半) 第14回 「献金の意味」 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> テキストの該当箇所をよく読んでおき、積極的に議論に参加すること。		
<テキスト> 近藤勝彦『教会生活の要点』(第二版、東神大パンフレット38、2010年) 学生各自で用意すること		
<参考書・参考資料等> 特にないが、授業の中で必要に応じて指示する。		
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業での発表、議論への参加状況によって評価する。		

神学基礎科目 A		
キリスト教通論Ⅱ	須田 拓	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 学部1年生は必修	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> キリスト教信仰の基本的内容を確認しつつ、神学をする目的と意義とを理解する。		
<到達目標> 信仰の各項目について、神学的課題を理解しつつ、説明できるようになる。		
<授業の概要> 使徒信条および日本基督教団信仰告白の主要項目について、信仰内容を確認しつつ、どのような神学課題が考え得るか考察する。		
<履修条件> 原則としてキリスト教通論Ⅰを履修していること。		
<授業計画>  第1回 オリエンテーション・啓示について 第2回 聖書について 第3回 創造について 第4回 人間について 第5回 キリストについて(1) 受肉 第6回 キリストについて(2) 十字架と救済 第7回 キリストについて(3) 復活 第8回 聖霊について 第9回 教会について 第10回 終末について 第11回 三位一体について 第12回 選びについて 第13回 義認と聖化について 第14回 聖礼典について 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 授業で取り扱う信仰の項目について、聖書の該当箇所を探してよく読んでおくこと。		
<テキスト> 授業において、必要に応じて指示する。		
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況およびレポートによって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）記載項目中の①～③を特に重視する。		

神学基礎科目 A		
聖書通論 1 旧約通論	田中 光	<担当形態> 単独
前期・2 単位	<登録条件> 学部 1 年生	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 旧約聖書の基礎知識		
<到達目標> 旧約聖書を実際読みながら、それに関する基礎的な知識を身につける。		
<授業の概要> 担当教員が、旧約聖書 39 巻についての総論的説明をし、適宜、実際に聖書テキストのよく知られた箇所を皆で読む。また、授業の中では、旧約聖書各巻にまつわる解釈の歴史に関する諸問題、また聖書学に関する諸問題についても最低限の説明をする。		
<履修条件>		
<授業計画>  第 1 回 オリエンテーション&イントロダクション 第 2 回 カノン（正典）としての旧約聖書 第 3 回 モーセ五書① 創世記 第 4 回 モーセ五書② 出エジプト記 第 5 回 モーセ五書③ レビ記、民数記 第 6 回 モーセ五書④+申命記的歴史著作① 申命記、ヨシュア記、士師記 第 7 回 申命記的歴史著作② サムエル記、列王記 第 8 回 歴代誌的歴史著作 歴代誌、エズラ・ネヘミヤ記 第 9 回 諸文学① ヨブ記、箴言、コヘレトの言葉 第 10 回 諸文学② 雅歌、詩編 第 11 回 諸文学③+預言書① ルツ記、エステル記、イザヤ書 第 12 回 預言書② エレミヤ書、哀歌 第 13 回 預言書③ エゼキエル書、ダニエル書 第 14 回 預言書④ 十二小預言書① ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデア書、ヨナ書、ミカ書 第 15 回 預言書⑤ 十二小預言書② ナホム書、ハバクク書、ゼファニア書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書		
<準備学習等の指示> 次回の授業までに、該当する旧約聖書の書物を自分で読むこと。		
<テキスト> 聖書（聖書協会共同訳）		
<参考書・参考資料等> A.E.マクグラス（本多峰子訳）『旧約新約聖書ガイド』教文館		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と、期末の小レポートによって評価する。レポートの課題は夏休み前に提示する。		

神学基礎科目 A		
聖書通論 2 旧約時代史	田中 光	<担当形態> 単独
後期・2 単位	<登録条件> 学部 1 年生	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 旧約聖書に反映されたイスラエルの民の歴史の探究		
<到達目標> 上記の歴史を外観的に学ぶことで、旧約聖書の背景となっている歴史の基礎を身につけること		
<授業の概要> 担当教員の作成したレジュメに基づいて講義を行う。各回に担当者を定め、テキストの要約を発表して頂く。		
<履修条件>		
<授業計画>  第 1 回 オリエンテーション&イントロダクション 第 2 回 聖書時代以前の古代オリエント世界とパレスチナ地方の地理 第 3 回 カナン定着以前の時代：族長時代 第 4 回 出エジプト 第 5 回 カナン定着 第 6 回 統一王国の成立と分裂 第 7 回 北王国の歴史：イエフ王朝まで 第 8 回 北王国の滅亡と南ユダ王国の歴史① 第 9 回 南ユダ王国の歴史② 第 10 回 バビロン捕囚とベルシャ時代① 第 11 回 バビロン捕囚とベルシャ時代②：預言者から見た捕囚 第 12 回 ヘレニズム時代 第 13 回 ローマ時代 第 14 回 まとめ+中近東文化センター見学（予定） 第 15 回 知識の確認 定期試験		
<準備学習等の指示> 学生はテキスト（以下参照）を予め読んだ上で授業に臨むこと。それと共に、各回に担当者を決め、テキストの内容の要約を発表して頂く。		
<テキスト> 樋口進『よくわかる旧約聖書の歴史』教団出版局		
<参考書・参考資料等> マルティン・メツガー（山我哲雄訳）『古代イスラエル史』新地書房、P.K.マッカーター・ジュニア他（池田裕、有馬七郎訳）『最新・古代イスラエル史』ミルトス。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業のための準備の度合い、各回の発表、定期試験によって評価を行う。		

神学基礎科目 A		
聖書通論 3 新約通論・歴史	焼山 満里子	<担当形態> 単独
後期・2 単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 新約聖書への理解を深め、新約聖書 27 文書の諸課題を整理し、より専門的、神学的学びへの準備をする。		
<到達目標> 新約聖書 27 文書の特徴とそれぞれの時代背景について議論できる。		
<授業の概要> 毎回一文書とその時代背景について聖書、参考文献をもとに議論する。		
<履修条件> 一年次必修。		
<授業計画>  第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 パウロの手紙総論、テサロニケの信徒への手紙一、二 第 3 回 コリントの信徒への手紙一 第 4 回 コリントの信徒への手紙二 第 5 回 ガラテヤの信徒への手紙 第 6 回 ローマの信徒への手紙 第 7 回 フィリピの信徒への手紙、フェレモンへの手紙 第 8 回 コロサイ、エフェソの信徒への手紙 第 9 回 ヘブライ人への手紙 第 10 回 マルコによる福音書 第 11 回 マタイによる福音書 第 12 回 ルカによる福音書 第 13 回 ヨハネによる福音書 第 14 回 ヨハネの黙示録 第 15 回 まとめ 定期試験		
<準備学習の指示> 授業計画にしたがって予習してくる。		
<テキスト> 聖書、『聖書時代史新約篇』岩波現代文庫、2003 年。		
<参考書・参考資料等> G・タイセン『新約聖書—歴史・文学・宗教』教文館、2003 年		
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の小テスト、期末試験、ブックレポート。		

神学基礎科目 B		
神学通論	神代 真砂実	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 学部2年生と3年次編入生は必修	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 神学とはどのような学問であるか、どのようになされてきたのか、どのような思考を求められているのかを学ぶ。		
<到達目標> ①神学と教会との関係、②神学の歴史、③神学の思考のかたちをそれぞれ理解することを通して、伝道者として神学を学ぶ姿勢を身に着ける。		
<授業の概要> テーマに掲げた内容について、さらには、神学の学問領域全体の概観を講義していく。		
<履修条件> 学部2年生以上であること。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 序——この授業の目的と課題 第1部 キリスト者と神学者 I. 霊的な務め・召命 第2回 II. 神学と教会奉仕の準備／III. 神学と信仰の従順 第3回 第2部 キリスト教神学 I. 「神学」という言葉の意味／II. キリスト教神学の従来の意味 第4回 III. 啓蒙主義以降の神学的思考の変化 第5回 IV. 近代神学(1) ——シュライエルマッハーの神学の概要 第6回 IV. 近代神学(2) ——シュライエルマッハーの神学への評価 第7回 V. 近代神学の歩み 第8回 VI. 新たな展開(1) ——「近代神学」の「失敗」 第9回 VI. 新たな展開(2) ——カール・バルトおよび「新しい神学」 第10回 VI. 新たな展開(3) ——神の言葉の神学 第11回 VII. 神学と教会 第12回 VIII. 神学の「学問的」性格(1) ——「学問的神学」とは 第13回 VIII. 神学の「学問的」性格(2) ——神学と教会 第14回 IX. 神学諸科の分類 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> このクラスでは事前準備よりも復習が重要になる。また、耳慣れない言葉・概念・論理に出会うことになるので、授業中に積極的に質問すること。		
<テキスト> 特になし。		
<参考書・参考資料等> 神代・川島・西原・深井・森本、『神学とキリスト教学』(キリスト新聞社、2009年)；フロマートカ、『神学入門』、平野清美訳(新教出版社、2012年)。		
<学生に対する評価(方法・基準)> 学期中の小課題および期末のレポートの総合による。評価にあたっては、共通評価指標の①～④の内容を重視する。		

現代語科目必修・外国語科目必修		
英語 I A a	田中 光	<担当形態> 単独
前期・1単位	<登録条件> 学部1年生は必修	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 英文法		
<到達目標> 基礎的英語力の向上		
<授業の概要> 基礎的な文法の知識を習得するための学びを、テキストを用いて行う。各授業の最初では、簡単なウォーミング・アップ（英語の聖書を読むなど）を行う。		
<履修条件>		
<授業計画>  第1回 オリエンテーション、to 不定詞 第2回 to なし不定詞 第3回 分詞 第4回 動名詞 第5回 動名詞と不定詞 第6回 時制 第7回 未来時の表現 第8回 進行形 第9回 完了形 第10回 態 第11回 仮定法（基礎） 第12回 仮定法（条件文その他） 第13回 比較 第14回 否定 第15回 名詞		
<準備学習等の指示> 復習をしっかりとやること。		
<テキスト> Toshinori Tomishige, <i>A Communicative Grammar of English</i> (Nan'un-do).		
<参考書・参考資料等> 『徹底例解 ロイヤル英文法』（旺文社）など、少し厚めの英文法解説書と併せてテキストと取り組むと、より理解が深まる。また、英語の聖書（できれば New International Version）があれば望ましい。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の練習問題の達成度、授業への参加度や貢献度によって評価する。		

現代語科目必修・外国語科目必修		
英語 I A b	田中 光	<担当形態> 単独
後期・1単位	<登録条件> 学部1年生は必修	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 英文法		
<到達目標> 基礎的英語力の向上		
<授業の概要> 基礎的な文法の知識を習得するための学びを、テキストを用いて行う。各授業の最初では、簡単なウォーミング・アップ（英語の聖書を読むなど）を行う。		
<履修条件>		
<授業計画>  第1回 代名詞（基礎） 第2回 代名詞（形式主語、慣用表現その他） 第3回 形容詞 第4回 冠詞 第5回 数量詞 第6回 副詞 第7回 動詞 第8回 法助動詞（will, shall, would, should） 第9回 法助動詞（can, may, must その他） 第10回 場所の前置詞 第11回 時間の前置詞 第12回 その他の前置詞 第13回 接続詞 第14回 関係代名詞 第15回 関係副詞		
<準備学習等の指示> 前期に同じ		
<テキスト> 前期に同じ		
<参考書・参考資料等> 前期に同じ		
<学生に対する評価（方法・基準）> 前期に同じ		

現代語科目必修・外国語科目必修		
英語 I B a	須田 拓	<担当形態> 単独
前期・1単位	<登録条件> 特になし	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語読解力を養成する。		
<到達目標> 英語の神学用語に慣れ、初歩的な神学的文献が読めるようになること。		
<授業の概要> 英語でなされた説教を読むことで、基本的な神学用語に慣れると共に、英語の読解力を養成する。		
<履修条件> 特になし		
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 テキスト講読 Prophets and Apostles pp.31-32</p> <p>第3回 テキスト講読 Prophets and Apostles pp.33-34</p> <p>第4回 テキスト講読 Prophets and Apostles pp.35-36</p> <p>第5回 テキスト講読 The Worldly Christ pp.37-38</p> <p>第6回 テキスト講読 The Worldly Christ pp.39-40</p> <p>第7回 テキスト講読 The Worldly Christ pp.41-42</p> <p>第8回 中間総括</p> <p>第9回 テキスト講読 Ascension and the Perfect Sacrifice pp.145-146</p> <p>第10回 テキスト講読 Ascension and the Perfect Sacrifice pp.147-148</p> <p>第11回 テキスト講読 Ascension and the Perfect Sacrifice pp.149-150</p> <p>第12回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.127-128</p> <p>第13回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.129-130</p> <p>第14回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.131-132</p> <p>第15回 まとめ</p>		
<準備学習等の指示> テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。		
<テキスト> Colin E. Gunton, <i>The Theologian as Preacher</i> , London and New York: T&T Clark, 2007 テキストは担当者が用意する。		
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況及び小テストで評価する。		

現代語科目必修・外国語科目必修		
英語 I B b	須田 拓	<担当形態> 単独
後期・1単位	<登録条件> 特になし	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語読解力を養成する。		
<到達目標> 英語の神学用語に慣れ、初歩的な神学的文献を読むことができるようになる。		
<授業の概要> 英語の神学的文章に触れることで、神学書を読むための英語読解力を養成する。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画>  第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト講読 pp.40-41 第3回 テキスト講読 pp.41-42 第4回 テキスト講読 pp.43-44 第5回 テキスト講読 pp.44-45 第6回 テキスト講読 pp.46-47 第7回 テキスト講読 pp.47-48 第8回 中間総括 第9回 テキスト講読 pp.49-50 第10回 テキスト講読 pp.50-51 第11回 テキスト講読 pp.52-53 第12回 テキスト講読 pp.54-55 第13回 テキスト講読 pp.56-57 第14回 テキスト講読 pp.58-59 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。		
<テキスト> Alistair McGrath, <i>Faith and Creeds</i> (Christian Belief for Everyone), London: SPCK, 2013 テキストは担当者が用意する。		
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況及び小テストで評価する。		

現代語科目必修・外国語科目必修		
ドイツ語 I A a (1,2) (初級)	長山 道	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 学部1年生は必修。ドイツ語 IAb と通年で登録することが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> ドイツ語の初級文法を身につける。		
<到達目標> 初歩的なテキストを、辞書と文法書を参照しながら読めるようになる。		
<授業の概要> ドイツ語の文法を学ぶ。練習問題を通して読解力を養成する。		
<履修条件> ドイツ語未習であることが望ましい。		
<授業計画> 1 オリエンテーション、アルファベット、発音 2 あいさつ表現、季節・月・曜日、国名 3 動詞の現在人称変化(1) 4 定動詞の位置と文の構造 5 名詞の性と格変化、冠詞、名詞の複数形 6 定冠詞類と不定冠詞類、否定、男性弱変化名詞 7 動詞の現在人称変化(2)、不定代名詞、数詞 8 人称代名詞、疑問代名詞 9 前置詞の格支配 10 話法の助動詞 11 未来形 12 形容詞の格変化 13 動詞の3基本形 14 過去人称変化 15 完了形 16 過去完了形、未来完了形、話法の助動詞の完了形 17 分離動詞 18 命令形 19 再帰代名詞 20 再帰動詞 21 接続詞 22 副文 23 zu 不定詞句、非人称動詞 24 形容詞の比較 25 指示代名詞、関係代名詞 26 受動文、分詞 27 接続法第1式 28 接続法第2式 29 接続法の用法 30 総括 定期試験		
<準備学習等の指示> 課された練習問題を必ず解いてくること。初回に指示する独和辞典と単語カードを、第2回以降持参すること。		
<テキスト> Ookawa Isamu / Tsuneki Kentarou / Ishizawa Masato, <i>Deutsche Grammatik für das Leseverständnis</i> , Ikubundo, 2013. 学生各自で購入すること。		
<参考書・参考資料等> 中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』白水社、 <sup>15</sup> 2013年。『クラウン独和辞典第5版』三省堂、2014年。		
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加度と学期末の筆記試験によって評価する。		

現代語科目必修・外国語科目必修		
ドイツ語 I A b (1, 2) (初級)	長山 道	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 学部1年生は必修。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 平易なテキストを読みながら、初級文法を定着させる。		
<到達目標> 神学用語に慣れ、初歩的な神学書が読めるようになる。		
<授業の概要> テキストを和訳する。初級文法を復習する。		
<履修条件> 初級文法を一とおり終えていること。		
<授業計画> 1 オリエンテーション 2 S. 1 3 S. 2 4 S. 3 5 S. 4 6 S. 5 7 S. 6 8 S. 7 9 S. 8 10 S. 9 11 Reformationstag 12 S. 10 13 S. 11 14 S. 12 15 S. 13 16 S. 14 17 S. 15 18 S. 16 19 S. 17 20 S. 18 21 S. 19 22 Advent, Weihnachten, Epiphantias 23 ドイツ語すごろく 24 S. 20 25 S. 21 26 S. 22 27 S. 23 28 S. 24 29 S. 25 30 総括 定期試験		
<準備学習等の指示> 必ず予習してくる。独和辞典、単語カードを持参すること。		
<テキスト> Heinrich Schlier Über die christliche Existenz, 同学社、1975年。学生各自で入手すること。		
<参考書・参考資料等> 授業内で必要に応じて指示する。		
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加度と学期末の筆記試験によって評価する。		

現代語科目必修・外国語科目必修		
ドイツ語 I B a (コミュニケーション)	福嶋 揚	<担当形態> 単独
前期・1単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目 (中学校及び高等学校) <科目> 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> 外国語コミュニケーション	
<授業のテーマ> 神学生にとって有意義な、ドイツ語による「キリスト教的コミュニケーション」を学ぶ。		
<到達目標> プロテスタントの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語の表現を用いる力を習得する。		
<授業の概要> 様々なテキスト、音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。また平易なドイツ語テキストを併せて読むことにしたい。		
<履修条件> 学部 2 年に履修。		
<授業計画>  第 1 回 主の祈り、ニカイア信条、使徒信条 第 2 回 十戒その他の重要な戒め 第 3 回 詩編に基づく祈り 第 4 回 聖書に基づく賛美の祈り 第 5 回 子供と共に祈る 第 6 回 日常の中の祈り 第 7 回 日曜日から土曜日までの日ごとの祈り 第 8 回 その他の様々な場面での祈り 第 9 回 ローズンゲン(日々の聖句集)の使い方 第 10 回 カテキズム(ルター小教理問答) 第 11 回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、序論と第一部) 第 12 回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部前半) 第 13 回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部後半) 第 14 回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部前半) 第 15 回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部後半) 定期試験		
<準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。		
<テキスト> ドイツ語訳聖書、ドイツ語のローズンゲン、ドイツ語賛美歌集等。必要に応じてコピーを配布。		
<参考書・参考資料等> 必要に応じて配布する。		
<学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、積極的な授業参加、期末試験によって評価する。		

現代語科目必修・外国語科目必修		
ドイツ語 I B b (コミュニケーション)	福嶋 揚	<担当形態> 単独
後期・1単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目 (中学校及び高等学校)	
	<科目> 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 外国語コミュニケーション	
<授業のテーマ> 前期に引き続いて、現代も用いられる生きたドイツ語のキリスト教的な表現を出来るだけ幅広く学ぶ。		
<到達目標> プロテスタントの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語の表現を用いる力を習得する。		
<授業の概要> 前期に引き続いて、様々なテキストや音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。		
<履修条件> 学部 2 年に履修。		
<授業計画>		
第 1 回 礼拝の言葉		
第 2 回 アンダハトの言葉(家庭で)		
第 3 回 アンダハトの言葉(教会暦にあわせて)		
第 4 回 賛美歌のテキストに学ぶ(アドベント)		
第 5 回 賛美歌のテキストに学ぶ(クリスマス)		
第 6 回 賛美歌のテキストに学ぶ(受難節)		
第 7 回 賛美歌のテキストに学ぶ(復活祭)		
第 8 回 賛美歌のテキストに学ぶ(昇天祭)		
第 9 回 賛美歌のテキストに学ぶ(ペンテコステ)		
第 10 回 賛美歌のテキストに学ぶ(その他の様々な季節、テーマ)		
第 11 回 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 Feiert Jesus から)		
第 12 回 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 In Love with Jesus から)		
第 13 回 ラジオ講演を聞く(カール・バルト)		
第 14 回 礼拝説教を聞く(カール・バルト)		
第 15 回 礼拝説教を聞く(現代の説教例から)		
定期試験		
<準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。		
<テキスト> 必要に応じて配布する。		
<参考書・参考資料等> 必要に応じて配布する。		
<学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、積極的な参加、および期末試験によって評価する。		

現代語科目選択		
英語基礎 a	越智 さやか	<担当形態> 単独
前期・1単位	<登録条件> 課された者が通年で履修する	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 英文法・英単語		
<到達目標> 中学卒業程度の英文法・英単語の知識を習得する。		
<授業の概要> 中学卒業程度の英語の知識を習得する。毎回、小テスト(文法の復習と単語)を行う。文法テキストでの学びを中心に、歌、エッセイ、スピーチも行う。		
<履修条件> 特になし		
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション、品詞、人称代名詞  第2回 肯定文・否定文・疑問文  第3回 文型  第4回 時制  第5回 完了形  第6回 助動詞  第7回 受動態  第8回 不定詞  第9回 動名詞  第10回 分詞  第11回 関係代名詞  第12回 関係副詞  第13回 比較  第14回 接続詞  第15回 まとめ</p>		
<準備学習等の指示> 毎回の復習を行い、単語を覚えて小テストに備えること。		
<テキスト> 金谷憲 総合監修『総合英語 One』アルク 木村達哉『夢をかなえる英単語新ユメタン⑩』		
<参考書・参考資料等> 特になし		
<学生に対する評価(方法・基準)> 小テスト、エッセイ、スピーチ、まとめによる。		

現代語科目選択		
英語基礎 b	越智 さやか	<担当形態> 単独
後期・1単位	<登録条件> 課された者が通年で履修する	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 英文法・英単熟語		
<到達目標> 高校卒業程度の英単語・熟語・文法の知識を習得する。		
<授業の概要> 『英語基礎 a』では扱わなかった内容を扱い、高校卒業程度の英語の知識を習得する。毎回、小テスト(文法の復習と単熟語)を行う。文法テキストでの学びを中心に、歌、暗唱、暗写も行う。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画>  第1回 文の種類・文型 第2回 時制 第3回 完了形 第4回 助動詞 第5回 受動態 第6回 不定詞 第7回 動名詞 第8回 分詞 第9回 関係代名詞 第10回 関係副詞 第11回 比較 第12回 仮定法 第13回 疑問文 第14回 復習 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 毎回の復習を行い、単熟語を覚えて小テストに備えること。		
<テキスト> 金谷憲 総合監修『総合英語 One』 木村達哉『夢をかなえる英単語新ユメタン①』『夢をかなえる英熟語ユメジューク』		
<参考書・参考資料等> 特になし		
<学生に対する評価(方法・基準)> 小テスト、暗唱、暗写、まとめによる。		

現代語科目選択	
日本語基礎 a	後藤 倫子
＜担当形態＞ 単独	
前期・1単位	＜登録条件＞ 課された者が通年で履修する
教職課程における要件・区分等	該当せず
＜授業のテーマ＞ 時事問題を中心に読解力を、レポートの書き方を中心に書く力の基礎を強化する	
＜到達目標＞ まとまりのある文章を読み、自分の言葉でまとめることができるようになる。 話し言葉と書き言葉の違いを把握し、使い分けることができるようになる。	
＜授業の概要＞ 授業時間の前半は、現代日本における時事問題や文化に関する記事を毎回一つ取り上げ読む。その内容を理解し、自分の言葉でまとめる作業を行う。後半は、レポートを中心としたアカデミック・ライティングのための語彙力を意識し、話し言葉と書き言葉を自在に使い分けられる力を養う。	
＜履修条件＞ 日本語を母語としない学生対象	
<p>＜授業計画＞</p> <p>第1回 単語を言い換える 第1課 書き言葉</p> <p>第2回 単語を言い換える 第2課 和語と漢語</p> <p>第3回 単語を言い換える 第3課 名詞化</p> <p>第4回 単語を言い換える 第4課 ジャンルによる使い分け</p> <p>第5回 単語を言い換える 総合問題</p> <p>第6回 意味を読み取って言い換える 第1課 長い文／複数の文</p> <p>第7回 意味を読み取って言い換える 第2課 上位概念</p> <p>第8回 意味を読み取って言い換える 第3課 簡潔な表現</p> <p>第9回 意味を読み取って言い換える 第4課 含意／解釈</p> <p>第10回 意味を読み取って言い換える 総合問題</p> <p>第11回 目的に応じた形式で書く 実践問題 1 文献を引用する</p> <p>第12回 目的に応じた形式で書く 実践問題 2 発表スライドを作成する</p> <p>第13回 目的に応じた形式で書く 実践問題 3 インタビューの内容をレポートに書く</p> <p>第14回 実践 1 レポート作成</p> <p>第15回 実践 2 レポート発表 まとめ</p>	
＜準備学習等の指示＞ 休まないこと。毎回の積み重ねが日本語力強化につながる。復習をすること。	
＜テキスト＞ 『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク（プリントで配付）	
＜参考書・参考資料等＞	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 学期中の課題とレポート 70%、授業参加度 30% 欠席が 1/3 を超えた者は成績がつかない。	

現代語科目選択	
日本語基礎 b	後藤 倫子
<担当形態> 単独	
後期・1単位	<登録条件> 課された者が通年で履修する
教職課程における要件・区分等	該当せず
<授業のテーマ> さまざまなジャンルのニュースから読解力を養い、レポートの書き方を中心に書く力を強化する	
<到達目標> まとまりのある文章を読み、既存の知識と照らし合わせ、自分の考えをまとめることができるようになる。 レポートや論文にふさわしい文法・文型、文字・表記、語彙、文章を使い分けることができるようになる。	
<授業の概要> 授業時間の前半は、いろいろなジャンルの記事を毎回一つ取り上げ読む。その内容を理解し、自分の言葉でまとめる作業を行う。後半は、レポートや論文作成に役立つ知識の強化を、添削作業を通じて行う。学期後半には実際にレポートを作成する。	
<履修条件> 日本語を母語としない学生対象	
<授業計画>  第1回 (文法) 自動詞・他動詞・受身 第2回 (文型) 文末表現の調整 第3回 (語彙) 辞書の危険性 第4回 (意味) 専門用語の選び方 第5回 (文章) 文の長さを読みやすさ 第6回 (文章) 指示詞による文の接続 第7回 レポートの基本的な書き方 意見と事実 第8回 レポートの基本的な書き方 複雑な内容の整理 第9回 立場のある文章の書き方 第10回 先生宛のEメールの書き方 第11回 思考力を育てる① 詩を描く 第12回 思考力を育てる② 自分の見方を知る 第13回 思考力を育てる③ 発表 第14回 実践1 レポート作成 第15回 実践2 レポート発表 まとめ	
<準備学習等の指示> 休まないこと。毎回の積み重ねが日本語力強化につながる。復習をすること。	
<テキスト> 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク (プリントで配付)	
<参考書・参考資料等>	
<学生に対する評価(方法・基準)> 学期中の課題とレポート70%、授業参加度30% 欠席が1/3を超えた者は成績がつかない。	

現代語科目選択・外国語科目選択		
英語Ⅱ a	高砂 民宣	<担当形態> 単独
前期・1単位	<登録条件> 学期ごとの登録可	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> ヨハネ福音書に関して英文で記された注解書を読み、内容について考察する。		
<到達目標> ①英文の注解書に慣れ親しむ。②英文の読解能力を高める。③神学用語や慣用表現を習得する。		
<授業の概要> 英文の注解書を読みつつ、神学用語等についても解説をし、福音書記者の意図について考察する。		
<履修条件> おもに学部2年生が対象。		
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 Unit 8: John 14-17 The Farewell Sayings (p. 90)より。  第2回 Jesus' Departure and His Promise (pp.90-93)  第3回                    "  第4回 The Paraclete (pp.93-94)  第5回 Abide in Me (pp.94-96)  第6回                    "  第7回 The Love Commandment (pp.96-97)  第8回                    "  第9回 Unity among Believers (p.98)  第10回 The Importance of Belief in Jesus (pp.98-99)  第11回 Opposition (pp.99-100)  第12回                    "  第13回 Jesus' Self-Disclosure in the Farewell Speeches (pp.101-102)  第14回                    "  第15回 Questions for Reflection (p. 103)  定期試験</p>		
<準備学習等の指示> 毎回該当する箇所を予習して出席すること。		
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>Matson, Mark A., <u>John</u>, Westminster John Knox Press, Louisville, Kentucky, 2002. (担当者が用意する)</p>		
<参考書・参考資料等> 授業の中で教員が指示する。		
<p>&lt;学生に対する評価(方法・基準)&gt; 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。  ※出席が2/3に満たない者は、評価の対象としない。</p>		

現代語科目選択・外国語科目選択		
英語Ⅱb	高砂 民宣	<担当形態> 単独
後期・1単位	<登録条件> 学期ごとの登録可	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> ヨハネ福音書に関して英文で記された注解書を読み、内容について考察する。		
<到達目標> ①英文の注解書に慣れ親しむ。②英文の読解能力を高める。③神学用語や慣用表現を習得する。		
<授業の概要> 英文の注解書を読みつつ、神学用語等についても解説をし、福音書記者の意図について考察する。		
<履修条件> おもに学部2年生が対象。		
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 Unit 9: John 18-19 The Trial and Crucifixion of Jesus (p.104)より。  第2回 The Arrest of Jesus (18:1-14) pp.105-107  第3回                                 "  第4回                                 "  第5回 Peter' s Denial (18:15-27) pp.107-108.  第6回 Pilate' s Trial (18:28-19:16) pp.108-111.  第7回                                 "  第8回                                 "  第9回 " The Jews" pp.111-112.  第10回                                "  第11回 The Crucifixion (19:17-37) pp.112-114.  第12回                                "  第13回 Jesus' Burial (19:38-42) pp.114-115  第14回                                "  第15回 Questions for Reflection p.115.  定期試験</p>		
<準備学習等の指示> 毎回該当する箇所を予習して出席すること。		
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>Matson, Mark A., <u>John.</u>, Westminster John Knox Press, Louisville, Kentucky, 2002. (担当者が用意する)</p>		
<参考書・参考資料等> 授業の中で教員が指示する。		
<p>&lt;学生に対する評価(方法・基準)&gt; 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。  ※出席が2/3に満たない者は、評価の対象としない。</p>		

現代語科目選択・外国語科目選択		
英語実践 I	ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
後期・1単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> 外国語コミュニケーション	
<授業のテーマ> 日常的に英語を使うこと。		
<到達目標> 英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。		
<授業の概要> 英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。ビデオを使用することもある。		
<履修条件>		
<授業計画>  英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。  第1回           Orientation 第2回           Harmony 第3回           Modesty 第4回           Reserve 第5回           Place, Situation 第6回           Lobbying 第7回           Form 第8回           Discipline 第9回           Craft 第10回          Way, Road 第11回          Reason 第12回          The Way of the Warrior 第13回          Training 第14回          Seeking the truth 第15回          Final Evaluation		
<準備学習等の指示> テレビやパソコンで英会話を聞く。		
<テキスト> 必要に応じて教室で配布する。		
<参考書・参考資料等> 英和辞書		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席、ディスカッションの参加、ミニ・テスト、最終評価 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。		

現代語科目選択・外国語科目選択	
英語実践Ⅱ	ウェイン・ジャンセン
後期・1単位	<担当形態> 単独
	<登録条件>
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> 外国語コミュニケーション
<授業のテーマ> 日常的に英語を使うこと。	
<到達目標> 英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。	
<授業の概要> 英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。ビデオを使用することもある。	
<履修条件>	
<授業計画>  英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。  第1回           Orientation 第2回           Feelings 第3回           Personal Feelings 第4回           Obligation, Duty 第5回           Social Debt 第6回           Inside and Outside, Social Circle 第7回           True Feelings and Facade 第8回           Loyalty 第9回           Hierarchy 第10回          Service 第11回          Filial Piety 第12回          Barriers 第13回          The Gods 第14回          Purification 第15回          Final Evaluation	
<準備学習等の指示> テレビやパソコンで英会話を聞く。	
<テキスト> 必要に応じて教室で配布する。	
<参考書・参考資料等> 英和辞書	
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席、ディスカッションの参加、ミニ・テスト、最終評価 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。	

現代語科目選択・外国語科目選択		
ドイツ語Ⅱ a	福嶋 揚	<担当形態> 単独
前期・1単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> ドイツ語神学書の講読		
<到達目標> 現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読む。ユンゲルは本書において、二十世紀のエキュメニズムの動向をふまえつつ、宗教改革の伝統である信仰義認論の本質を解説する。西洋思想の「正義」論の系譜の中で、キリスト教的な「正義」論としての義認論が持つ独自の現代的意義を明らかにした、必読の書である。 前期の前半においては、信仰義認論をめぐる聖書その他の基本的なテキストをドイツ語で読み、準備をととのえる。それからユンゲルの著書をドイツ語で丁寧に読み進めていきたい。		
<授業の概要> 初級文法を習得していること。		
<履修条件> 初級文法を習得していること。		
<授業計画>  第1回 序論 ユンゲルの著書への入門など 第2回 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(1) 旧約聖書より 第3回 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(2) 新約聖書より 第4回 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(1) ルター 第5回 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2) メランヒトン 第6回 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2) 和協信条 第7回 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(3) トリエント公会議の教令 第8回 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(1) カール・バルト 第9回 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(2) ハンス・キュンク 第10回 Jünger, 1-4. (頁数。以下同様。) 第11回 4-11. 第12回 43-48. 第13回 48-52. 第14回 52-58. 第15回 58-65. 定期試験		
<準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。		
<テキスト> Eberhard Jünger, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen 31999. その他のテキストは必要に応じて配布する。		
<参考書・参考資料等> 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。		
<学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。		

現代語科目選択・外国語科目選択		
ドイツ語Ⅱb	福嶋 揚	<担当形態> 単独
後期・1単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> ドイツ語神学書の講読		
<到達目標> 神学的な諸概念と思考法を習得する。		
<授業の概要> ドイツ語Ⅱa(前期)を参照。前期に続いて、現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読み進める。		
<履修条件> 初級文法を習得していること。		
<授業計画>  第1回 Jüngel, 65-74. (頁数。以下同様。) 第2回 75-86. 第3回 86-97. 第4回 97-106. 第5回 106-114. 第6回 114-125. 第7回 126-143. 第8回 143-155. 第9回 156-169. 第10回 169-180. 第11回 180-190. 第12回 191-201. 第13回 201-209. 第14回 210-220. 第15回 221-234. 定期試験		
<準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。		
<テキスト> Eberhard Jüngel, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen <sup>3</sup> 1999. その他の資料は必要に応じて配布する。		
<参考書・参考資料等> 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。		
<学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。		

保健体育科目		
体育 I	岡田 光弘	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> 体育	
<授業のテーマ> 自らの日常生活における諸活動を有意義に過ごすための各自の体力維持・向上の運動方法と、生活を豊かにするための基礎的な知識、態度、技術を身につけるとともに、卒業後の活動に役立てるための指導方法も学ぶ。		
<到達目標> 1. 体を動かす楽しさと喜びを再認識するとともに、各自の体力に合わせた健康体力作りの理論と実践を習得する。 2. 宣教・教会活動などに役立つレクリエーション活動の理論と各種活動、及び指導法の習得を目指す。		
<授業の概要> 主に身体活動を中心とした実技を行う。 各自の体力に合わせたストレッチ体操、他者と楽しむニュースポーツなどのレクリエーション活動を実践し、合わせて具体的な指導方法を学ぶ		
<履修条件> 各自の参加できるレベル、方法で行います。		
<授業計画> 第 1 回 オリエンテーション（クラスの進め方、体育の考え方、レクリエーションの考え方） 第 2 回 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際 1 第 3 回 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際 2（同上） 第 4 回 ソフトボール 1 *東神大運動会に向けて（用具の知識と安全、キャッチボール・バッティングの基本） 第 5 回 ソフトボール 2（試合へ向けての基礎技術／キャッチ&スロー、ピッチング、関係プレー） 第 6 回 ソフトボール 3（基本ルールの理解、模擬試合） 第 7 回 ソフトボール 4（ノック練習、試合） 第 8 回 ニュースポーツ 1（フライングディスク／投げ方の基本、取り方の基本、ディスクゴルフの楽しみ方） 第 9 回 ニュースポーツ 2（フライングディスク／ルール・安全管理の理解） 第 10 回 ニュースポーツ 3（フライングディスク／ディスクゴルフ） 第 11 回 バドミントン 1（打ち方） 第 12 回 バドミントン 2（ルール・安全管理の理解） 第 13 回 バドミントン 3（試合） 第 14 回 バドミントン 3（指導法） 第 15 回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1. 運動に適した服装に着替えること。 2. それぞれの種目に適した靴を用意すること。 3. 体調に十分留意すること。		
<テキスト> 井上俊・菊幸一（編）『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房（購入の必要はありません。）		
<参考書・参考資料等> 橋本純一（編）『現代メディアスポーツ論』世界思想社（購入の必要はありません。） その他、授業でお伝えします。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 技能：60% 時間ごとの観察により評価します。 知識：20% 実際にゲームを進行していく知識を評価します。 態度：20% 運動に適した服装などの用意ができているか、授業に積極的に参加しているかを評価します。出席が 2/3 に満たない場合、成績評価の対象にしません。		

保健体育科目		
体育Ⅱ	岡田 光弘	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> 体育	
<授業のテーマ> 自らの日常生活における諸活動を有意義に過ごすための各自の体力維持・向上の運動方法と、生活を豊かにするための基礎的な知識、態度、技術を身につけるとともに、卒業後の活動に役立てるための指導方法も学ぶ。		
<到達目標> 1. 体を動かす楽しさと喜びを再認識するとともに、各自の体力に合わせた健康体力作りの理論と実践を習得する。 2. 庭球と卓球について、練習法、ルール、試合に必要な技術について学ぶことで、その基礎を獲得します。		
<授業の概要>庭球、卓球の試合が行えるようになるために、以下の事柄について学びます。 1. ゲームを構成するすべての技術について、その技術を習得します。 2. ゲームを構成するすべてのルールを習得します。 3. 学期が終わったあとも自己学習ができるように練習の仕方を学びます。		
<履修条件>自の参加できるレベル、方法で行います		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 コーディネーション・トレーニングの理論と実践 第3回 テニスのルールと用具の歴史（以下、テニス） 第4回 フォアハンドボレー、バックハンドボレー 第5回 フォアハンド・ストローク（トップスピン打法の習得） 第6回 バックハンド・ストローク、ミニゲーム 第7回 サービスとレシーブ 第8回 ダブルス・ゲーム 第9回 シングルス・ゲームとテニスのまとめ 第10回 ビンポン、卓球のルールと用具の歴史（以下、卓球） 第11回 バックハンド・ショート（またはハーフボレー）（ドライブサーブとカットサーブ） 第12回 フォアハンド・ストローク（ドライブ打法の習得） 第13回 多球練習による分習法、制限付きゲームによる全習法 第14回 シングルスとダブルスの試合 第15回 シングルスとダブルスの試合		
<準備学習等の指示> 1. 運動に適した服装に着替えること。 2. それぞれの種目に適した靴を用意すること。 3. 体調に十分留意すること。		
<テキスト> 井上俊・菊幸一（編）『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房（購入の必要はありません。）		
<参考書・参考資料等> 橋本純一（編）『現代メディアスポーツ論』世界思想社（購入の必要はありません。） その他、授業でお伝えします。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 技能：60% 時間ごとの観察により評価します。 知識：20% 実際にゲームを進行していく知識を評価します。 態度：20% 運動に適した服装などの用意ができていないか、授業に積極的に参加しているかを評価します。出席が2/3に満たない場合、成績評価の対象にしません。		

専門教育科目必修・聖書神学関係		
旧約聖書神学 I	小友 聡	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教学 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ> 旧約緒論の総論と五書問題について考察する。		
<到達目標> 旧約聖書とは何かという根本問題に歴史的文献学的見地から取り組み、旧約聖書の全体像をつかむ。旧約聖書を学問的に考察することに慣れる。		
<授業の概要> まず旧約聖書学研究史を学び、正典としての旧約聖書の成立過程と歴史的背景、さらに本文伝承の歴史を概観する。その後、五書問題の諸問題について考察する。なお、申命記はⅡで扱う。		
<履修条件> 旧約聖書神学ⅡおよびⅢより先に受講することが望ましい。		
<授業計画>  第1回 オリエンテーション 第2回 旧約聖書入門 第3回 近代の旧約聖書学研究史（19世紀のヴェルハウゼンまで） 第4回 近代の旧約聖書学研究史（ヴェルハウゼン～現代） 第5回 正典とは何か 第6回 旧約正典の形成史 第7回 正典と本文 第8回 本文伝承の歴史 第9回 古代語訳概観（ギリシア語、アラム語、シリア語など） 第10回 モーセ五書批判（総論） 第11回 モーセ五書批判（研究史の諸問題） 第12回 ヤーウィスト 第13回 エローヒスト 第14回 祭司文書 第15回 まとめ 定期試験		
<準備学習等の指示> 旧約聖書を通読していることを前提としている。教科書をよく読むこと。聖書学の学術的な議論に戸惑う人がいるかも知れないが、旧約聖書を理解したいという意欲を持って授業を聴き、わからないことは質問すること。		
<テキスト> 左近淑（大住編）『旧約聖書緒論講義』教文館（増補版）を各自購入すること。		
<参考書・参考資料等> レジュメと文献表を授業中に配布する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末に筆記試験を行い、それによって評価する。出席重視。共通評価指標（Ⅰ）の①～③を重視する。		

専門教育科目必修・聖書神学関係		
旧約聖書神学Ⅱ	小友 聡	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教学 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ> モーセ五書の第5の書である申命記および申命記の歴史、歴代誌の歴史、さらに知恵文学と詩文学を学問的に考察する。		
<到達目標> 五書と申命記の歴史の繋がり、また申命記の歴史と歴代誌の歴史の緊張関係を理解し、さらに知恵文学と詩文学の全体像を把握する。		
<授業の概要> 申命記および申命記の歴史、歴代誌の歴史、知恵文学、詩文学について、テキストに基づいて概観する。		
<履修条件> 旧約聖書神学Ⅰを履修済みであることが望ましい。		
<授業計画>  第1回 オリエンテーション 第2回 申命記の歴史の総論と研究史（M.ノート以前） 第3回 申命記の歴史の研究史（M.ノート以降） 第4回 申命記の歴史の諸文書（各論） 第5回 申命記の総論 第6回 申命記の各論 第7回 歴代誌の歴史の総論 第8回 歴代誌の歴史の各論 第9回 知恵文学の総論 第10回 ヨブ記 第11回 箴言とコヘレトの言葉 第12回 詩編の総論 第13回 詩編の各論 第14回 詩編以外の詩文学 第15回 まとめ 定期試験		
<準備学習等の指示> 教科書をよく読むこと。旧約聖書をよく理解したいという意欲を持って授業に臨むこと。		
<テキスト> 左近淑（大住編）『旧約聖書緒論講義』教文館（増補版）を用いる、なお、この中で扱われていない授業項目は、W.H.シュミット（木幡訳）『旧約聖書入門上・下』教文館が役に立つ。		
<参考書・参考資料等> レジュメと文献表を授業中に配布する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末に筆記試験をして評価する。出席重視。共通評価指標（1）の①～③を重視する。		

専門教育科目必修・聖書神学関係		
旧約聖書神学Ⅲ	田中 光	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教学 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ> 預言者とは何かという問いを、具体的な旧約テキストとその研究史を考察することを通して、探究する。		
<到達目標> 預言者についての本質的な理解を深めるとともに、預言書全般についての概説的知識を獲得する。		
<授業の概要> 最初の数回で、預言者についての総論的知識を学び、その後、書物ごとに学びを深める。書物ごとの学びでは、その預言書の最近の研究状況の紹介、鍵となる神学的テーマについての考察などがなされる。		
<履修条件> 旧約聖書神学Ⅰ履修済み、または並行して履修中であること。		
<授業計画>  第1回 オリエンテーション： 授業目的と授業計画の確認 第2回 旧約「預言（者）」の諸相： 歴史書、預言書における「預言」通観、及び預言書についての研究史概観 第3回 イザヤ書①： 緒論、研究史概観、主要な神学的テーマについての概説 第4回 イザヤ書②： 「メシア預言」について 第5回 イザヤ書③： 「僕の歌」について 第6回 エレミヤ書①： 緒論、研究史概観、主要な神学的テーマについての概説 第7回 エレミヤ書②： 「新しい契約」、預言の「真贋」について（申命記18章との関連） 第8回 エゼキエル書①： 緒論、研究史概観、主要な神学的テーマについての概説 第9回 エゼキエル書②： 主の神殿の幻について 第10回 十二小預言書①： 緒論、研究史概観、主要な神学的テーマについての概説 第11回 十二小預言書②： ダビデ王朝に関する預言について 第12回 十二小預言書③： 「主の日」について 第13回 ダニエル書①： 緒論、研究史概観、主要な神学的テーマについての概説 第14回 ダニエル書②： ダニエル書のメシアニズム（？）について 第15回 補論的考察： 現象としての預言からカノン形成及びテキスト解釈としての預言への移行について		
<準備学習等の指示> 授業毎に、その回に関係する聖書テキストを読み、また教科書の該当部分を読んでくること。		
<テキスト> 左近淑（大住雄一編）『旧約聖書緒論講義』教文館。		
<参考書・参考資料等> B. S. Childs, <i>Introduction to the Old Testament as Scripture</i> ; C. J. Sharp (ed.), <i>The Oxford Handbook of the Prophets</i> ; J. Jeremias, <i>Theologie des Alten Testaments</i> ; その他、初回授業で指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への貢献と、期末レポートによって成績をつける。理由なく授業に三分の一以上欠席した場合は、レポートを提出できない。		

専門教育科目必修・聖書神学関係		
旧約聖書積義 a	大住 雄一	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教学 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ> 旧約聖書に基づく説教を目指して積義の課題を考え、また、その思想と手法を学ぶ。		
<到達目標> 積義の手法の概略を知る。		
<授業の概要> 言語学的、文献学的、文学的、歴史学的方法と知見を土台とする積義が、どのようにして神学的営為となりうるか、神学的に考えるとどのようなことであり、積義においてどのように位置づけられるかを論じる。また神学辞典や注解書など、第二次文献の使い方を解説する。今回は申命記30章に方法をあてはめてみる。		
<履修条件> 旧約聖書神学Iを履修済みであることが望ましい。		
<授業計画>  第1回 積義の道具立て 第2回 聖書翻訳の問題 第3回 注解書ガイド 第4回 本文批判 何を知らねばならないか 第5回 文献批判 合理的分析 第6回 伝承史 もともとどのようなテキストであったか 第7回 編集史 文献発展の歴史 第8回 様式史の思想的基盤と問題点 第9回 テキストの最終形態 第10回 歴史的な文脈と積義 第11回 テキストの神学的考察 第12回 正典批判と影響史 今日までどう理解されてきたか 第13回 積義の手順 第14回 積義と説教 第15回 まとめと知識の再確認		
<準備学習等の指示> 積義の教科書として紹介する書物を読んでおくこと。		
<テキスト> 普段出席している教会で使っている日本語訳聖書。		
<参考書・参考資料等> 第一回授業の中で積義方法論の教科書とその入手方法を紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加と期末の小レポートによって成績をつける。理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、小レポートを提出することができない。レポートの課題は、夏休み前に提示する。		

専門教育科目必修・聖書神学関係		
旧約聖書積義 b	大住 雄一	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教学 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ> 旧約聖書に基づく説教を目指して積義の課題を考え、また、その思想と手法を学ぶ。 b では特に実際に手続きを自分で用いてみる。		
<到達目標> 積義の手法を身に付ける。		
<授業の概要> 旧約聖書積義 a で学ぶ積義方法を、具体的な旧約テキストに適用して積義を試みる。本年度は申命記 30 章のテキストを読む。		
<履修条件> 本年度に旧約聖書積義 a を履修したことを前提とするが、b のみの履修可。		
<授業計画>  第1回 申命記において契約とは何か 第2回 諸翻訳の読み比べ 第3回 注解書ガイド 第4回 本文 第5回 テキストの形 第6回 伝承史 第7回 宗教史 第8回 旧約における契約 第9回 ユダヤ教における契約 第10回 積義レポートの書き方 第11回 契約の言葉の歴史 第12回 契約の神学 第13回 正典批判 第14回 積義と説教 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 各回の授業に先立って、扱われる方法をテキストに適用してみることに。		
<テキスト> 普段出席している教会で使っている日本語訳聖書。		
<参考書・参考資料等>		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業最終日に神と人間の契約に関する積義レポートを提出する。理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。		

専門教育科目必修・聖書神学関係		
新約聖書神学 I	中野 実	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 新約聖書神学Ⅱと通年で履修すること	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教学 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ> 新約聖書神学の諸課題について学ぶ。		
<到達目標> 新約聖書がいかなる書物であるかを深く把握し、新約聖書を学問的に読むことの神学的意義を理解できるようにする。		
<授業の概要> 新約聖書神学Ⅰでは、おもに講義を通して、まず序論として、聖書とは何か？聖書学、聖書神学とは何か？聖書正典とは何か、などについて学ぶ。次に各論に入り、福音書研究の基礎的事柄について学ぶ。		
<履修条件> ギリシャ語Ⅰを並行して履修していること		
<授業計画>  第1回 聖書を学問的に読むとは？ 聖書とは何か？ 第2回 聖書を学問的に読むとは？ 聖書を学問の対象にするとは？ 第3回 聖書を学問的に読むとは？ 聖書学とは？聖書の批判的研究 第4回 聖書を学問的に読むとは？ 近代、現代聖書学のルーツとその展開 第5回 新約聖書とは何か？ 新約聖書という名称について 第6回 新約聖書とは何か？ 旧約聖書について 第7回 新約聖書とは何か？ 新約聖書の文学、初期キリスト教文学としての新約聖書 第8回 新約聖書とは何か？ 正典としての新約聖書①正典とは？ 第9回 新約聖書とは何か？ 正典としての新約聖書②正典化プロセス 第10回 新約聖書とは何か？ 新約聖書の写本について 第11回 新約聖書とは何か？ 新約聖書の時代史について 第12回 福音書とは何か？ 福音と福音書 第13回 福音書文学：福音書は伝記か？ 第14回 共観福音書問題1 共観福音書とは何か？それらをめぐる諸仮説 第15回 共観福音書問題2 マルコ優先説、二資料仮説、Q資料などについて		
<準備学習等の指示> 聖書を日頃からよく読むこと。		
<テキスト> 旧・新約聖書。旧約聖書も必ず持ってくる事。		
<参考書・参考資料等> 樋口、中野『聖書学用語辞典』日本基督教団出版局、およびタイセン『新約聖書：歴史、文学、宗教』教文館。その他、必要に応じてクラスで指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。評価は、期末のレポート（および小テスト）に基づいてなされる。レポートにおいては、課題やテキストを正しく理解しつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかが評価の指標となる。		

専門教育科目必修・聖書神学関係		
新約聖書神学Ⅱ	中野 実	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 新約聖書神学Ⅰと通年で履修すること	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教学 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ> 新約聖書を学問的に読むことの神学的意義を理解しつつ、福音書について学ぶ。		
<到達目標> 新約聖書正典に含まれる四福音書に関する学問的基礎知識を身につけることができる。		
<授業の概要> 新約聖書神学Ⅰでの学びを前提にしつつ、四福音書それぞれが有している歴史的、文学的、神学的特徴について学ぶ。		
<履修条件> ギリシャ語Ⅱを並行して履修していること。		
<授業計画>  第1回 マルコ福音書：緒論的歴史的諸問題 第2回 マルコ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開 第3回 マルコ福音書：神学的諸問題 第4回 マタイ福音書：緒論的歴史的諸問題 第5回 マタイ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開 第6回 マタイ福音書：神学的諸問題 第7回 ルカ福音書：緒論的歴史的諸問題 第8回 ルカ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開 第9回 ルカ福音書：神学的諸問題 第10回 ヨハネ福音書：歴史的諸問題 第11回 ヨハネ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開 第12回 ヨハネ福音書：神学的諸問題 第13回 ルカ文書について 第14回 ヨハネ文書について 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示>新約聖書神学Ⅰの項目を参照		
<テキスト>旧、新約聖書。ギリシャ語新約聖書も持参すること。		
<参考書・参考資料等>必要に応じて、クラスで指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）>出席が三分の二に達しない場合、原則として評価の対象にしない。評価は、期末レポートを中心になされる。レポートにおいては、課題やテキストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であることが求められる。		

専門教育科目必修・聖書神学関係		
新約聖書神学Ⅲ	焼山 満里子	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教学 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ> 使徒パウロの伝道活動と神学		
<到達目標> コリントの信徒への手紙一を中心にパウロ神学全体を見渡せるようになる。		
<授業の概要> パウロの活動、パウロの神学についてコリント一を毎回一章ずつ読みながら理解する。		
<履修条件> ギリシア語履修を終わっていること。		
<授業計画>  第1回 使徒言行録によるパウロの伝道旅行 第2回 コリント一1章、16章、全体概観 第3回 コリント一2章 第4回 コリント一3章 第5回 コリント一4章 第6回 コリント一5、6章 第7回 コリント一7章 第8回 コリント一8章 第9回 コリント一9章 第10回 コリント一10章 第11回 コリント一11章 第12回 コリント一12章 第13回 コリント一13章 第14回 コリント一14章 第15回 コリント一15章 定期試験		
<準備学習等の指示> 聖書、テキストを読んで授業に臨むこと		
<テキスト> R. B. ヘイズ『現代聖書注解 コリントの信徒への手紙一』日本基督教団出版局、2001年		
<参考書・参考資料等> 佐竹明『使徒パウロ』新教出版社、2008年		
出する評価（方法・基準）> 出席状況、課題提出、期末試験を総合的に評価する。		

専門教育科目必修・聖書神学関係		
新約聖書釈義 a	中野 実	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 学部4年生を中心としたクラス	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教学 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ> 新約聖書に関する学問的な釈義の方法について学ぶクラス		
<到達目標> このクラスを通して、釈義の方法論を身につけ、より主体的に新約聖書の解釈にたずさわることができるようになる。		
<授業の概要> 前期は、概論ののち、フィー『新約聖書の釈義』を主として用いつつ、釈義の方法について学ぶ。		
<履修条件> ギリシア語初級文法をすでに履修済みであること。通年で履修する事。		
<授業計画>  第1回 オリエンテーション：クラスの目標と課題について 第2回 釈義とは何か？ 釈義の具体的課題について 第3回 フィー『新約聖書の釈義』序論および第1章「釈義の全過程についての手引き」 第4回 ステップ1 歴史的脈略の概観 第5回 ステップ2 章句の区切りの確認 第6回 ステップ3 段落・ペリコーペの熟知：説明 第7回 ステップ3 段落・ペリコーペの熟知：実践：暫定訳の作成、他の翻訳との比較など。 第8回 ステップ4 文の構成と統語的關係の分析：説明 第9回 ステップ4 文の構成と統語的關係の分析：実践、文の流れの図式化 第10回 ステップ5 本文の確定：本文批評の説明 第11回 ステップ5 本文批評の実際 第12回 ステップ6 文法の分析：説明 第13回 ステップ6 文法の分析：実践 第14回 説教のための釈義とは？ 第15回 説教の準備について  顔ぶれや進み具合などを勘案しながら、スケジュールを変更する場合もある。		
<準備学習等の指示> 釈義は、ただ講義を聴いているだけでは身に付かない。実際に自分で試みて見る事が必要。釈義は苦勞して身につけるしか道はない！ギリシア語新約聖書をコツコツ読む努力をすること、また教科書をよく読んで出席すること。		
<テキスト> ゴードン・フィー『新約聖書の釈義』教文館、1998年、および中野ほか『新約聖書解釈の手引き』日本基督教団出版局、2016年をクラスの初回までに各自で購入しておくこと。ギリシア語の新約聖書も毎回持参すること。		
<参考書・参考資料等> 必要に応じて、クラスで指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席が三分の二に達していない場合、原則として評価の対象としない。毎回のクラスでの姿勢、期末のレポートなどによって総合的に評価する。レポートにおいては、テキストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかの評価の指標となる。		

専門教育科目必修・聖書神学関係		
新約聖書釈義 b	中野 実	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 学部4年生を中心としたクラス	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教学 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ> 新約聖書の釈義の方法と実践を学ぶ。		
<到達目標> このクラスを通して、基本的な釈義の技術を身につけ、より主体的に新約聖書の解釈にたずさわることができるようになる。		
<授業の概要> 後期も引き続き、フィーの教科書を用いるが、『新約聖書解釈の手引き』などを通して、新しい方法論についても学びを進める。		
<履修条件> ギリシア語初級文法をすでに履修済みであること。通年で履修する事。		
<授業計画>  第1回 フィーの教科書の続き、ステップ7 語の分析：その説明 第2回 ステップ7 語の分析：その実践 第3回 ステップ8 歴史的文化的背景の探求：その説明と文献紹介 第4回 ステップ8 歴史的文化的背景の探求：具体例 第5回 書簡の釈義、ステップ9 書簡文学の特徴と形式について 第6回 書簡の釈義、ステップ9 書簡文学の修辭的分析について 第7回 書簡の釈義、ステップ10 小区分、読者、キーワードなどの分析 第8回 書簡の釈義、ステップ11 文学的コンテキストの確定 第9回 福音書の釈義、福音書テキストの性質、福音書をめぐる諸仮説 第10回 福音書の釈義、ステップ9 福音書の文学類型 第11回 福音書の釈義、ステップ9 福音書の文学的様式、伝承 第12回 福音書の釈義、ステップ10 共観表の用い方 第13回 福音書の釈義、ステップ11 史的イエス研究 第14回 歴史批評学的方法論の限界、それを乗り越える方法論 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 新約釈義 a の同項目を参照。		
<テキスト> 新約釈義 a の同項目を参照。		
<参考書・参考資料等> 必要に応じて、クラスで指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席が三分の二に達していない場合、原則として評価の対象としない。毎回のクラスでの姿勢、期末のレポートなどによって総合的に評価する。レポートにおいては、テキストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかが評価の指標となる。		

専門教育科目必修・聖書神学関係		
ギリシャ語Ⅰ（1・2）	三永 旨従	<担当形態> 単独
前期・4単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 聖書のギリシャ語文法の基礎的理解を身につけ、その基本的読解能力を養う。		
<到達目標> ギリシャ語新約聖書を正確に読む力をつける。基本的ギリシャ語文法、およびコンコードランス・辞書の使い方を修得する。		
<授業の概要> 前期は基本的文法を中心とする。 新約聖書のギリシャ語理解のために、テキストに則して基本文型を身につけていく。目的はあくまで新約文書群の読解にあるために練習問題は、ギリシャ語の日本語訳に限定する。授業の合間に、少しずつ、ギリシャ語新約聖書に慣れることも同時に行なう。前後期を通じ、特に原典で新約文書群を読むことの具体的な意義、及びそこから生じる違いについても学んでゆく。		
<履修条件> ギリシャ語Ⅱと通年で履修する。		
<授業計画> 第1回 新約聖書を原典で読むことについて 第2回 写本について 第3回 新約聖書のギリシャ語の特色 第4回 文字と発音 第5回 単語と音節 第6回 ギリシャ語のアクセントの特色 第7回 句読点 第8回 ギリシャ語動詞の活用について 第9回 動詞活用－現在形 第10回 ギリシャ語名詞の特色 第11回 名詞の変化－男性形 第12回 名詞の変化－女性形 第13回 ギリシャ語前置詞の特色 第14回 前置詞の用法 第15回 受動形能動態について 第16回 中動形動詞のいろいろ 第17回 動詞活用－中動形 第18回 動詞活用－受動形 第19回 ギリシャ語人称代名詞の特質 第20回 人称代名詞 第21回 未完了形動詞の特質 第22回 動詞活用－未完了形 第23回 ギリシャ語の過去時制について 第24回 アオリスト形動詞の特質 第25回 動詞活用－第一アオリスト形 第26回 動詞活用－第二アオリスト形 第27回 ギリシャ語の形容詞の特質 第28回 ギリシャ語の形容詞の性、数、格 第29回 形容詞の変化－男性形 第30回 形容詞の変化－女性形 定期試験		
<準備学習等の指示> 暗記するべき課題の多い教科である故、予習、復習とは別に各自さらにはグループ学習で反復練習する時間を取ることが望ましい。		
<テキスト> ・J. G. メイチェン著 田辺滋訳『新約聖書 ギリシャ語原典入門』新生宣教団（学生各自で用意する。） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark, Ltd.（各自で購入することを強く勧める。）		
<参考書・参考資料等> なし		
<学生に対する評価（方法・基準）> 各授業時間に行なわれる練習問題、及び学期末の試験（口頭試問）		

専門教育科目必修・聖書神学関係		
ギリシャ語Ⅱ	三永 旨従	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 新約聖書原典を辞書その他の手段を用いながらも一人で読解できる能力を養う。		
<到達目標> ギリシャ語文法の理解を深め、読解能力を習得する。		
<p>&lt;授業の概要&gt; ギリシャ語Ⅰに続けて基礎文法を終わらせ、具体的な新約文書群の読解に入る。各授業毎にギリシャ語特有の文法体系に由来する特徴を具体的にテキストにあたって学ぶ。基本文法を終わらせると同時に、実際に新約文書群を読む際に、大きな障害となり易い点（分詞構文、不定詞構文等）にも焦点をあてる。上記の留意点を考慮しつつ、より平易な新約文書を実際に読んでいく。</p>		
<履修条件> ギリシャ語Ⅰの履修		
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 動詞の変化－分詞  第2回 母音融合動詞  第3回 流音動詞  第4回 動詞の変化－不定法  第5回 動詞の変化－希求法  第6回 疑問代名詞  第7回 関係代名詞  第8回 動詞の変化－命令法  第9回 特殊形動詞  第10回 冠詞とその用法  第11回 動詞の変化－接続法  第12回 数詞  第13回 独立属格の構文  第14回 不定詞+名詞の目的格の構文  第15回 分詞の述語的用法  定期試験</p>		
<準備学習等の指示> 暗記するべき課題の多い教科である故、予習、復習とは別に各自反復練習する時間を取ることが望ましい。		
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・J. G. メイチェン著 田辺滋訳『新約聖書 ギリシャ語原典入門』新生宣教団（学生各自で用意する。）</li> <li>・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE または UBS 版 Greek New Testament（学生各自で用意する。）</li> <li>・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A. S. Geden, T&amp;T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。）</li> </ul>		
<参考書・参考資料等> なし		
<学生に対する評価（方法・基準）> 各授業時間に行なわれる練習問題、及び学期末の試験（筆記試験）		

専門教育科目必修・組織神学関係		
組織神学 I a	神代 真砂実	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 組織神学 I b と通年で履修すること	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 「教理学、哲学」 [新法] 教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）	
<授業のテーマ> 組織神学の一分野としての教義学の概説として、教義学とは何かについて、さらには、キリスト教の信仰内容の体系を学ぶ。		
<到達目標> ①教義学という学問の特徴、②教義学上の基本的な用語とその意味、③キリスト教の信仰内容の体系的な姿を理解する。		
<授業の概要> 佐藤敏夫の『キリスト教神学概論』（新教出版社）に準拠しながら、伝統的な順序を踏まえて、教義学の内容を順に講義する。前期は序説から創造論まで。		
<履修条件> 学部2年生以上であること。		
<授業計画>  第1回 I. 序説 1. 神学と教会 第2回 2. 伝統の問題 第3回 3. 教義学的な語り①象徴 第4回 3. 教義学的な語り②神話 第5回 4. 聖書の権威①正典として 第6回 4. 聖書の権威②神の言葉として 第7回 5. 啓示 第8回 6. キリスト教と諸宗教 第9回 II. 神論 7. 三位一体 第10回 8. 神の本質と属性 第11回 9. 選びの信仰 第12回 III. 創造論 10. 創造 第13回 11. 摂理 第14回 12. 人間 第15回 前期のまとめ		
<準備学習等の指示> よくノートを取ること。		
<テキスト> 特になし。		
<参考書・参考資料等> H・G・ペールマン、『現代教義学総説』、新版、蓮見和男訳（新教出版社）；A・E・マクグラス、『キリスト教神学入門』、神代真砂実訳（教文館）。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の小課題とレポートの総合による。評価にあたっては、共通評価指標の①～④の内容を重視する。		

専門教育科目必修・組織神学関係		
組織神学 I b	神代 真砂実	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 組織神学 I a と通年で履修すること。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 「教理学、哲学」 [新法] 教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）	
<授業のテーマ> 前期と同じ。		
<到達目標> 前期と同じ。		
<授業の概要> 前期と同じ。後期は創造論の続きに始まり、終末論まで。		
<履修条件> 学部2年生以上であること。		
<授業計画>  第1回 III. 創造論（続き） 13. 罪 第2回 14. 悪の問題 第3回 IV. 和解論 15. 受肉①永遠と時間 第4回 15. 受肉②両性論 第5回 16. 十字架①必然性 第6回 16. 十字架②意味 第7回 17. 復活 第8回 18. 救済論①義認 第9回 18. 救済論②聖化 第10回 19. キリスト教的な生活 第11回 20. 聖霊 第12回 21. 教会①キリストのからだ 第13回 21. 教会②教会の標識 第14回 V. 終末論 22. 終末 第15回 後期のまとめ		
<準備学習等の指示> 前期と同じ。		
<テキスト> 前期と同じ。		
<参考書・参考資料等> 前期と同じ。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の小課題とレポートの総合による。評価にあたっては、共通評価目標の①～④の内容を重視する。		

専門教育科目必修・組織神学関係		
組織神学Ⅱ a	須田 拓	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 「教理学、哲学」 [新法] 教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）	
<授業のテーマ> 組織神学の中の倫理学について扱う。		
<到達目標> 倫理学の基礎的な知識を身につけ、倫理学の諸課題について、信仰的・神学的に考えることができるようになる。		
<授業の概要> 倫理学とは何か、倫理がどのような根拠によって、どのような方向性をもって考えられるべきであるのかを講義し、その上で、人格を形成する倫理学について検討する。		
<履修条件> 組織神学Ⅰを履修済みか、並行して履修していること。		
<授業計画>  第1回 オリエンテーション 第2回 倫理学とは何か 第3回 組織神学における倫理学の位置 第4回 倫理学の基礎づけ(1) 自然法による基礎づけの問題 第5回 倫理学の基礎づけ(2) 啓示への基礎づけとその方法 第6回 人間論と倫理 第7回 終末論と倫理 第8回 中間総括 第9回 倫理学の方向性 主観的倫理と客観的倫理 第10回 人格形成の倫理学(1) 概要 第11回 人格形成の倫理学(2) 徳とその形成 第12回 人格形成の倫理学(3) 習慣(habitus)とその形成の可能性 第13回 人格形成の倫理学(4) 愛と勇気 第14回 人格形成の倫理学(5) 誠実と正義 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 前回までの内容をよく復習した上で、テーマについて自分なりに考えてくること。		
<テキスト> 特になし。授業の中で必要に応じて指示する。		
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況およびレポートによって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）記載項目中の①、③、④を特に重視する。		

専門教育科目必修・組織神学関係		
組織神学Ⅱ b	須田 拓	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 「教理学、哲学」 [新法] 教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）	
<授業のテーマ> 組織神学の中の倫理学について扱う。		
<到達目標> 倫理学の諸分野について、基礎的な知識を身につけ、信仰的・神学的に考えることができるようになる。		
<授業の概要> 前期の内容を踏まえて、共同体論について、また文化を形成する倫理学について検討する。		
<履修条件> 組織神学Ⅰを履修済みか、並行して履修していること。		
<授業計画>  第1回 オリエンテーション 第2回 個人と共同体(1) 共同体の必要性 第3回 個人と共同体(2) 共同体の種類と新しい共同体 第4回 文化形成の倫理学(1) 概要 第5回 文化形成の倫理学(2) 信仰と文化 第6回 文化形成の倫理学(3) 近代世界の形成とプロテスタンティズム 第7回 文化形成の倫理学(4) 近代的文化価値 第8回 中間総括 第9回 文化形成の倫理学(5) 「ポストモダン」とその問題 第10回 文化形成の倫理学(6) 国家と社会 第11回 文化形成の倫理学(7) 家庭 第12回 文化形成の倫理学(8) 生命倫理 第13回 文化形成の倫理学(9) 平和について 第14回 倫理学の現代的課題 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 前回までの内容をよく復習した上で、テーマについて自分なりに考えてくること。		
<テキスト> 特になし。授業の中で、必要に応じて指示する。		
<参考書・参考資料等> 授業の中で、必要に応じて指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況及びレポートによって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）記載項目中の①, ③, ④を特に重視する。		

専門教育科目必修・組織神学関係		
組織神学Ⅲ a	芳賀 力	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 「教理学、哲学」 [新法] 教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）	
<授業のテーマ> 弁証学とは、教会の信仰にしっかり立ち、福音の真理性を同時代に向かって明証する学問である。		
<到達目標> 主として無神論、多神論、神義論の三大テーマを中心に、福音伝道に必要な基礎理論と考え方を身につける。		
<授業の概要> 前期では信仰と理性、信仰と科学、無神論、宗教批判、世俗化論のテーマに取り組む。		
<履修条件> 組織神学Ⅰ、Ⅱをすでに履修している者。		
<授業計画>  第1回： 弁証学の課題と方法について、序論的な考察を行う。 第2回： 福音と文化の関係について考察する。 第3回： 信仰と理性の関係について考察する。 第4回： 知解を求める信仰について考察する。 第5回： 信仰と科学をめぐって、近代以降の見解を整理して考察する。 第6回： 信仰と科学をめぐって、自然を読む技法と進化論の問題を取り上げる。 第7回： 無神論の立場からなされた宗教批判を考察する。 第8回： 神学的な立場からなされた有神論批判を考察する。 第9回： P.ティリッヒとH.R.ニーバーによる宗教批判を考察する。 第10回： カール・バルトの宗教批判を考察する。 第11回： ゴーガルテンとコックスの世俗化論を考察する。 第12回： T.ルックマンの世俗化論を考察する。 第13回： P.バーガーの世俗化論を考察する。 第14回： K.レーヴィット、H.ブルーメンベルク、D.リースマン、N.ボルツの近代化論を考察する。 第15回： これまでの議論を総括する。		
<準備学習等の指示> ディスカッションに積極的に参加し、自分の意見を述べる訓練をすること。		
<テキスト> 芳賀力『神学の小径Ⅰ』教文館、2008年。『神学の小径Ⅱ』2012年。『神学の小径Ⅲ』2015年。 希望者には著者割引で頒布する。		
<参考書・参考資料等> 授業の中で指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を重視する。総括としてレポートを提出する。		

専門教育科目必修・組織神学関係		
組織神学Ⅲ b	芳賀 力	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 「教理学、哲学」 [新法] 教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）	
<授業のテーマ> 弁証学とは、教会の信仰にしっかり立ち、福音の真理性を同時代に向かって明証する学問である。		
<到達目標> 主として無神論、多神論、神義論の三大テーマを中心に、福音伝道に必要な基礎理論と考え方を身につける。		
<授業の概要> 後期では宗教的多元主義、多元的社会における共同体論、神義論的諸問題のテーマに取り組む。		
<履修条件> 組織神学Ⅰ、Ⅱをすでに履修している者。		
<授業計画>  第1回：J.ヒック、D.ベイリー、G.ランプらの宗教的多元主義を考察する。 第2回：宗教的排他主義、包括主義、多元主義を考察する。 第3回：宗教の共通主題と多元主義、原理と人格の問題を考察する。 第4回：多元主義と A.マッキンタイアの共同体論を考察する。 第5回：多元主義と R.ベラーの共同体論を考察する。 第6回：多元主義と M.ウォルツァーの共同体論を考察する。 第7回：G.ローフィンクと使徒的共同体論を考察する。 第8回：パラクレシスと使徒的共同体論を考察する。 第9回：神義論的問いを神学的に取り扱う方法論を考察する。 第10回：悪の認識をめぐる問題を考察する。 第11回：悪の由来をめぐる問題を考察する。 第12回：悪の理由をめぐる問題を考察する。 第13回：悪の克服Ⅰをめぐって、義認論と復活論を考察する。 第14回：悪の克服Ⅱをめぐって、聖霊論と終末論を考察する。 第15回：これまでの議論を総括する。		
<準備学習等の指示> ディスカッションに積極的に参加し、自分の意見を述べる訓練をすること。		
<テキスト> 拙著『使徒的共同体』教文館、2004年。『自然、歴史そして神義論』日本基督教団出版局、1991年。		
<参考書・参考資料等> 授業の中で指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を重視する。総括としてレポートを提出する。		

専門教育科目必修・歴史神学関係		
教会史 I	本城 仰太	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 特になし	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教史 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 古代教会（教会のはじまりからアウグスティヌスの時代まで）の歴史と諸問題を学ぶ。		
<到達目標> ①古代教会史の知識を身に着けるだけでなく、古代教会の歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。		
<授業の概要> 古代教会史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画>  1. ガイダンス、教会のはじまりと地中海世界 2. 教会と国家：教会への迫害 3. 使徒教父たち 4. 弁証家たち 5. 正統と異端①：エイレナイオス 6. 正統と異端②：テルトゥリアヌスとキプリアヌス 7. アレクサンドリア学派：クレメンスとオリゲネス 8. コンスタンティヌス帝とキリスト教公認 9. 修道院運動 10. キリスト論論争①：アレイオス主義とニカイア信条 11. キリスト論論争②：アタナシオスとニカイア・コンスタンティノポリス信条 12. カップドキア三教父 13. 4～5世紀の教会①：アンブロシウス、クリュソストモス、ヒエロニユモス 14. 4～5世紀の教会②：アウグスティヌスとその神学 15. 総括 期末試験		
<準備学習等の指示> ノートを取り、講義内容を<参考書>などによって補いながら、自分で整理していくこと。		
<テキスト> 特に定めない。毎回プリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> 1. J.ゴンザレス『キリスト教史（上巻）』（新教出版社） 2. W.ウォーカー『キリスト教史①古代教会』（ヨルダン社） 3. ブロックス『古代教会史』（教文館）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②レポートによって総合的に評価する。		

専門教育科目必修・歴史神学関係		
教会史Ⅱ	関川 泰寛	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教史 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 中世教会史を講義する。基礎的な知識の習得とともに、中世教会史の歴史史料を読み、理解を深める。		
<到達目標> 中世ヨーロッパ史の知識を十分修得した上で、教会史の史料を読んで、中世教会の特質と地域ごとの歴史の展開を跡付けることができる知識を習得する。		
<授業の概要> 古代末期のアウグスティヌスの時代以降から宗教改革前までの中世教会史を原則として年代順に整理して学ぶと共に、重要事項は特別な項目を設けて詳細に講義する。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 1 古代末期のキリスト教 アウグスティヌスの生涯と神学 2 古代末期から中世キリスト教世界へⅠ 古代末期世界の崩壊とキリスト教伝道 3 古代末期から中世キリスト教世界へⅡ カール大帝の時代とキリスト教 4 中世における教会と国家Ⅰ 教皇権の衰退と帝国の再建による革新 5 中世における教会と国家Ⅱ オットー大帝の時代と教会の改革運動 6 中世における教会と国家Ⅲ 改革派による教皇権の強化と叙任権闘争 7 修道院と分派の活動Ⅰ 中世初期の新しい宗教運動 8 修道院と分派の活動Ⅱ シトー会とベルナルドゥス 9 修道院と分派の活動Ⅲ 中世の分派運動 10 修道院と分派の活動Ⅳ フランシスコ会とドミニコ会 11 十字軍とキリスト教 12 中世の大学と学問 13 中世のスコラ学 14 宗教改革以前の改革者・ディスカッション 15 総括 定期試験		
<準備学習等の指示> 世界史の知識が不足している学生は、木下他『詳説世界史研究』（山川出版社）の中世の章を読んでおくこと。		
<テキスト> 特に定めない。講義のたびに、レジメと資料を配布する。		
<参考書・参考資料等> ウォーカー『キリスト教史Ⅱ・中世教会』（ヨルダン社）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 定期試験とレポート、ディスカッションや発表など授業への参加状況による。		

専門教育科目必修・歴史神学関係		
教会史Ⅲ	本城 仰太	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教史 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 宗教改革期（改革前史、ルターの改革から各地の宗教改革まで）の歴史と諸問題を学ぶ。		
<到達目標> ①宗教改革史の知識を身に着けるだけでなく、宗教改革の歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。		
<授業の概要> 宗教改革史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画>  1. 宗教改革前史①：教会改革の必要性 2. 宗教改革前史②：エラスムスと人文主義 3. ドイツの改革①：改革者ルター 4. ドイツの改革②：ルターの神学 5. ドイツの改革③：ルター派教会の形成 6. スイスの改革①：ツヴィングリ 7. 再洗礼派 8. スイスの改革②：カルヴァン 9. カルヴァンの神学と改革派教会の形成 10. 改革者たちの神学：聖餐論、洗礼論、教会論 11. イングランドの改革 12. スコットランドの改革 13. 諸信条・信仰告白・問答 14. カトリック教会の改革 15. 総括 期末試験		
<準備学習等の指示> ノートを取り、講義内容を<参考書>などによって補いながら、自分で整理していくこと。		
<テキスト> 特に定めない。毎回プリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> 1. J.ゴンザレス『キリスト教史（下巻）』（新教出版社） 2. 出村彰『総説 キリスト教史2 宗教改革篇』（日本キリスト教団出版局）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②レポートによって総合的に評価する。		

専門教育科目必修・歴史神学関係		
教会史Ⅳ	関川 泰寛	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教史 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 近・現代の教会史に関わる事項、人名、著作などの正確な知識を習得するとともに、近・現代の教会史の諸問題を整理して概観できる能力を養う。		
<到達目標> 近・現代の教会史に関わる史料を読みこなして、そこから歴史の形成と展開の諸要因を分析できる力を養う。		
<授業の概要> 近・現代の教会史を講義する。基礎的な知識を十分に習得し、同時に歴史史料にあたりながら、近現代の教会史の理解を深める。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画>  1 近代の思想・哲学とキリスト教 2 イギリスの理神論 3 ドイツ敬虔主義の起源と特色 4 ドイツ敬虔主義の担い手たち 5 アメリカへのキリスト教の移植 6 アメリカの植民市形成 7 イギリスにおけるキリスト教—ウェスレーとメソディズム 8 アメリカにおけるキリスト教—大覚醒時代 9 信仰復興運動とその影響、海外伝道 10 ドイツ啓蒙主義と神学思想 11 19世紀のイギリスにおけるキリスト教 12 ニューマンとオックスフォード運動 13 19世紀のアメリカ・プロテスタンティズム 14 エキュメニズムとキリスト教 15 総括 定期試験		
<準備学習等の指示> 世界史の知識が不十分なものは、木下他『詳説世界史研究』（山川出版社）の近現代の該当箇所を読んでおくこと。		
<テキスト> 特に定めないが、その都度プリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> ウォーカー『キリスト教史・近・現代のキリスト教』（ヨルダン社）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 試験とレポートで総合的に評価する。		

専門教育科目必修・歴史神学関係		
教会史Ⅴ	小室 尚子	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教史 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 日本におけるキリスト教宣教開始（16世紀）以来の、教会形成の歴史を学ぶ。		
<到達目標> 異教社会での多くの試練を越えて、教会がどのように形成、展開されて来たのかを学ぶことによって、現代において宣教に遣わされる者が、歴史的視点に立って、何を受け継ぎ、どのように伝えて行くのかの指針を見出すことを目標とする。		
<授業の概要> キリシタンの時代から現代までの教会史／教会と日本の伝統的思想との緊張関係／現代日本において教会が抱える問題と課題（日本基督教団の問題と課題を中心に）と3つのテーマによって講義を進める。		
<履修条件>		
<授業計画>  第1回 序論：教会史を学ぶ意義 第2回 キリスト教伝来前史 第3回 キリシタンの歴史（1549～1873） 第4回 キリシタンの教会形成 第5回 プロテスタント・キリスト教の移入と展開 第6回 教会の形成期（1859～1912） 第7回 （1）日本基督公会時代とその後 第8回 （2）福音主義の理解 第9回 （3）教育史における貢献と弾圧 第10回 聖書の翻訳 第11回 教会の発展期（1912～1926） 第12回 教会の試練と解放（1926～現代） 第13回 （1）戦時下、日本基督教団の成立 第14回 （2）戦後から現代へ：日本基督教団が抱えた問題 第15回 （3）日本の教会の課題		
<準備学習等の指示> テキストや配布史料をよく読み込むこと		
<テキスト> 鵜沼裕子『史料による日本キリスト教史』聖学院大学出版会 『日本キリスト教史年表[改訂版]』日本キリスト教歴史大事典編集委員会編 教文館		
<参考書・参考資料等> 初回授業時に文献表とともに紹介する		
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート（60%）と、授業への参加意識(40%)によって評価する		

専門教育科目必修・歴史神学関係		
宗教史 I	棚村 重行	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>宗教史Ⅱと併せて履修するのが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教史 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 「世界宗教史入門」。歴史神学の一分野である世界宗教史の研究手法・理論を学び、世界の諸宗教と文明生活の基礎知識を習得する。		
<到達目標> 学生は、①世界宗教史研究の基礎理論を学ぶ。②世界諸宗教の霊的生活を、各文明史の背景を踏まえ相関的に理解する思考を養う。③日本と世界伝道のために、宗教史の知識をどう活用したらよいかを考える。		
<授業の概要> 学生は配布されたレジメと資料のコピーをもとに講義を聴く。並行して指定されたテキストを読み、講義の内容理解を深める。		
<履修条件> なるべく宗教史Ⅱを併せて履修し、日本と世界宗教の双方の知識を深めること。		
<授業計画>  第1回 宗教史を学ぶ意義について 第2回 諸宗教の研究の歴史と研究の方法論の形成。本講義で採用するワック/エリアード複合理論について 第3回 文明史的考察を踏まえた世界諸宗教理解の意義 第4回 国家と宗教との関係に関する諸理論の紹介と意義 第5回 世界の唯一神教（1） ユダヤ教の霊的生活と文明のなかの歴史 第6回 同上（2） キリスト教（a） 正教会とローマ・カトリック教会の霊的生活と文明のなかの歴史 第7回 同上（3） キリスト教（b） プロテスタント諸教会の霊的生活と文明のなかの歴史（ルター派教会；改革派教会；聖公会とメソジスト教会） 第8回 同上（4） イスラム教 イスラム教の諸派の霊的生活と文明のなかの歴史 第9回 世界の多神教（1） ヒンドゥー教の霊的生活と文明のなかの歴史 第10回 同上（2） 南アジア、東アジアの仏教の霊的生活と文明のなかの歴史 第11回 同上（3） 中国の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史 第12回 同上（4） 朝鮮・韓国の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史 第13回 同上（5） 日本の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史（a）：神道と仏教、儒教 第14回 同上（6） 日本の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史（b）：キリスト教と諸宗教との関係 第15回 まとめ 定期試験		
<準備学習等の指示> 学生は、授業をよく聴き、質問をすること。		
<テキスト> 岸本英夫 『世界の宗教』（原書房、2008）		
<参考書・参考資料等> J. ヴァッハ、渡辺訳 『宗教の比較研究』（京都：法蔵館、1999）		
<学生に対する評価（方法・基準）> ①小テストと期末筆記試験を受ける。②到達目標事項の達成度を重視する。		

専門教育科目必修・実践神学関係		
実践神学概論 a	小泉 健	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 通年で登録すること	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。		
<到達目標> 神学の全体構造の中に実践神学を正しく位置づけられるようになること。実践神学の主要なテーマについて、基本的な考え方を身につけること。		
<授業の概要> 前期は実践神学全体を概観した上で、実践神学基礎論としての教会論と説教を扱う。		
<履修条件> 学部最終学年において履修のこと。		
<授業計画>  第1回 神学とは何かを改めて考え、その中での実践神学の位置づけを学ぶ。 第2回 実践神学とは何か（その1）実践神学の歴史を学ぶ。 第3回 実践神学とは何か（その2）「実践」と「神学」との関係を学ぶ。 第4回 実践神学とは何か（その3）現代のさまざまな実践神学の立場を知る。 第5回 実践神学とは何か（その4）まとめとして、実践神学を伝道論として捉えることを学ぶ。 第6回 教会建設論（その1）信仰と救済にとってなぜ教会が必要かを考える。 第7回 教会建設論（その2）さまざまな教会建設論の考え方を知る。 第8回 教会建設論（その3）実践神学基礎論としての教会論を整理する。 第9回 教会建設論（その4）日本において伝道する教会を建設する際の課題を考える。 第10回 説教（その1）説教とは何か 説教の神学 第11回 説教（その2）誰が説教するのか 説教者論 第12回 説教（その3）誰に説教するのか 聴衆論 第13回 説教（その4）どこで説教するのか 説教と礼拝 第14回 説教（その5）何を説教するのか 説教と聖書 第15回 説教（その6）いかに説教するのか 説教と修辞学		
<準備学習等の指示> 教室で配布される資料をていねいに読むこと。		
<テキスト> 必要に応じて教室でプリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> 加藤常昭『教会とは何か』東神大パンフレット2 山口隆康『アブラハムと実践神学』東神大パンフレット27 R. ボーレン『神が美しくなられるために』教文館 R. リジャー『説教の神学——キリストのいのちを伝える』教文館 その他については授業中に文献表を配布する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席態度とレポートによって評価する。共通評価指標（1）の②～④を重視する。		

専門教育科目必修・実践神学関係		
実践神学概論 b	小泉 健	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 通年で登録すること	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。		
<到達目標> 教会で実践され、経験的に知っている行為に対して、神学的に把握し反省するための実践神学的な考え方を身につけること。		
<授業の概要> 実践神学諸科から、とくに礼拝学と牧会学の基礎を扱う。		
<履修条件> 学部最終学年において履修のこと。		
<授業計画>  第1回 礼拝学（その1）「礼拝」の広がり、礼拝を礼拝にするものを考える。 第2回 礼拝学（その2）新約聖書における礼拝と1、2世紀の教会の礼拝から学ぶ。 第3回 礼拝学（その3）3、4世紀の教会の礼拝についての重要文献を読む。 第4回 礼拝学（その4）宗教改革における礼拝改革を学ぶ。 第5回 礼拝学（その5）宗教改革以後の教会の礼拝の変遷を学ぶ。 第6回 礼拝学（その6）以上の学びを踏まえて、わたしたちの礼拝を再考する。 第7回 礼拝学（その7）個別のテーマとして、聖礼典の理解と礼拝堂の問題を取り上げる。 第8回 礼拝学（その8）個別のテーマとして、教会暦と主日聖書日課、さらに讃美歌学を取り上げる。 第9回 牧会学（その1）「牧会」とは何かを、聖書と教会の歴史から考える。 第10回 牧会学（その2）20世紀以降の牧会学におけるさまざまな牧会の理解を学ぶ。 第11回 牧会学（その3）牧会の課題について整理する。 第12回 牧会学（その4）特別な牧会の場面（結婚、病、死別）について考察する。 第13回 牧会学（その5）牧会の方法（祈り、指導、訪問、手紙）を考える。 第14回 牧会学（その6）個別のテーマとして、告解と相互牧会を取り上げる。 第15回 牧会学（その7）教会法と戒規を牧会の問題として理解する。		
<準備学習等の指示> 教室で配布される資料をていねいに読むこと。		
<テキスト> 必要に応じて教室でプリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> J. F. ホワイト『キリスト教の礼拝』日本基督教団出版局 加藤常昭『慰めのコイノーニア——牧師と信徒が共に学ぶ牧会学』日本基督教団出版局 その他については授業中に文献表を配布する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席態度とレポートによって評価する。共通評価指標（1）の②～④を重視する。		

専門教育科目必修・実践神学関係		
キリスト教教育概論 a	長山 道	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 通年登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> キリスト教教育の理論、歴史、諸問題について学ぶ。		
<到達目標> キリスト教教育の特徴、キリスト教教育学の基本的な用語とその意味、キリスト教教育の歴史を理解する。		
<授業の概要> キリスト教教育に関する基礎的な理論および歴史について講義し、現代の教会やキリスト教学校との関連についてディスカッションをしながら考察を深める。		
<履修条件>		
<授業計画>  第1回 キリスト教教育とは 第2回 信仰を教えることは可能か 第3回 教師としてのイエス（1）マルコによる福音書、マタイによる福音書 第4回 教師としてのイエス（2）ルカによる福音書、ヨハネによる福音書 第5回 福音伝道とキリスト教教育 第6回 キリスト教教育と道德教育 第7回 原始キリスト教における教育（1）パラドシス 第8回 原始キリスト教における教育（2）ケリュグマとディダケー 第9回 中世におけるキリスト教教育 第10回 宗教改革期におけるキリスト教教育（1）ルター 第11回 宗教改革期におけるキリスト教教育（2）カルヴァン 第12回 ピューリタンの時代におけるキリスト教教育 第13回 カテキズム教育（1）『大教理問答』『小教理問答』 第14回 カテキズム教育（2）『ハイデルベルク信仰問答』 第15回 カテキズム教育（3）『ウェストミンスター小教理問答』		
<準備学習等の指示> 毎回の主題に関する問題意識をもって講義に臨むこと。		
<テキスト> レジュメを配布する。		
<参考書・参考資料等> 講義中に適宜指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを課す。		

専門教育科目必修・実践神学関係		
キリスト教教育概論 b	長山 道	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 通年登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> キリスト教教育の理論、歴史、諸形態について学ぶ。		
<到達目標> キリスト教教育の特徴、キリスト教教育学の基本的な用語とその意味、キリスト教教育学の基本的な議論を理解する。		
<授業の概要> キリスト教教育に関する基礎的な理論について講義し、現代の教会やキリスト教学校との関連についてディスカッションをしながら考察を深める。		
<履修条件>		
<授業計画>  第1回 近代の教育学に見る「キリスト教的」人間観（1） コメニウス 第2回 近代の教育学に見る「キリスト教的」人間観（2） フレーベル 第3回 近代の教育学に見る「キリスト教的」人間観（3） ペスタロッチ 第4回 創造と聖化 第5回 教会学校の歴史 第6回 教会学校の意義 第7回 幼児洗礼 第8回 キリスト教幼児教育 第9回 キリスト教学校 第10回 青少年期のキリスト教教育 第11回 成人のキリスト教教育 第12回 高齢者のキリスト教教育 第13回 カテケーシスから洗礼、信仰告白へ 第14回 礼拝と教育 第15回 家庭におけるキリスト教教育		
<準備学習等の指示> 毎回の主題に関する問題意識をもって講義に臨むこと。		
<テキスト> レジュメを配布する。		
<参考書・参考資料等> NCC 教育部歴史編纂委員会編『日本における教会教育の歩み』教文館、2007年。他は講義中に適宜指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを課す。		

専門教育科目選択必修・学部演習		
旧約聖書学部演習 a	田中 光	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>a, b 両方とも登録すること	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 詩編解釈の歴史		
<到達目標> 詩編解釈の歴史を学ぶことで、詩編が持つ福音の深みを把握する。また、学びを後期の論文作成に生かす。		
<授業の概要> 前半は詩編の解釈史を通史的に学び、後半は個々の詩編の解釈史と解釈的問題を探究する。		
<履修条件> 旧約詩編を共に学ぼうという志をお持ちの方をどなたでも歓迎します(但し、ヒブル語を履修していると[あるいは履修中でも]、授業の理解がより深まります)。		
<授業計画>  第1回 オリエンテーション&イントロダクション 第2回 詩編解釈の歴史①: 詩編の形成～新約聖書 第3回 詩編解釈の歴史②: 新約～使徒教父、護教家 第4回 詩編解釈の歴史③: 古代教父①アレクサンドリア学派、アンティオキア学派 第5回 詩編解釈の歴史④: 古代教父②ラテン教父、中世 第6回 詩編解釈の歴史⑤: 宗教改革者 第7回 詩編解釈の歴史⑥: 17-20世紀 第8回 詩編解釈の歴史⑦: 現代における詩変解釈の諸相(方法論、死海写本、聖書翻訳他) 第9回 詩編解釈の歴史⑧: 教会的実践における詩編(典礼、修道院他) 第10回 詩編 110編① 翻訳と本文批評的問題 第11回 詩編 110編② 解釈の歴史と解釈のポイント 第12回 詩編 118編① 翻訳と本文批評的問題 第13回 詩編 118編② 解釈の歴史と解釈のポイント 第14回 詩編 95編① 翻訳と本文批評的問題 第15回 詩編 95編② 解釈の歴史と解釈のポイント		
<準備学習等の指示> 初回授業にて指示する。		
<テキスト> 特に定めない。授業ごとに配布するレジュメを中心にする。		
<参考書・参考資料等> William L. Holladay, <i>The Psalms Through Three Thousand Years</i> (1996); Susan Gillingham, <i>Psalms Through the Centuries</i> , vol.1 (2008); Nancey deClaisse-Walford et al., <i>The Book of Psalms</i> (2014).		
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加度と発表、そして期末のレポートによって評価する。欠席が3分の1を超えた者はレポートを提出できない。		

専門教育科目選択必修・学部演習	
旧約聖書学部演習 b	田中 光
＜担当形態＞ 単独	
後期・2単位	＜登録条件＞a, b 両方とも登録すること
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず
＜授業のテーマ＞ 聖書学の論文の執筆	
＜到達目標＞ 前期の学びから得たインサイトを用いて、自ら見出した課題と取り組み、聖書学の方法論を用いて論文を作成する。	
＜授業の概要＞ タイムテーブルの前半においては、論文執筆の方法等についてのレクチャーがなされる。後半においては、学生による論文発表を行い、担当教員が適宜アドヴァイスする。	
＜履修条件＞ ヒブル語を履修していること。履修中でも可。	
<p>＜授業計画＞</p> <p>第1回 オリエンテーション&amp;イントロダクション</p> <p>第2回 聖書学の論文の書き方① 論文を書く際の心得</p> <p>第3回 聖書学の論文の書き方② 文献の収集と文献の読み方について（図書館ツアー）</p> <p>第4回 聖書学の論文の書き方③ 本文批評、聖書額の方法論について</p> <p>第5回 論文執筆演習① 詩編 121 テキストの翻訳</p> <p>第6回 論文執筆演習② 詩編 121 テキストの翻訳+テキストの解釈（注解書）</p> <p>第7回 論文執筆演習③ 詩編 121 論文の読解</p> <p>第8回 学生による発表① 論文の方向性（アウトライン） 第一グループ</p> <p>第9回 学生による発表② 論文の方向性（アウトライン） 第二グループ</p> <p>第10回 学生による発表③ 論文の中間報告① 第一グループ</p> <p>第11回 学生による発表④ 論文の中間報告② 第二グループ</p> <p>第12回 学生による発表⑤ 論文の中間報告③ 第一グループ</p> <p>第13回 学生による発表⑥ 論文の中間報告④ 第二グループ</p> <p>第14回 学生による発表⑦ 論文の中間報告⑤ 第一グループ</p> <p>第15回 学生による発表⑧ 論文の中間報告⑥ 第二グループ</p>	
＜準備学習等の指示＞ 自分の論文のテーマを常に探究し、発表の準備を事前に行うこと。	
＜テキスト＞ Biblia Hebraica Stuttgartensia, ヘブライ語辞書、その他。	
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で適宜指示する。	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度と発表、そして期末のレポートによって評価する。欠席が3分の1を超えた者はレポートを提出できない。	

専門教育科目選択必修・学部演習		
新約聖書学部演習 a	焼山 満里子	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 新約聖書学の論文を書く準備をする。		
<到達目標> テサロニケ1章の釈義レポートを書きつつ、新約聖書学の研究方法を身につける。		
<授業の概要> 新約聖書学の研究を実際に行う関心で参考文献を読み、議論する。		
<履修条件>		
<授業計画>  第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト1章「パウロの福音宣教と黙示思想」 第3回 テキスト2章 第4回 テキスト3章 第5回 テキスト4章 第6回 テキスト5章 第7回 テキスト6章 第8回 1テサロニケ1:2-10 釈義ステップ1-3 第9回 1テサロニケ1:2-10 釈義ステップ4-6 第10回 1テサロニケ1:2-10 釈義ステップ7-8 第11回 『古代都市のキリスト教』VI章 第12回 『イエスの死』第一章 第13回 『ユダヤ教の福音書』第4章 第14回 偽名文書について 第15回 まとめ 期末レポート		
<準備学習等の指示> 毎回の課題について発表と議論によって学び合う。		
<テキスト> 門脇佳吉『パウロの中心思想』教文館、2011年		
<参考書・参考資料等> 適宜紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 通常の授業参加とレポート。		

専門教育科目選択必修・学部演習		
新約聖書学部演習 b	中野 実	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 学部4年生	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 学部論文として積義レポートを準備するためのクラス		
<到達目標> このクラスを通して、論文の書き方や積義の方法、手続きを身につけることができる。		
<授業の概要> 論文の書き方を学びつつ、積義を進めていく。一つの聖書テキストを共同で積義し、それぞれが論文にまとめていく。		
<履修条件> 新約専攻者のみならず、ほかの学部4年生にも開かれている。		
<授業計画>  第1回 オリエンテーション 第2回 一般的論文、レポートの書き方 第3回 積義レポートの書き方 第4回 問題発見、問題設定 第5回 自らの問題意識を学問的に表現してみる 第6回 先行研究の発見 第7回 先行研究から学ぶ 第8回 積義の手続き 第9回 注解書を読む 第10回 研究書を読む 第11回 テキストの選定 第12回 テキストの積義 第13回 自らのテーゼを発見 第14回 見直し 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> とにかくコツコツ聖書テキストや研究書と取り組ながら、自分自身の議論を組み立てることに努める。		
<テキスト> 中野ほか『新約聖書解釈の手引き』（日本基督教団出版局、2016年）		
<参考書・参考資料等> 適宜紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度、努力、その実りとしての積義レポートを通して総合的に評価する。出席が三分の二に達しない場合は、評価の対象としない。レポートにおいては、適切な方法論に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であることが求められる。		

専門教育科目選択必修・学部演習	
組織神学学部演習 a	須田 拓
	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 組織神学学部演習 b と通年で履修・登録することを原則とする
教職課程における要件・区分等	該当せず
<授業のテーマ> 卒業論文の作成に向けて、組織神学的に考え叙述する技法を学ぶ。	
<到達目標> 組織神学的に考えることができるようになる。	
<授業の概要> 後期における卒業論文作成の準備	
<履修条件> 学部4年生で卒業を予定している者	
<授業計画>  第1回 オリエンテーション 第2回 卒業論文の主題について 第3回 論文の書き方(1) 論文とは何か 第4回 論文の書き方(2) 論文の構成と書き方 第5回 組織神学の考え方(1) 文章の読解 第6回 組織神学の考え方(2) 内容の検討 第7回 組織神学の考え方(3) 批評とその書き方 第8回 中間総括 第9回 卒業論文の主題と文献について 第10回 組織神学の論じ方(1) 神学的文章の読解 第11回 組織神学の論じ方(2) 神学的文章の検討 第12回 組織神学の論じ方(3) 神学的文章の批評 第13回 卒業論文主題の検討 第14回 卒業論文主題の最終決定 第15回 まとめ	
<準備学習等の指示> 与えられた課題を準備してくること	
<テキスト> 特になし	
<参考書・参考資料等> 授業の中で、必要に応じて指示する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加状況と学期中の課題によって評価する。	

専門教育科目選択必修・学部演習	
組織神学学部演習 b	須田 拓
	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 組織神学学部演習 a と通年で履修・登録することを原則とする
教職課程における要件・区分等	該当せず
<授業のテーマ> 学部卒業論文を作成する。	
<到達目標> 学部卒業論文を作成する。	
<授業の概要> 受講者を3つのグループに分け、順に中間発表を重ねながら、卒業論文を作成する。	
<履修条件> 前期と同じ。	
<授業計画>	
第1回 オリエンテーション	
第2回 文献表・主要文献の内容概観の発表（第1グループ・第2グループ前半）	
第3回 文献表・主要文献の内容概観の発表（第2グループ後半・第3グループ）	
<第1サイクル>（1,000字程度を執筆してくる）	
第4回 第1グループのメンバー各自の発表	
第5回 第2グループのメンバー各自の発表	
第6回 第3グループのメンバー各自の発表	
<第2サイクル>（2,000字程度を執筆してくる）	
第7回 第1グループのメンバー各自の発表	
第8回 第2グループのメンバー各自の発表	
第9回 第3グループのメンバー各自の発表	
<第3サイクル>（3,000字程度を執筆してくる）	
第10回 第1グループのメンバー各自の発表	
第11回 第2グループのメンバー各自の発表	
第12回 第3グループのメンバー各自の発表	
<第4サイクル>（4,000字程度を執筆してくる）	
第13回 第1グループのメンバー各自の発表	
第14回 第2グループのメンバー各自の発表	
第15回 第3グループのメンバー各自の発表	
<準備学習等の指示> 論文作成に積極的に取り組むこと	
<テキスト> なし	
<参考書・参考資料等> なし	
<学生に対する評価（方法・基準）> 最終的に提出された卒業論文によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（2）に基づいて評価する。	

専門教育科目選択必修・学部演習		
歴史神学学部演習 a	関川 泰寛 藤野 雄大	<担当形態> 複数
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 歴史神学学習の方法論の習得と学部論文作成の手順を学ぶ。		
<到達目標> 一次史料、二次史料の読み方、歴史神学方法論を身に付ける。		
<授業の概要>歴史神学の学問研究のために必要な基礎概念、史料の扱い方、論文作成の方法等を学ぶ。 テキストを割り当てて発表して内容をつかむ。各自の発表やクラスでの貢献を重視する。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画>  I 歴史神学の論文を書くための基礎知識 1 歴史神学とは 2 一次史料と二次史料 テキスト発表①1章(22頁以下) 3 一次史料を読む テキスト発表②2章(33頁以下) 4 一次史料を読む テキスト発表③3章(50頁以下) 5 二次史料を読む テキスト発表④4章(65頁以下) 6 二次史料を読む テキスト発表⑤5章(83頁以下) 7 歴史神学論文を読む テキスト発表⑥6章(103頁以下) 8 歴史神学論文を読む テキスト発表⑦7章(123頁以下)  II 学部論文作成 9 作成の注意と準備 テキスト発表⑧8章(143頁以下) 10 論文の計画と執筆、注のつけ方⑨9章(158頁以下) 11 論文計画発表①論文のテーゼ、目次、一次史料 12 論文計画発表②参考文献表、二次史料 13 論文計画発表③アウトライン 14 ディカッション 15 まとめ		
<準備学習等の指示> 歴史神学と関わる一次、あるいは二次資料を一つでも読んでおくこと。		
<テキスト> 澤田昭夫『論文の書き方』(講談社学術文庫153)。このテキストは、各自購入しておくこと。加えてN.Cantor, How to Study History を部分的に読む。こちらは、該当箇所を関川が配布する。		
<参考書・参考資料等> その都度示す。		
<学生に対する評価(方法・基準)> 分担発表とクラスでの討議の貢献度、レポート等状況によって総合的に評価する。		

専門教育科目選択必修・学部演習		
歴史神学学部演習 b	関川 泰寛 藤野 雄大	<担当形態> 複数
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 歴史神学論文を書くための基礎作業、ならびに各個教会史を批判的に読み解く訓練をする。		
<到達目標> 一次史料、二次史料の読み方、歴史神学方法論を修得するとともに、日本の教会史を讀み的確に評価できるようにする。		
<授業の概要> 歴史神学の学問研究のための実践的な研究を行う。また将来牧師として関わるであろう教会史執筆を想定して、各個教会史を讀み、論評するという実践的準備も兼ねる。最後に学部論文作成を行う。各自の発表やクラスでの貢献を重視する。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> I 歴史神学の論文を書くための実践的研究 1 歴史神学と歴史学の流れ講義 2 論文作成の用いる一次史料と二次史料の内容紹介と分析 3 一次史料を讀む 内容紹介と評価 4 二次史料を讀む 内容紹介と評価 5 歴史神学論文を書く I 論文の構想と参考文献 6 歴史神学論文を書く II 目次と主題  II 教会史を書くための実践的研究 7 各個教会史を讀む 発表 i 教会史の論評の方法 8 各個教会史を讀む 発表 ii 一次史料と二次史料 9 各個教会史を讀む 発表 iii 教会史を書くという視点から 10 その批判的検討 11 教会史と日本の教会の諸問題・教会の制度と神学 12 教会史を書く 13 論文中間発表 i 論文のテーゼの深化 14 論文中間発表 ii 序と論文概要 15 まとめ		
<準備学習等の指示> 歴史神学と関わる一次、あるいは二次資料を一つでも読んでおくこと。		
<テキスト> 引き続き澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫153）を用いる。		
<参考書・参考資料等> 分担発表とクラスでの討議の貢献度、レポート等によって総合的に評価する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 分担発表とクラスでの討議の貢献度、レポート等状況によって総合的に評価する。		

専門教育科目選択必修・神学書講読		
英語神学書講読・聖書 I	焼山 満里子	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 新約聖書学の研究書を読む。		
<到達目標> 論文を書く際に各自必要になる聖書学の研究書を読めるように講読になれる。		
<授業の概要> 予習として講読をしてきたものを授業中に検討し講読を進める。		
<履修条件> 英語Ⅱ履修済みか同程度の英語読解力を有すること。		
<授業計画>  第1回 オリエンテーション（英語辞書持参のこと） 第2回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.1 第3回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.2 第4回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.3 第5回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.4 第6回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.5 第7回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.6 第8回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.7 第9回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.8 第10回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.9 第11回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.10 第12回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.11 第13回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.12 第14回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.13 第15回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.14  定期試験  進度は受講者の関心によって適宜調整する。		
<準備学習等の指示> 毎回の授業で扱う箇所を一通り訳して授業に出席すること。		
<テキスト> Victor Furnish, <i>The Theology of the First Letter to the Corinthians</i> , Cambridge University Press, 1999.		
<参考書・参考資料等> 文法書、辞書は使いやすいものを各自準備してください。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 通常の授業参加。		

専門教育科目選択必修・神学書講読		
英語神学書講読・聖書Ⅱ	焼山 満里子	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 聖書学の研究書が読めるように英語講読の力を養う。		
<到達目標> 論文を書く際に各自必要になる聖書学の研究書を読めるように講読になれる。		
<授業の概要> 予習として講読をしてきたものを授業中に検討し講読を進める。		
<履修条件> 英語Ⅱ履修済みか同程度の英語読解力を有すること。		
<授業計画>  第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 28 第3回 テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 29 第4回 テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 30 第5回 テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 31 第6回 テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 32 第7回 テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 33 第8回 テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 34 第9回 テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 35 第10回 テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 36 第11回 テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 37 第12回 テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 38 第13回 テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 39 第14回 テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 40 第15回 テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 41  定期試験  進度は受講者の関心によって適宜調整する。		
<準備学習等の指示> 毎回の授業で扱う箇所を一通り訳して授業に出席すること。		
<テキスト> Victor Furnish, <i>The Theology of the First Letter to the Corinthians</i> , Cambridge University Press, 1999.		
<参考書・参考資料等> 文法書、辞書は使いやすいものを各自準備してください。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 通常の授業参加。		

専門教育科目選択必修・神学書講読	
独語神学書講読・聖書 I	大住 雄一
<担当形態> 単独	
前期・2単位	<登録条件>
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず
<授業のテーマ> 聖書学論文においても、ドイツ語だからできる議論があり、また、もちろん議論がドイツ語の制約を受ける場合がある。ドイツ語で書かれた聖書学論文を読むという体験を共有したい。	
<到達目標> 旧新約聖書学研究に必須のドイツ語文献の考え方の背景を知る。	
<授業の概要> Rolf Rendtorff, Die Tora und die Propheten, in: Hardmeier / Kessler / Ruhe (Hg.) Freiheit und Recht, Gütersloh, 2003. 155-161. を丹念に読む。	
<履修条件>	
<授業計画>  第1回 オリエンテーション 文法書、辞書について 第2回 第1段落 第3回 第2段落 第4回 第3段落 第5回 第4～5段落 第6回 第6～7段落 第7回 第8段落 第8回 第9段落 第9回 第10段落 第10回 第11段落 第11回 第12段落 第12回 第13段落 第13回 第14段落 第14回 第15段落 第15回 第16段落 まとめ	
<準備学習等の指示> 取り扱う箇所を出来る限り正確に和訳して授業に臨むこと。	
<テキスト> 授業に関係する箇所のコピーを第一回授業時に配付する。	
<参考書・参考資料等>	
<学生に対する評価（方法・基準）> 各授業での翻訳と文法的説明の発表を評価する。	

専門教育科目選択必修・神学書講読	
独語神学書講読・聖書Ⅱ	大住 雄一
<担当形態> 単独	
後期・2単位	<登録条件>
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 聖書学論文においても、ドイツ語だからできる議論があり、また、もちろん議論がドイツ語の制約を受ける場合がある。ドイツ語で書かれた聖書学論文を読むという体験を共有したい。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; 旧新約聖書学研究に必須のドイツ語文献の考え方の背景を知る。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; Günter Stemberger, Zum Verständnis der Tora im rabbinischen Judentum: Erich Zenger (Hg), Die Tora als Kanon für Juden und Christen, Basel u. a. 1996, S. 329-343. を読む。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt;</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション 文法書、辞書について  第2回 序  第3回 1. 1～1. 2  第4回 1. 3  第5回 1. 4  第6回 2. 1～2. 2  第7回 3. 1～3. 2  第8回 3. 2～3. 3  第9回 4. 1  第10回 4. 2  第11回 5. 1  第12回 5. 2  第13回 5. 3  第14回 5. 4  第15回 まとめ</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 取り扱う箇所を出来る限り正確に和訳して授業に臨むこと。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; 授業に係る箇所のコピーを第一回授業時に配付する。</p>	
<p>&lt;参考書・参考資料等&gt;</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; 各授業での翻訳と文法的説明の発表を評価する。</p>	

専門教育科目選択必修・神学書講読		
英語神学書講読・組織 I	神代 真砂実	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 特になし(学期毎で履修可)。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 英語による組織神学関係の文書を講読することを通して、英語の専門書をひもといていくための能力を高める。併せて当該文書が扱う主題についての理解を深める。Iでは、比較的平易なものを読む。		
<到達目標> ①一般的な英語力の向上、②組織神学にかかわる英語の語彙の習得、③テキストの内容について自分の言葉で説明出来るようになること。		
<授業の概要> 生誕510年を迎えるカルヴァンについて事典項目を読む。1センテンスずつ訳して貰いながら、適宜、解説を加える。		
<履修条件> 英語IIを履修済みか、それと同等以上の学力を有していること。		
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>Peter McEnhill and George Newlands, <i>Fifty Key Christian Thinkers</i> (London: Routledge, 2004), s.v. "Calvin, John"をテキストとする。</p> <p>第1回 オリエンテーション  第2回 テキスト、p. 91.  第3回 同、p. 92.  第4回 同、pp. 92-93.  第5回 同、p. 93.  第6回 同、pp. 93-94.  第7回 同、pp. 94-95.  第8回 同、p. 95.  第9回 同、pp. 95-96.  第10回 同、pp. 96-97.  第11回 同、p. 97.  第12回 同、pp. 97-98.  第13回 同、pp. 98-99.  第14回 同、pp. 99-100.  第15回 同、pp. 100-101.</p>		
<準備学習等の指示> 予習してくること。(英和辞典は紙ベースの中辞典を使うことを強く勧める。)		
<テキスト> 担当者が用意するプリント。		
<参考書・参考資料等> 特になし。		
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業中の和訳の出来と小テストによる。		

専門教育科目選択必修・神学書講読		
英語神学書講読・組織Ⅱ	神代 真砂実	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 特になし(学期毎で履修可)。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 英語による組織神学関係の文書を講読することを通して、英語の専門書をひもといていくための能力を高める。併せて当該文書が扱う主題についての理解を深める。Ⅱでは、Ⅰよりも高度なものを読む。		
<到達目標> ①一般的な英語力の向上、②組織神学にかかわる英語の語彙の習得、③(より高度な)テキストの内容について自分の言葉で説明出来るようになること。		
<授業の概要> R・ジェンソンの晩年の講演に基づく組織神学概説を読む。1センテンスずつあてて、訳してもらおう。適宜、内容について解説していく。		
<履修条件> 英語Ⅱを履修済みか、それと同等以上の学力を有していること。		
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>Robert W. Jenson, <i>A Theology in Outline</i> (New York: Oxford University Press, 2016)から、第3章(“Jesus and Resurrection”)を読む。</p> <p>第1回 オリエンテーション  第2回 テキスト、pp. 26-27.  第3回 同、pp. 27-28.  第4回 同、pp. 28-29.  第5回 同、pp. 29-30.  第6回 同、pp. 30-31.  第7回 同、pp. 31-32.  第8回 同、pp. 32-33.  第9回 同、pp. 33-34.  第10回 同、pp. 34-35.  第11回 同、pp. 35-36.  第12回 同、pp. 36-37.  第13回 同、pp. 37-38.  第14回 同、pp. 38-39.  第15回 文法面および内容面についてのまとめ</p>		
<準備学習等の指示> 予習してくること。(英和辞典は紙ベースの中辞典を使うことを強く勧める。)		
<テキスト> 担当者が用意するプリント。		
<参考書・参考資料等> 特になし。		
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業中の和訳の出来と小テストによる。		

専門教育科目選択必修・神学書講読		
独語神学書講読・組織 I	芳賀 力	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 学期ごとの登録も可。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 聖霊の到来という視点から、教会と神の国について考える。		
<到達目標> ドイツ語の神学的表現に慣れ親しみ、内容を正確に理解する訓練を行う。		
<授業の概要> H.-J. クラウス『組織神学』のテキストを順番に訳しながら、教義学的論述をじっくり味わう。		
<履修条件> ドイツ語の基本文法を一応終えていること。		
<授業計画>  第1回      オリエンテーション 第2回      § 1 9 6 第3回      § 1 9 7 第4回      § 1 9 8 第5回      § 1 9 9 第6回      § 2 0 0 第7回      § 2 0 1 第8回      § 2 0 2 第9回      § 2 0 3 第10回     § 2 0 4 第11回     § 2 0 5 第12回     § 2 0 6 第13回     § 2 0 7 第14回     § 2 0 8 第15回     § 2 0 9		
<準備学習等の指示> 辞書をよく引いて、不明な単語がないようにしておくこと。		
<テキスト> Hans-Joachim Kraus, Systematische Theologie im Kontext biblischer Geschichte und Eschatologie, Neukirchen 1983. こちらでコピーを用意する。		
<参考書・参考資料等> 特になし。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席と授業での読解作業を評価する。		

専門教育科目選択必修・神学書講読		
独語神学書講読・組織Ⅱ	芳賀 力	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 学期ごとの登録も可。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 前期に続いて、聖霊の到来という視点から、教会と神の国について考える。		
<到達目標> 前期に続いて、ドイツ語の神学的表現に慣れ親しみ、内容を正確に理解する訓練を行う。		
<授業の概要> 前期に続いて、H.-J. クラウス『組織神学』のテキストを順番に訳しながら、教義学的論述をじっくり味わう。		
<履修条件> ドイツ語の基本文法を一応終えていること。		
<授業計画>  第1回 § 2 1 0 第2回 § 2 1 1 第3回 § 2 1 2 第4回 § 2 1 3 第5回 § 2 1 4 第6回 § 2 1 5 第7回 § 2 1 6 第8回 § 2 1 7 第9回 § 2 1 8 第10回 § 2 1 9 第11回 § 2 2 0 第12回 § 2 2 1 第13回 § 2 2 2 第14回 § 2 2 3 第15回 § 2 2 4		
<準備学習等の指示> 辞書をよく引いて、不明な単語がないようにしておくこと。		
Hans-Joachim Kraus, Systematische Theologie im Kontext biblischer Geschichte und Eschatologie, Neukirchen 1983. こちらでコピーを用意する。		
<参考書・参考資料等> 特になし。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席と授業での読解作業を評価する。		

専門教育科目選択必修・神学書講読		
英語神学書講読・組織歴史 I	藤野 雄大	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 英語で書かれた組織神学（歴史）に関する入門書を講読することによって、英語の神学文献を理解するための基本的な力を養う。		
<到達目標> 英語の基本的な文法を理解し、組織神学（歴史）に関する英語の語彙力を向上させる。英語の神学文献を翻訳し理解した上で、神学的議論を展開することができる。		
<授業の概要> 1センテンスごとに訳してもらい、適宜、解説を加える。		
<履修条件> 英語Ⅱ履修済みか、それと同程度の英語力を有していること。		
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 テキスト (Kelly M. Kapic, <i>A Little Book for New Theologians</i>)、pp.15-20.</p> <p>第3回 テキスト、pp.21-24.</p> <p>第4回 テキスト、pp.25-29.</p> <p>第5回 テキスト、pp.30-33.</p> <p>第6回 テキスト、pp.34-37.</p> <p>第7回 テキスト、pp.41-44.</p> <p>第8回 テキスト、pp.45-48.</p> <p>第9回 テキスト、pp.49-52.</p> <p>第10回 テキスト、pp.53-57.</p> <p>第11回 テキスト、pp.58-63.</p> <p>第12回 テキスト、pp.64-67.</p> <p>第13回 テキスト、pp.68-70.</p> <p>第14回 テキスト、pp.71-75.</p> <p>第15回 テキスト、pp.76-79.</p> <p>定期試験</p> <p>・受講者の理解度に応じて進度は適宜変更する。</p>		
<準備学習等の指示> 必ず予習（該当箇所の和訳）をして授業にのぞむこと。		
<テキスト> 担当者が用意するプリント。		
<参考書・参考資料等> 特に定めないが、英和辞典、英文法解説書などは各自準備すること。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席状況、授業への参加態度、期末試験を総合的に評価する。		

専門教育科目選択必修・神学書講読		
英語神学書講読・組織歴史Ⅱ	藤野 雄大	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 教会史に関する英語の神学書を講読することによって、英語の神学文献への理解力をより向上させる。		
<到達目標> 英語を構造的に理解し、歴史神学を学ぶために必要な語彙を習得する。英語文献を読み、教会史に関する基本的な知識を身につける。		
<授業の概要> 1センテンスごとに訳してもらい、適宜、解説を加える。		
<履修条件> 英語Ⅱ履修済みか、それと同程度の英語力を有していること。		
<授業計画>  第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト (Bruce L. Shelley, <i>Church History in Plain Language</i> 4 <sup>th</sup> ed.)、pp.247-253. 第3回 テキスト、pp.254-257. 第4回 テキスト、pp.258-262. 第5回 テキスト、pp.263-266. 第6回 テキスト、pp.267-270. 第7回 テキスト、pp.271-274. 第8回 テキスト、pp.275-278. 第9回 テキスト、pp.279-281. 第10回 テキスト、pp.282-286. 第11回 テキスト、pp.287-291. 第12回 テキスト、pp.292-296. 第13回 テキスト、pp.297-302. 第14回 テキスト、pp.303-307. 第15回 テキスト、pp.308-312. 定期試験  ・受講者の理解度に応じて進度は適宜変更する。		
<準備学習等の指示> 予習 (該当箇所)の翻訳)を必ずして授業にのぞむこと。		
<テキスト> 担当者が用意するプリント。		
<参考書・参考資料等> 特になし。英和辞書と英文法の解説書は各自用意すること。		
<学生に対する評価 (方法・基準)> 出席状況、授業への参加態度、期末試験を総合的に評価する。		

専門教育科目選択・聖書神学関係		
旧約聖書神学Ⅳ	左近 豊	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 旧約聖書に見出される神学思想の現代的意義について考察する。		
<到達目標> 特に旧約聖書の「嘆き」に注目し、教会の礼拝、牧会、祈り、霊的生活において旧約聖書神学的視座に立って思索できるようになること目的とする。		
<授業の概要> 危機の時代に発せられた言葉として旧約詩編、エレミヤ書、哀歌等を取り上げ、参照すべき文献を精読し、また聖書テキストを文芸学的手法を用いて分析し、その様式や語り口の特徴を理解し、現代の危機に向けて教会が語るべき言葉を探求する。		
<履修条件>		
<授業計画>  第1回 序 課題の設定：現代の教会に仕える私たちが、旧約聖書に問い、また逆に問われている問題、特に「嘆き」に注目し、授業全体の課題を設定する 第2回 旧約聖書と現代（1）：現代を旧約聖書神学的視点から考察する。 第3回 旧約聖書と現代（2）：現代日本を旧約聖書神学的視点から考察する 第4回 証言としての旧約聖書：旧約聖書の証言性に注目し、「嘆き」を通して証しされる神、信仰共同体、歴史について考察する 第5回 聖書における嘆きの神学的考察の可能性を探る 第6回 聖書における崩壊期の思想について 第7回 日本の霊的生活における悲哀の思想について 第8回 旧約聖書 嘆きの詩編（1）：その様式と内容について考察する 第9回 旧約聖書 嘆きの詩編（2）：「嘆きの詩編」の神学的主題について考察する 第10回 旧約聖書 エレミヤ書：「エレミヤ書」の嘆きの様式と内容について考察する 第11回 旧約聖書 哀歌（1）：「哀歌」の様式と内容について考察する 第12回 旧約聖書 哀歌（2）：「哀歌」の神学的主題について考察する 第13回 信仰共同体の歴史における嘆き：影響史的視点から哀歌解釈について考察する 第14回 キリストの受難における嘆き：嘆きの礼拝学的意味を考察する 第15回 現代の嘆きの詩：現代における旧約詩編の展開例として数名の信仰詩人の詩を取り上げて考察する		
<準備学習等の指示> 各授業で挙げられる参考文献に事前に目を通しておくこと		
<テキスト> ・聖書 ・『3・11以降の世界と聖書』（日本基督教団出版局、2016年） ・『現代聖書注解 哀歌』（日本基督教団出版局、2013年） その他授業の中で指示する。		
<参考書・参考資料等> 各回レジュメに参考文献を挙げる。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業参加（発題・コメントシート） 60% 期末レポート 40%		

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係		
ヒブル語 I (1,2)	本間 敏雄	<担当形態> 単独
前期・4単位	<登録条件> 通年の登録が望ましい。後期登録は前期単位取得者。	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。		
<到達目標> 平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。		
<授業の概要> 基礎文法の説明、練習問題、小テスト、マソラ本文の入門的事柄。		
<履修条件> 単位取得者は継続して後期（Ⅱ）も履修すること。原則として学部4年生。旧約専攻者は必修。		
<授業計画> 第1回 1課 ヒブル語とは、文字 (Alphabet)、書き方 第2回 1課 写字練習、写本文字(Codex Leningradensis) 第3回 2課 母音記号 (Vowel-signs) 第4回 3, 4課 音節、Shewa、母音文字、Mappiq 第5回 5, 6課 Dagesh、Rafe、母音の分類と変化 第6回 7, 8課 喉音、アクセント等諸記号、Ketib・Qere 第7回 9課 定冠詞、形容詞 (1)、接続詞 (Conjunction) 第8回 9課 (2) 第9回 10課 人称・指示代名詞 (Pronoun)、関係代名詞 (1)、疑問詞 第10回 11課 前置詞 (Preposition)、目的辞 (nota accusativi) 第11回 11課 (2) 人称代名詞語尾 (Suffix) (1) : 前置詞、目的辞付加形 第12回 12課 動詞 : 完了態 (Perfect) 第13回 13課 未完了態 (Imperfect) 第14回 14課 願望形 (Jussive、Cohortative) 継続ウァウ (Waw Consecutive)、従属ウァウ 第15回 14課 (2) 第16回 15課 命令形 (Imperative)、不定詞 (Infinitive) 第17回 15課 (2) 分詞 (Participle) 第18回 16課 状態動詞 第19回 17課 名詞 : 語形変化、分類、独立形、合成形 (Construct state) 第20回 17課 (2) 合成形、形容詞 (2) 第21回 18課 名詞の変化 (第一類)、不規則変化名詞 第22回 18課 (2) 第23回 19課 名詞の変化 (第二類)、副詞と形成接辞、所有 第24回 20課 名詞の変化 (第三、第四、第五類)、名詞形成と接辞 第25回 21課 人称代名詞語尾 (2) - I : 名詞の～ 第26回 21課 I (2) 第27回 21課 人称代名詞語尾 (2) - II : 動詞の～ 第28回 21課 II (2) 第29回 全体復習 第30回 総まとめ 定期試験		
<準備学習等の指示> 予習大切。		
<テキスト> 「ヒブル語入門」(改訂増補版 左近/本間)		
<参考書・参考資料等> J.Weingreen, A Practical Grammar for Classical Hebrew (Clarendon Press, Oxford)		
<学生に対する評価 (方法・基準) > 小テスト、筆記試験で評価する。		

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係		
ヒブル語Ⅱ	本間 敏雄	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。		
<到達目標> 平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。		
<授業の概要> 基礎文法の説明、練習問題、小テスト、マソラ本文の入門的事柄。		
<履修条件> ヒブル語Ⅰ単位取得者。原則として学部4年生。旧約専攻者は必修。		
<授業計画> 前期より継続 第1回 22課 動詞の語幹、基本語幹：Qal、Nifal 第2回 23課 強意語幹：Piel、Pual、Hithpael 第3回 23課（2） 第4回 24課 使役語幹：Hifil、Hofal 第5回 24課（2） 第6回 25課 不規則動詞：Pe 喉音動詞 第7回 26課 Ayin 喉音、Pe 喉音動詞、関係代名詞（2） 第8回 27課 二重 Ayin 動詞、二根字動詞 第9回 28課 数詞、年齢表記 第10回 29課 弱 Pe 動詞（1）：Pe Alef、Pe Nun 動詞 第11回 29課（2） 第12回 30課 弱 Pe 動詞：Pe Waw、Pe Yod 動詞30課 第13回 31課 弱 Lamed 動詞：Lamed Alef、Lamed He 動詞 第14回 32課 二重弱動詞 第15回 総まとめ 定期試験		
<準備学習等の指示> 予習大切。		
<テキスト> 「ヒブル語入門」（改訂増補版 左近／本間）		
<参考書・参考資料等> J.Weingreen, A Practical Grammar for Classicak Hebrew (Clarendon Press, Oxford)		
<学生に対する評価（方法・基準）> 小テスト、筆記試験で評価する。		

専門教育科目選択・聖書神学関係		
イスラエル古代史	田中 光	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 旧約聖書に反映されたイスラエルの民の歴史の探究		
<到達目標> 上記の歴史を概観的に学ぶことで、旧約聖書の背景となっている歴史を知識として身につけること。		
<授業の概要> 担当教員の作成したレジュメに基いて講義を行うが、同時に学生も事前準備と担当者による発表によって授業に積極的に参加していただく（下記参照）。		
<履修条件> 日本基督教団の補教師試験を受験する者で、聖書通論2旧約時代史を履修していない者は履修すること。		
<授業計画>  第1回 オリエンテーション 第2回 聖書時代以前の古代オリエント世界とパレスチナ地方の地理 第3回 カナン定着以前の時代：族長時代 第4回 出エジプト 第5回 カナン定着 第6回 統一王国の成立と分裂 第7回 北王国の歴史：イエフ王朝まで 第8回 北王国の滅亡と南ユダ王国の歴史① 第9回 南ユダ王国の歴史② 第10回 バビロン捕囚とベルシャ時代① 第11回 バビロン捕囚とベルシャ時代②：預言者から見た捕囚 第12回 ヘレニズム時代 第13回 ローマ時代 第14回 まとめ+中近東文化センター見学（予定） 第15回 知識の確認 定期試験		
<準備学習等の指示> 学生はテキスト（以下参照）を事前に読んだ上で授業に臨むこと。それと共に、各回に担当者を決め、各回の講義に関連する地図を、「参考書」の項目に挙げた書物からコピーし、短い解説をしていただく（5-10分程度）。		
<テキスト> 基本的には、樋口進『よくわかる旧約聖書の歴史』教団出版局、を定めるが、より詳細で広範な学びを志す学生には、以下の二冊をお勧めする。マルティン・メツガー（山我哲雄訳）『古代イスラエル史』新地書房、P.K.マッカーター・ジュニア他（池田裕、有馬七郎訳）『最新・古代イスラエル史』ミルトス。		
<参考書・参考資料等> テキストの他に参考にすべき書物は適宜レジュメの中で指示する。各回の地図に基づいた発表のために、以下の書物を用いると良い。バリー・J・バイツェル（船本弘毅監修、山崎正浩他訳）『地図と聖書で読む聖書大百科』。他に、地図を用いた発表のために以下の書物を用いても良い。Adrian Curtis, <i>Oxford Bible Atlas</i> , Oxford University Press; Paul H. Wright, <i>Rose Then and Now Bible Atlas</i> , Rose Publishing.		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業のための準備の度合い、各回の発表、定期試験によって評価を行う。		

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係		
新約原典講読 I	三永 旨従	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 編集史批判の立場から共観福音書の各文書の特徴を扱う。		
<到達目標> 編集史を確立したといわれる小論文を読み、学問的傾向を理解する。		
<授業の概要> 新約聖書における編集史批判の重要性を示した文献を読んだ後、各文書の文体的特徴及び文法を重視しつつ、講読の基礎を学ぶ。		
<履修条件> ギリシャ語1、2を修得済みの者		
<授業計画>  第1回 辞書、コンコーダンスの用法について 第2回 "The Stilling of The Storm in Matthew" 講読 P.52-54 第3回 "The Stilling of The Storm in Matthew" 講読 P.54-57 第4回 「嵐を鎮める」読解（マルコ） 第5回 「嵐を鎮める」読解（マタイ） 第6回 「嵐を鎮める」読解（ルカ） 第7回 「ゲッセマネの祈り」読解（マルコ） 第8回 「ゲッセマネの祈り」読解（マタイ） 第9回 「ゲッセマネの祈り」読解（ルカ） 第10回 「十字架」読解（マルコ） 第11回 「十字架」読解（マタイ） 第12回 「十字架」読解（ルカ） 第13回 「ガリラヤ宣教」読解（マルコ） 第14回 「ガリラヤ宣教」読解（マタイ） 第15回 「ガリラヤ宣教」読解（ルカ） 定期試験		
<準備学習等の指示> 該当箇所に関して必ず辞書、コンコーダンス等で予習してクラスに出席。		
<テキスト> ・"The Stilling of The Storm in Matthew" G. Bornkamm in <u>Tradition &amp; Interpretation in Matthew</u> , G. Bornkamm, G. Barth, H.J. Held (1960) ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE (27版) に基づいた対観福音書（授業にて紹介） ・"A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers" W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark, Ltd. (各自で購入することを強く勧める。)		
<参考書・参考資料等> ギリシャ語ベースで執筆された各福音書の注解書		
<学生に対する評価（方法・基準）> クラスへの参加あるいは試験による評価		

専門教育科目選択・聖書神学関係		
新約原典講読Ⅱ	三永 旨従	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 前期に学んだ共観福音書の各文書の文体的特徴をふまえた上で、さらに各文書をギリシャ語で読むことの意味を問う。		
<到達目標> 具体的なテキストにあたり、原典の読解力をつける。		
<授業の概要> 前期とは別の聖書箇所における各文書の文体的特徴及び、文法を重視しながら理解を深める。		
<履修条件> ギリシャ語1、2を修得済みの者		
<授業計画>  第1回 「盲人の癒し」読解（マルコ） 第2回 「盲人の癒し」読解（マタイ） 第3回 「盲人の癒し」読解（ルカ） 第4回 「悪霊追放」読解（マルコ） 第5回 「悪霊追放」読解（マタイ） 第6回 「悪霊追放」読解（ルカ） 第7回 「山上の変貌」読解（マルコ） 第8回 「山上の変貌」読解（マタイ） 第9回 「山上の変貌」読解（ルカ） 第10回 「エルサレム入城」読解（マルコ） 第11回 「エルサレム入城」読解（マタイ） 第12回 「エルサレム入城」読解（ルカ） 第13回 「復活の言及箇所」読解（マルコ） 第14回 「復活顕現」読解（マタイ） 第15回 「復活顕現」読解（ルカ） 定期試験		
<準備学習等の指示> 該当箇所に関して必ず辞書、コンコードダンス等で予習してクラスに出席。		
<テキスト> ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE (27版) に基づいた対観福音書 ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A. S. Geden, T&T Clark. Ltd. (各自で購入することを強く勧める。)		
<参考書・参考資料等> ギリシャ語ベースで執筆された各福音書の注解書		
<学生に対する評価（方法・基準）> クラスへの参加あるいは試験による評価		

専門教育科目選択・歴史神学関係		
宗教史Ⅱ	小室 尚子	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教科に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 宗教史 [新法] 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 日本人の世界観を形成する諸宗教について学ぶことにより、日本における福音宣教の課題を探る。		
<到達目標> ①日本における諸宗教の歴史、内容、日本的展開について知る。②日本という異教社会の中で福音を伝える方法を考える。		
<授業の概要> 日本における諸宗教の歴史的・日本的展開、およびその内容・形態の概説と、キリスト教伝来後の、キリスト教とそれらの宗教との関係を学ぶ。また歴史的に培われた日本人の伝統的思想に基づいた現代日本人の宗教観を分析・考察し、福音宣教における諸問題の克服への緒を探る。		
<履修条件>		
<授業計画>  第1回 序論：キリスト教受容における（日本人の）問題点 第2回 宗教と世界観の関係／キリスト教の世界観 第3回 日本人の世界観 第4回 日本における宗教史概説 第5回 日本人のカミ観念の形成 第6回 仏教伝来と「神道」 第7回 「習合」という形態 第8回 日本仏教の形成とその特質 第9回 中国の宗教の日本的展開 第10回 民衆の宗教と「日本宗教」 第11回 日本におけるキリスト教史概説 第12回 日本人の精神的伝統とキリスト教 第13回 日本におけるキリスト教土着化の問題：宣教における諸問題（1）丸山正男、武田清子の分析から 第14回 日本におけるキリスト教土着化の問題：宣教における諸問題（2）三つの問題点（「神」理解、「贖罪」理解、「教会」理解） 第15回 まとめ：日本の教会の課題と使命		
<準備学習等の指示> 提示した参考文献や配布資料は事前に目を通しておくこと		
<テキスト> 担当者がプリント教材・資料を用意する		
<参考書・参考資料等> 初回授業において参考文献表を配布する		
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート（60%）と授業への参加意識（40%）によって評価する		

専門教育科目選択・歴史神学関係		
アメリカ教会史	藤野 雄大	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> アメリカ教会史の概論		
<到達目標> アメリカ教会史における主要な人物、テーマを理解し、アメリカの教会の形成過程をたどる。		
<授業の概要> アメリカ教会史における重要テーマを概観する。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画>  第1回 序論：教会のアメリカ化のプロセス 第2回 植民地時代の教会 第3回 第一次大覚醒運動 第4回 啓蒙主義とアメリカにおけるユニテリアニズムの隆盛 第5回 フロンティアの拡大とアメリカ的キリスト教の誕生 第6回 ニューヘイブン神学とチャールズ・フィニーの「新しい方法」 第7回 リヴァイヴァリズム（第二次大覚醒運動）の功罪 第8回 長老派教会の分裂とプリンストン神学 第9回 マーサーズバーグ神学の貢献 第10回 ルター派およびローマ・カトリック教会におけるアメリカ化の影響 第11回 近代化の影響とソーシャル・ゴスペルの展開 第12回 信仰復興運動のその後の展開 第13回 ホーリネスおよびペンテコステ運動 第14回 モダニズム対ファンダメンタリズム 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 高校時代の教科書などで、アメリカの歴史に関する基礎知識を復習しておくが良い。		
<テキスト> 特に定めない。授業ごとにレジュメを配布する。		
<参考書・参考資料等> 授業の中で、随時紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への出席、参加、期末レポートを総合的に評価する。		

専門教育科目選択・歴史神学関係		
教理史 I	棚村 重行	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 神学部3, 4年向き。	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> キリスト教会史の流れを踏まえ、西欧古代および中世期の主要な教理史の発展を概観する。		
<到達目標> キリスト教共同体の基本的な信仰的アイデンティティとしての各種教理の意義を理解する。		
<授業の概要> 序として教会形成と教理形成の意義を論じる。次に、古代・中世の教会共同体形成を踏まえて、各時代の主要教理の内容とその働きについて、理解を深めてゆきたい。		
<履修条件> 古代・中世教会史をすでに履修済み、ないし履修中の学生が本コースを履修するのが望ましい。		
<授業計画>  第1回 講義の紹介と序論「教会形成と教理形成」 第2回 古代教会の形成と発展：古代教理の形成主体として 第3回 古代教理史（1）：キリスト教の真理の源は一啓示、聖書と伝統論 第4回 同上（2）：キリスト教の神はどなたか—三位一体神論 第5回 同上（3）：キリスト論：キリストとはどなたか—キリスト論 第6回 同上（4）：キリストはどう救ってくださるか—救済論（義認と聖化、義化） 第7回 同上（5）：キリストの教会とは何か—教会論（教会、聖礼典、職制） 第8回 同上（6）：アウグスティヌスの神学と西方教会への歴史的意義 第9回 中世教会の発展と危機：中世教理史形成とその危機 第10回 中世教理史（1）：初期中世の啓示、聖書と伝統、三位一体とキリスト論の継承と発展 第11回 同上（2）：義化論、秘跡論、教会論、終末論について 第12回 同上（3）：盛期および後期中世の啓示、聖書と伝統、三位一体とキリスト論 第13回 同上（4）：盛期および後期中世の義化論、秘跡論、教会論、終末論について 第14回 古代・中世の教理発展から宗教改革の教理形成を見ると 第15回 まとめ 定期試験		
<準備学習等の指示> 後で指示する。		
<テキスト> 棚村重行『現代人のための教理史ガイド』（教文館）		
<参考書・参考資料等> 後で指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> （1）指定されたテキストを読む。（2）期末試験で評価する。		

専門教育科目選択・歴史神学関係		
教理史Ⅱ	藤野 雄大	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 主に宗教改革期以降、近現代にいたるまでの教理的発展の歴史を概観する。		
<到達目標> 16世紀以降の教理史上の重要人物、歴史的出来事、論争などの事項を学び、各時代の主要テーマについての基本的理解を深める。		
<授業の概要> 宗教改革時代以降の教理史上の主要テーマについて概説的に論じる。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画>  第1回 序論 第2回 ルター派神学の形成 第3回 改革派神学の形成 第4回 対抗宗教改革の展開とトレント公会議 第5回 宗教改革期の聖書と伝統 第6回 宗教改革期の恩恵論 第7回 宗教改革期の教会論 第8回 宗教改革期の聖礼典論 第9回 プロテスタント正統主義と敬虔主義 第10回 アルミニウス主義論争について 第11回 啓蒙主義によるキリスト教教理への挑戦 第12回 ロマン主義的キリスト教 第13回 自由主義神学（リベラリズム）の隆盛 第14回 新正統主義神学の展開 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 特になし。授業を真面目に聞くこと。		
<テキスト> 特に定めない。毎回の授業ではレジュメを配布する。		
<参考書・参考資料等> マクグラス『キリスト教思想史入門—歴史神学概説』（キリスト新聞社）、ベルコフ『キリスト教教理史』（日本キリスト教団出版局）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への出席、参加態度、および期末レポートによって評価する。		

専門教育科目選択・実践神学関係	
教会実習Ⅱ	ウェイン・ジャンセン
後期・2単位	<担当形態> 単独
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず
<授業のテーマ> セミオティクスとパストラル・ケア	
<到達目標> 象徴学；記号論を通して、学生は自らのアイデンティティをより理解し、又、シンボルを理解することによって、キリスト者を牧会的に助けることができるように成長する。	
<授業の概要> 宗教改革以前、キリスト者は宗教的シンボルを理解し、そのシンボルを通して神との関係や、教会との関係を知ろうとした。しかし、500年前から、プロテスタントの信者は偶像礼拝を避けるため、シンボルから離れてきた。対照的に、正教会とカトリック教会はシンボルを持っているために、自らの信仰との関係がより理解されている側面がある。牧会的な立場から考えると、プロテスタントの信者は神を、愛して下さる親として理解することが難しく、又、イエスを友として理解することも難しくなっていると言える。愛に基づく神や教会との関係は学問的、神学的説明に捉えられる傾向がある。シンボルの健全な理解により、神を父として、又、教会を母として理解することが可能になり、又、堅固な神学的土台の上に、セミオティクス（象徴学；記号論）を通して自らの信仰を理解しようとするキリスト者に魂の牧会ケアを与えることを学びとする。	
<履修条件> 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性があります。	
<授業計画>	
1回目	オリエンテーション
2回目	キリスト教建築
3回目	教会の調度品
4回目	聖職者の礼服、法衣、祭服
5回目	聖書翻訳
6回目	教会音楽と讃美歌
7回目	バプテスマの儀式
8回目	ユーカーリストの儀式
9回目	教派
10回目	諸宗教のシンボルの比較
11回目	学生プレゼンテーション
12回目	学生プレゼンテーション
13回目	学生プレゼンテーション
14回目	学生プレゼンテーション
15回目	最終評価
<準備学習等の指示> セミオティクスの定義を調べる。	
<テキスト> 講義をしながら、様々な参考書やインターネットからの参考資料を紹介する。	
<参考書・参考資料等>	
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席、ディスカッションの参加、プレゼンテーション、最終評価 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。	

専門教育科目選択・実践神学関係	
牧会心理学 b	ウェイン・ジャンセン
<担当形態> 単独	
後期・2単位	<登録条件>
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず
<授業のテーマ> 牧会における心理学的課題を学ぶこと。牧会者としてのアイデンティティを養成すること。	
<到達目標> ロールプレイを通して、クライアントや牧師の様々な立場から考えることができるようになる。	
<授業の概要> 牧会的／心理学的課題について講義をし、ロールプレイで実践的に学ぶ。	
<履修条件> 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性があります。	
<授業計画>	
<u>学習テーマ</u>	
第1回	オリエンテーション
第2回	ロールプレイ (一人対一人) 恋愛
第3回	ロールプレイ (一人対一人) DV
第4回	ロールプレイ (一人対一人) ひきこもり問題
第5回	ロールプレイ (一人対一人) 自らを赦す事
第6回	ロールプレイ (一人対一人) 相手を赦す事
第7回	ロールプレイ (一人対一人) 職場でのトラブル
第8回	ロールプレイ (一人対一人) 病名告知
第9回	ロールプレイ (一人対一人) 経済的悩み
第10回	ロールプレイ (一人対一人) 自殺
第11回	ロールプレイ (一人対一人) 霊的に乾いている
第12回	ロールプレイ (一人対二人) 結婚相談
第13回	ロールプレイ (一人対二人) 非行少年[少女]問題
第14回	ロールプレイ (一人対二人) 共に暮らしている親との人間関係
第15回	まとめ
<準備学習等の指示> いくつかの心理学ケーススタディーを読む。	
<テキスト>	
<参考書・参考資料等>	
<学生に対する評価(方法・基準)> 出席、ロールプレイの参加。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。	

専門教育科目選択・実践神学関係		
臨床牧会教育 a	ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 牧会の実習により、牧会的な心得を身につけること。		
<到達目標> 自分の牧会者像を明確にする。		
<授業の概要> 牧会実習において、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングと牧会ケアを学ぶ。		
<履修条件> 講義は登録者2人以上から6人未満で成立する。		
<授業計画>  *オリエンテーション *牧会する場でクライアントと面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。 *面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 *各学生によるケース提出とディスカッションを行う。  第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。		
<準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。		
<テキスト>		
<参考書・参考資料等>		
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末面談によって評価する。		

専門教育科目選択・実践神学関係		
説教学入門 a	小泉 健	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 聖書から聞くこと、聞いたことを語ることを、体験的に学ぶ。		
<到達目標> 自分で説教を準備するための土台を身につけること。		
<授業の概要> 説教準備の各段階を意識しつつ、学生各自が発表・実演を行い、それを素材として討論を重ねながら学ぶ。		
<履修条件> ギリシア語初級履修済み、もしくは履修中であること。		
<授業計画> <p>第1回 「説教とは何か」を考え始める</p> <p>第2回 「わたし」について語る</p> <p>第3回 「わたし」と「聖書」と「福音」</p> <p>第4回 「わたし」と「あなた」と「主イエス」</p> <p>第5回 聖書を読む、朗読する</p> <p>第6回 聖書朗読と説教</p> <p>第7回 聖書に聞く、黙想する</p> <p>第8回 聖書を読む、釈義する</p> <p>第9回 聖書を語り直す（その1）対話中心の物語として</p> <p>第10回 聖書を語り直す（その2）一人称で</p> <p>第11回 さらに黙想する（その1）説教と教義学</p> <p>第12回 さらに黙想する（その2）説教と牧会</p> <p>第13回 説教は何をしているか</p> <p>第14回 説教を読む</p> <p>第15回 言葉が語る、言語以外のものが語る</p>		
<準備学習等の指示> 説教学を学ぶ者として、また将来の説教者としての「日々聖書を読む生活」		
<テキスト> 聖書を持参すること。その他は、必要に応じて教室でプリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> <p>加藤常昭『説教への道——牧師と信徒のための説教学』日本キリスト教団出版局</p> <p>平野克己『説教を知るキーワード』日本キリスト教団出版局</p> <p>その他については授業中に文献表を配布する。</p>		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業での発表とレポート（説教）によって評価する。共通評価指標（1）の②、③、⑤を重視する。		

専門教育科目選択・専攻間共同		
アジア伝道論演習 a	朴 憲郁	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>なし	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 東南アジアにおけるキリスト教伝道		
<到達目標> キリスト教は学問理論として研究・考察され得るが、何よりも歴史の中に働く神の啓示たるイエス・キリストの福音の力として、実践的行為において存続する。それは、キリスト共同体形成と福音伝道の形をとる。この福音伝道を理論的、歴史的に考察し、特にアジア的文脈においてこの伝道の構築を目指す。		
<授業の概要> 東南アジアにおけるキリスト教伝道の展望を模索する。最初に、アジア伝道論の緒論的問題を講じた後、今回はタイとシンガポールで宣教と神学教育に携わった神学者、小山晃佑の宣教論を手掛かりに考察していく。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回： 伝道（宣教）学とは何か 第2回： アジアにおけるキリスト教－文化的、伝道論的視点から 第3回： （『水牛の神学』）－歴史を解釈する－（1～2章） 第4回： 歴史を解釈する－（3～4章） 第5回： 福音を根付かせる－（5～6章） 第6回： 福音を根付かせる（7～8章） 第7回： 福音を根付かせる－（9～10章） 第8回： タイ仏教に直面して（11章） 第9回： タイ仏教に直面して（12章） 第10回： タイ仏教に直面して（13章） 第11回： 文脈におけるキリスト教信仰の解釈（14章） 第12回： 文脈におけるキリスト教信仰の解釈（15章） 第13回： 文脈におけるキリスト教信仰の解釈（16章） 第14回： 文脈におけるキリスト教信仰の解釈（17章） 第15回： 文脈におけるキリスト教信仰の解釈（18章）		
<準備学習等の指示> 講義をするが、受講者もテーマに従って発表していただく。次週授業で扱うテキスト箇所は皆が事前に読んで予備知識をもち、議論に参加できるよう心がけること。		
<テキスト> 小山晃佑著、森泉弘次訳、『水牛神学』－アジアの文脈のなかで福音の真理を問う－、教文館、2011年。 各自で入手すること。		
<参考書・参考資料等> ・日本基督教団出版局編、『アジア・キリスト教の歴史』、1991年 ・『アジア・キリスト教史[2]』、1985年初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。 ・朴憲郁、「日本プロテスタント伝道の一考察－アジア伝道の視点から－」、『神学』、71号、2009年12月。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、学期末レポート（4000字以上）などによって評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。		

専門教育科目選択・専攻間共同		
アジア伝道論演習 b	朴 憲郁	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> なし	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 今日の伝道(宣教)学		
<到達目標> アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような展望と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。それをこのたびは、20世紀後半の代表的宣教学者の伝道理解を学ぶ。		
<授業の概要> 伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、ヒンドゥー教国のインドで長年宣教活動にたずさわったイギリス出身の宣教師、レスリー・ニュービギンの「宣教学」を一つ一つ学ぶ。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回： 序説1－伝道（宣教）学とは何か－ 第2回： 序説2（その1）－キリスト論的三位一体論 第3回： 序説2（その2）－キリスト論的三位一体論における諸宗教との対話－ 第4回： 序説3－韓国におけるキリスト論的三位一論の展開の試みとその批判 （以下、テキストに従って、5～14まで学生発表と講義） 第5回： 議論の背景 第6回： 権威の問題 第7回： 三位一体の神の宣教 第8回： 御父の御国を宣べ伝えること－信仰としての宣教－ 第9回： 御子の生を分かち合うこと－愛としての宣教－ 第10回： 聖霊の証しを担うこと－希望としての宣教－ 第11回： 福音と世界の歴史 第12回： 神の正義のための行動としての説教 第13回： 教会成長、改宗、文化 第14回： 諸宗教の中の福音 第15回： アジア伝道の反省と展望（講義）		
<準備学習等の指示> 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。随時発表もしていただく。		
<テキスト> レスリー・ニュービギン、『宣教学入門』、鈴木脩平訳、日本キリスト教団出版局編、2010年。各自で入手すること。		
<参考書・参考資料等> 1. 朴憲郁(Heon-Wook Park)、Perspective of the Northeast Asian Mission from the Viewpoint of Pauline Theology - Focused on Christology -, 『神学』72号、東京神学大学神学会、2010年、教文館、143～166頁		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、学期末レポート（4000字以上）などによって評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
宗教科教授法 B a	小泉 健	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 通年で登録すること	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校）、選択科目（高等学校）	
	<科目> [旧法] 教育課程及び指導法に関する科目 [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 各教科の指導法 [新法] 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
<授業のテーマ> キリスト教学校（中学校・高等学校）における宗教科（聖書科）の基本構造と指導法を実践的に学ぶ。		
<到達目標> 宗教科（聖書科）の目標や内容を理解する。授業指導案を作成し、実際の教授を行う力を身につける。 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。		
<授業の概要> 宗教科教師の独特の役割、宗教科授業が持つべき内容とカリキュラムの構造、授業の意味と方法を学ぶ。		
<履修条件>		
<授業計画>  第1回 キリスト教教育論（その1）神学的人間論 第2回 キリスト教教育論（その2）信仰と教育 第3回 教師論（その1）聖書科教師と教務教師 第4回 教師論（その2）聖書科教師の使命と役割 第5回 聖書科授業の目標 第6回 聖書科授業の主な内容と全体構造 第7回 聖書科授業のカリキュラム 第8回 聖書科授業における聖書と教材 第9回 聖書科授業をどう評価するか 授業の展開 第10回 授業の展開（その1）教理教育、道徳教育、問題中心の授業 第11回 授業の展開（その2）聖書的授業、象徴教授法 第12回 授業の展開（その3）文化形成 第13回 授業の方法（その1）学習指導案の作成 第14回 授業の方法（その2）神学諸科とのかかわり、教材の開発 第15回 授業の方法（その3）学習形態の工夫、授業展開を導く教授行為		
<準備学習等の指示>		
<テキスト> 聖書を持参すること。必要に応じてプリントを配布する。その他については、授業の中で教員が指示する。		
<参考書・参考資料等> 『中学校学習指導要領解説』「特別の教科 道徳」文部科学省、最新版。 『高等学校学習指導要領解説』「公民編」「福祉編」文部科学省、最新版。 学校伝道研究会編『教育の神学』ヨルダン社、1987年（絶版） 『キリスト教学校教育の理念と課題』キリスト教学校教育同盟、1991年（絶版） 『私たちの道徳 中学校』文部科学省、最新版。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 期末のレポート（学習指導案）によって評価する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
宗教科教授法 B b	小泉 健	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 通年で登録すること	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校）、選択科目（高等学校）	
	<科目> [旧法] 教育課程及び指導法に関する科目 [新法] 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 各教科の指導法 [新法] 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
<授業のテーマ> キリスト教学校（中学校・高等学校）における宗教科（聖書科）の基本構造と指導法を実践的に学ぶ。		
<到達目標> 宗教科（聖書科）の目標や内容を理解する。授業指導案を作成し、実際の教授を行う力を身につける。基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。		
<授業の概要> 学習指導案の作成、模擬授業、その振り返りを行い、授業設計の向上に取り組む。		
<履修条件>		
<授業計画>  第1回 授業の方法（その4）情報機器の活用 第2回 教材の活用と授業設計 第3回 生徒の実態と授業設計 第4回 模擬授業（その1） 弟子になる（マタイ 4章 18～22節） 第5回 模擬授業（その2） 愛のおきて（マルコ 12章 28～34節） 第6回 模擬授業（その3） タレントを活かす（マタイ 25章 14～30節） 第7回 模擬授業（その4） パン五つと魚二匹（ルカ 9章 10～17節） 第8回 模擬授業（その5） 祈り（ルカ 11章 1～13節） 第9回 模擬授業（その6） 罪を犯した者へのまなざし（ヨハネ 8章 1～11節） 第10回 模擬授業（その7） なお一つ欠けているもの（マルコ 10章 17～31節） 第11回 模擬授業（その8） 空の鳥、野の花（マタイ 6章 25～34節） 第12回 模擬授業（その9） 赦す（マタイ 18章 21～35節） 第13回 模擬授業（その10） クリスマス（ルカ 2章 1～21節） 第14回 模擬授業（その11） 十字架（マルコ 15章 1～47節） 第15回 模擬授業（その12） 復活（マルコ 16章 1～8節）  模擬授業においては、毎回一名の学生が50分の授業を行う。 その後、行われた授業を素材として、全体で討論を行う。		
<準備学習等の指示>		
<テキスト> 聖書を持参すること。必要に応じてプリントを配布する。その他については、授業の中で教員が指示する。		
<参考書・参考資料等> 『中学校学習指導要領解説』「特別の教科 道徳」文部科学省、最新版。 『高等学校学習指導要領解説』「公民編」「福祉編」文部科学省、最新版。 学校伝道研究会編『教育の神学』ヨルダン社、1987年（絶版） 『キリスト教学校教育の理念と課題』キリスト教学校教育同盟、1991年（絶版） 後藤田典子『ジュニアのための聖書入門』新教出版社、2003年。 『私たちの道徳 中学校』文部科学省、最新版。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業中の模擬授業発表および授業への参加の度合い、内容で評価する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
教育基礎論	長山 道	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 特になし。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教育の基礎理論に関する科目 [新法] 教育の基礎的理解に関する科目	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 [新法] 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	
<授業のテーマ> 教育の理念、教育に関する歴史、思想について理解し、基礎的な知識を身につける。		
<到達目標> 教育学の基本的概念を身につける。教育の歴史を理解する。教育思想史を理解する。現代における教育課題を理解する。		
<授業の概要> 教育本質論を扱った後、その源流となる西洋教育思想史をたどり、さらに日本における西洋教育思想の受容とその後の教育史を概観する。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画>  第1回 教育の本質と目的 第2回 教育を成り立たせる要素とその関連 第3回 古代ギリシアの教育観と学校教育 第4回 中世からルネサンス、宗教改革にかけての教育観の変遷 第5回 ルターの教育論と公教育 第6回 近代教育制度の成立 ―コメニウスの教育論 第7回 ロックの教育論と家庭教育 第8回 ルソーの教育論と家庭教育 第9回 カントの教育論 第10回 教育と社会 ―ベスタロッチの教育論 第11回 シュライアマハーの教育論 第12回 幼稚園の成立 ―フレーベルの教育論 第13回 ヘルバルトの教育論 第14回 デューイの教育論と新教育運動 第15回 現代社会における教育課題		
<準備学習等の指示> 特になし。		
<テキスト> レジュメを配布する。		
<参考書・参考資料等> 生徒指導提要（文部科学省）。他は講義中に紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と学期末のレポートにより評価する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
教職概論	朴 憲郁	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教職の意義等に関する科目 [新法] 教育の基礎的理解に関する科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 教職の意義及び教員の役割 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） 進路選択に資する各種の機会の提供等 [新法] 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	
<授業のテーマ> 教職の役割と意義		
<到達目標> 現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。		
<授業の概要> 今日の学校教育の課題の一つは、教師の資質と像をめぐる問題であろう。どういう教育理念と教師像を目指すべきかという基本的な主題を問いつつ、教師に関する理解の歴史の変遷、組織、見識、教育課題などに分類して考察していく。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 日本における教員養成と採用 第2回 教師の仕事－授業をつくる 第3回 学級づくりの教師 第4回 学校の管理・運営を担う教師－組織・カリキュラムのマネジメント 第5回 教員の資質能力 第6回 諸外国の教員養成 第7回 教育課程の編成と学習指導要領 第8回 道徳教育の意義と指導 第9回 特別活動の意義と役割 第10回 社会性の指導 第11回 教員研修および職務遂行のための生涯学習 第12回 教員の職務上の義務と身分保障の認識 第13回 教職の専門性とキリスト教学校の教師像 第14回 「チームとしての私立学校」と家庭、地域との関係 第15回 教職員の指導体制の充実（専門能力スタッフの参画、地域との連携など）		
<準備学習等の指示> 毎回の授業において、前半は指定テキストの分担箇所での学生発表と意見交換がなされ、後半は担当講師の講義をする。次週に扱うテキスト箇所を各自あらかじめ読んで理解しておき、意見を交し合う。		
<テキスト> 南本長徳編著、『新しい教職概論』、ミネルヴァ書房、2016年。各自で入手すること		
<参考書・参考資料等> 1. 佐藤学、『教師というアポリア＝反省的实践』、世織書房、1996年 2. 山崎・西村編著、『求められる教師像と教員養成』、ミネルヴァ書房、2005年 3. 日本教師教育学会 編、『教師とは』、学文社、2002年		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、期末レポートなどによって評価する。 出席を2/3以上満たした者を評価の対象とする。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
教育制度論	長山 道	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 特になし。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教育の基礎理論に関する科目 [新法] 教育の基礎的理解に関する科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 [新法] 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 （学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	
<授業のテーマ> 教育に関する社会的、制度的、経営的事項について理解し、基礎的な知識を身につける。地域との連携、学校安全について、具体的な事例を踏まえて理解する。		
<到達目標> 教育社会学、教育制度、教育に関する経営的事項についての基本的概念を身につける。学校と地域の連携の意義やその方法を理解する。学校安全への対応の目的や方法を理解する。		
<授業の概要> 学校社会学的に見た教育、社会における教育、教育制度の原理と基盤、および学校経営をめぐる基本問題について解説する。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画>  第1回 学校と社会 第2回 子どもの生活と指導上の課題 第3回 教育政策 第4回 諸外国の教育事情1 ヨーロッパ、アメリカ 第5回 諸外国の教育事情2 アジア 第6回 公教育 第7回 教育法 第8回 教育行政 第9回 教育制度をめぐる課題 第10回 学校経営とは 第11回 学校における教育活動 第12回 学級経営 第13回 組織としての学校 第14回 学校と地域社会 第15回 学校の安全		
<準備学習等の指示> 特になし。		
<テキスト> レジュメを配布する。		
<参考書・参考資料等> 学習指導要領（文部科学省）、生徒指導提要（文部科学省）。他は講義中に紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と学期末のレポートにより評価する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
心理発達と教育	森 真弓	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教育の基礎理論に関する科目 [新法] 教育の基礎的理解に関する科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 （障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） [新法] 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
<授業のテーマ> 人生をライフステージごとに見つめ、教育者として把握しておきたい青年期までの発達課題と学習について学ぶ。教育者になるための心理的レジネスや自己対応スキルにつながることをも目的としている。		
<到達目標> 学生は、人の発達段階における課題を整理し、教育現場における不適応・問題行動の背景にある心理を発達心理学・臨床心理学の視点から理解する力を身につける。学生は、学習に関する基礎的知識を身につけ、発達段階に応じ、学習を支える指導についても基礎的な考え方を理解する。		
<授業の概要> 乳児期では精神病理に、幼児期では土居健郎の甘え理論にもふれる。児童期までの学習に関連する認知的な基礎的知識は、第2回・第3回で学ぶ。児童期の発達課題を学んだあとに、学習心理学関連の理論について学ぶ。第8回・第9回で学習についての代表的理論をおさえ、第10回以降は、思春期・青年期の発達課題を学びつつ、同時に、悩み多き怒涛の時代にかかるとして主体的学習を確立していけばよいか、または若者の学習をどのようにリードしていけばよいかをライフイベントとからめながら学生と一緒に考えていく。 学生からの質問を含む「レスポンスペーパー」や随時設定する「ディスカッション」等を通じて学習を進めていく。また、教育者自身の自己理解を深めるため、査定・ワークを3回に分けて実施する。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 心とは——心を学ぶことの意義 第2回 心理発達基礎理論(1)——エリクソン 他 第3回 心理発達基礎理論(2)——フロイト、ピアジェ 他 第4回 自分自身を知る I ——エゴグラム他（心理テスト演習） 第5回 乳児期——クライン、精神病理・パーソナリティ障害 等 第6回 幼児期——マラー、甘え理論 等 第7回 児童期——児童期課題（勤勉性と劣等感 他） 第8回 学習心理学関連 I ——記憶、動機づけ、思考と言語 等 第9回 学習心理学関連 II ——集団づくり、社会的学習（バンデューラ）、教育評価（ブルーム）等 第10回 思春期(1)——乳幼児期との比較をとおして生徒を理解する 第11回 思春期(2)——思春期の課題 第12回 青年期(1)——青年期のライフイベント、現代の青年 第13回 青年期(2)——キリスト者の心理特性、青年ルター 第14回 青年期(3)——アセスメント 第15回 自分自身を知る II ——査定とまとめ		
<準備学習等の指示> なし		
<テキスト> 授業中に資料を配布する。		
<参考書・参考資料等> 授業の中で紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を前提とし、授業への参加状況（レスポンスペーパーやディスカッション）による評価、および期末レポート（1回）により評価する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
特別支援教育概論	森 真弓	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 該当せず [新法] 教育の基礎的理解に関する科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 該当せず [新法] 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	
<授業のテーマ> 発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒について、支援に必要な知識や支援方法を学ぶ。		
<到達目標> 学生は、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、将来、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために、必要な知識や支援方法を理解する。 学生は、ASD、ADHD、LDのみならず、特別支援教育の対象である「視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等」の幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身につける。		
<授業の概要> 特別支援教育について、関連法案や現状について学ぶ。発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等について必要な知識や情報を身につけるために、学生による発表という形をとりながら、学んでいく。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画> 第1回 特別支援教育とは 第2回 発達障害とは 第3回 ASDについて 第4回 ADHDについて 第5回 LDについて 第6回 ASDの子どもへの支援 第7回 ADHDの子どもへの支援 第8回 LDの子どもへの支援 第9回 軽度知的障害含む知的障害と支援 第10回 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱について 第11回 特別支援教育コーディネーターと支援体制 第12回 個別指導計画と個別の教育支援計画 第13回 通級による指導 第14回 母国語や貧困の問題等 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> なし		
<テキスト> 授業中に資料を配布する。		
<参考書・参考資料等> 授業の中で紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を前提とし、授業への参加状況、また発表（1回）と期末レポート（1回）により評価する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
教育課程・特別活動論	山口 博	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教育課程及び指導法に関する科目 [新法] 教育の基礎的理解に関する科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 教育課程の意義及び編成の方法 特別活動の指導法 [新法] 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） 特別活動の指導法	
<授業のテーマ> 「特別活動指導法」及びカリキュラム・マネジメントを含めた「教育課程の意義及び編成の方法」の内容を学ぶ。 キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）における特別活動の位置を学ぶ。		
<到達目標> 受講生が教育課程（カリキュラム）における特別活動の意義を踏まえ、赴任校において学校礼拝等の実際に当たれることを到達目標とする。		
<授業の概要> 学習指導要領の主旨に沿った中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）の意義と編成を、現状を踏まえつつ全体的に把握したい。その上で特別活動のあり方を諸局面に即して検討し、それらの集団活動を通して、生徒の個性と人間性を育成する道筋を明らかにしていく。授業後半に学校礼拝奨励のプレゼンを課題とする。		
<履修条件> 教職免許状取得希望者		
<授業計画> 1. 序論 キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）及び特別活動 2. 学習指導要領の変遷 3. 教育課程（カリキュラム）の意義と評価 4. 教育課程（カリキュラム）の編成と現状 5. キリスト教学校における教育課程（カリキュラム） 6. カリキュラム・マネジメントの実施と評価 7. 特別活動の目標 8. ホーム・ルーム活動の意義と特質 9. 学校行事の意義と特質、現状分析 10. 学校礼拝の意義と特質（これ以降の授業後半において学校礼拝奨励のプレゼンを全員に課す） 11. 式典について 12. 生徒会活動とクラブ活動について 13. ボランティア活動と国際交流について 14. 総合的な学習について 15. 総括 定期試験		
<準備学習等の指示>		
<テキスト> 『中学校学習指導要領』文部科学省（最新版）「特別活動編」を扱う 『高等学校学習指導要領』文部科学省（最新版）「特別活動編」を扱う 『中学校学習指導要領解説』文部科学省（最新版）「特別活動編」を扱う 『高等学校学習指導要領解説』文部科学省（最新版）「特別活動編」を扱う		
<参考書・参考資料等> 『キリスト教学校に勤めるということ』—現場の声— キリスト教学校教育同盟 監修		
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート及び試験と授業への参加姿勢によって評価		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
道徳指導法	菱刈 晃夫	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校）	
	<科目> [旧法] 教育課程及び指導法に関する科目 [新法] 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 道徳の指導法 [新法] 道徳の理論及び指導法	
<授業のテーマ> 教職志望者にとって必要不可欠な、道徳教育に関する教育的知識と実践的指導力の修得をテーマとする。		
<到達目標> 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。		
<授業の概要> 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等について概説し、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身につける。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回：導入・「道徳」への問い。道徳とは、道徳教育とは。道徳教育の課題(いじめ・情報モラル)について。 第2回：道徳の本質（1）「道徳」の語義について。 第3回：道徳の本質（2）近代の「道徳について」。 第4回：道徳の本質（3）現代の「道徳」について。いじめ・情報モラル等について。 第5回：道徳教育(補足して宗教教育)の歴史について。 第6回：学校教育のなかの道徳教育—学習指導要領など—（1）。 第7回：学校教育のなかの道徳教育—道徳教育の指導計画など—（2）。 第8回：中学生における道徳性の発達段階とその特徴。 第9回：道徳の授業の基本型について。 第10回：道徳授業の構想に基づく指導案の作り方について—教科書、読み物資料を用いた授業—。 第11回：学生による「道徳の内容」別模擬授業（1）。中学校1年生を中心に。予備学習として指導案作成・提出。 第12回：学生による「道徳の内容」別模擬授業（2）。中学校2年年を中心に。予備学習として指導案作成・提出。 第13回：学生による「道徳の内容」別模擬授業（3）。中学校3年年を中心に。予備学習として指導案作成・提出。 第14回：学生による「道徳の内容」別模擬授業（4）。中学校全学年より補足。予備学習として指導案作成・提出。 第15回：道徳授業の創意工夫、そして総括。 定期試験は実施しない。		
<準備学習等の指示> 授業中に指示された箇所を予め読んでワークシートに要点を記し、授業後には振り返ってまとめておくこと。		
<テキスト> 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（最新版、文部科学省）。 宮野安治・山崎洋子・菱刈晃夫『講義 教育原論—人間・歴史・道徳—』（成文堂、2011年）。各自で購入すること。		
<参考書・参考資料等> 横山利弘監修『楽しく豊かな道徳科の授業をつくる』（ミネルヴァ書房、2017年）。その他の資料等は、授業中に適宜指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 模擬授業および指導案作成の内容(40%)。レポート試験(30%)。平常点(30%)。なお平常点は、毎時間ごとのワークシートの記入状況を総合して判断する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
教育の方法と情報技術	竹井 潔	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教育課程及び指導法に関する科目 [新法] 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） [新法] 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	
<授業のテーマ> 学生が教育の方法論や教育技術を理解して授業を設計し、その中で情報機器を活用した効果的な授業展開が行えるような能力を身に着ける。		
<到達目標> 学生が中学、高等学校の授業において教育の方法論や教育技術を理解して情報機器や教材を適切に活用し、多角的な授業展開が行えるようにする。		
<授業の概要> 教育の方法論や教育技術について理解する。学生が授業の設計を行い、パソコンでプレゼンテーションソフト等により授業の教材を作成し、実際に模擬授業を行う。学生同士の相互評価を行うことにより模擬授業の振り返りを行い、お互いに教育方法の向上を目指す。将来教員になった場合、情報技術を適切に活用することにより、受講者の立場に立ったわかりやすい授業展開ができるような能力を実践的に身に着ける。		
<履修条件> パソコンを使うため、パソコンの基本操作やMicrosoft Office ソフトの基本的な操作ができること。または情報基礎を履修していること。		
<授業計画> 第1回 学習指導要領と教育方法 第2回 授業での効果的な ICT 活用 第3回 情報モラル：情報の取り扱い 第4回 情報モラル：著作権、個人情報 第5回 授業方法とアクティブラーニング 第6回 グループワークの進め方（ブレインストーミング、 KJ 法等） 第7回 プレゼンテーションの方法と技術 第8回 模擬授業のテーマ、内容の検討 第9回 模擬授業の基本構成（プラン）の検討 第10回 模擬授業の進め方・方法の検討 第11回 模擬授業レッスンプランの作成 第12回 模擬授業の教材作成 第13回 模擬授業のリハーサル、効果的なプレゼンテーションの検討 第14回 模擬授業実施及び相互評価 第15回 模擬授業振り返り		
<準備学習等の指示> 授業中に必要に応じて指示する。		
<テキスト> 授業中に必要に応じて指示する。		
<参考書・参考資料等> 文部科学省 「中学校学習指導要領」・「中学校学習指導要領解説」総則（最新版） 文部科学省 「高等学校学習指導要領」・「高等学校学習指導要領解説」総則編（最新版）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 平常点（50%）・提出物（50%）		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
教育の方法と情報技術（中級）	竹井 潔	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 教育課程及び指導法に関する科目 [新法] 該当せず	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） [新法] 該当せず	
<授業のテーマ> 学生が教育の方法論や教育技術を理解して授業を設計し、その中で情報機器を活用した効果的な授業展開が行えるような能力を身に着ける。		
<到達目標> 学生が中学、高等学校の授業において教育の方法論や教育技術を理解して情報機器や教材を適切に活用し、多角的な授業展開が行えるようにする。		
<授業の概要> 教育の方法論や教育技術について理解する。学生が授業の設計を行い、パソコンでプレゼンテーションソフト等により授業の教材を作成し、実際に模擬授業を行う。学生同士の相互評価を行うことにより模擬授業の振り返りを行い、お互いに教育方法の向上を目指す。将来教員になった場合、情報技術を適切に活用することにより、受講者の立場に立ったわかりやすい授業展開ができるような能力を実践的に身に着ける。		
<履修条件> パソコンを使うため、パソコンの基本操作や Microsoft Office ソフトの基本的な操作ができること。または情報基礎を履修していること。		
<授業計画>  第1回 学習指導要領と教育方法 第2回 新しい価値を生み出していく創造的なアクティブラーニング活動 第3回 創造的な課題形成の進め方 第4回 課題探索、テーマ設定 第5回 アイデア交流（情報収集） 第6回 アイデアの再構成と評価（情報の分類・整理、評価） 第7回 創造的課題の作成（企画立案） 第8回 模擬授業のテーマ・内容検討 第9回 模擬授業における教材作成検討 第10回 パソコンを利用した教材作成 プレゼンテーションソフトにおけるビジュアル表現 第11回 パソコンを利用した教材作成 図表、画像等 第12回 パソコンを利用した教材作成 アニメーション効果 第13回 模擬授業実施及び相互評価 第14回 模擬授業の振り返り 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 授業中に必要に応じて指示する。		
<テキスト> 授業中に必要に応じて指示する。		
<参考書・参考資料等> 文部科学省 「中学校学習指導要領」・「中学校学習指導要領解説」総則（最新版） 文部科学省 「高等学校学習指導要領」・「高等学校学習指導要領解説」総則編（最新版）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 平常点（50%）・提出物（50%）		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
生徒・進路指導論	水口 洋	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] 生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 [新法] 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 生徒指導の理論及び方法 進路指導の理論及び方法 [新法] 生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	
<授業のテーマ> 生活指導・進路指導及びキャリア教育の学校教育における目的・内容・方法について理解を深め、より良い指導法と生徒との関わり方を探求する。		
<到達目標> 生徒指導・進路指導及びキャリア教育の目的・内容・方法を具体的に知る。現在の学校教育の中での問題点を理解する。聖書科教員としての生徒との関わり方を考察し、将来の実践に役立てる。		
<授業の概要> 生徒指導・進路指導及びキャリア教育の目的・内容・方法を知り、具体的な事柄や現場の出来事を通して、実際にキリスト教学校の教員となった時に、その教育を担う者として心すべき生徒指導・進路指導・生徒理解のあり方を考察する。		
<履修条件> 教職課程履修者		
<授業計画> 第 1 回 授業内容ガイダンス～生徒指導を可能にするもの 第 2 回 生徒指導と教育課程①～授業を整える 第 3 回 生徒指導と教育課程②～特別活動を通してのキャリア教育 第 4 回 生徒指導と教育課程③～進路を見据えた総合的な学習の展開 第 5 回 生徒指導と教育課程④～道徳教育とキャリア教育 第 6 回 生徒指導と教育課程⑤～自己実現を目指しての進路指導・キャリア教育 第 7 回 生徒指導と進路指導・キャリア教育との相関関係 第 8 回 生徒指導・進路指導とホームルーム担任 第 9 回 魂に触れる指導（キリスト教学校の独自性） 第 10 回 問題行動の理解と指導①～同質性が生む問題 第 11 回 問題行動の理解と指導②～SNS の浸透と人間関係の変化 第 12 回 問題行動の理解と指導③～発達障がいもたらすもの 第 13 回 問題行動の理解と指導④～自傷行為、摂食障害、引きこもり 第 14 回 問題行動の理解と指導⑤～家庭の問題 第 15 回 まとめと総括～未来へ向けての生徒指導とチーム力		
<準備学習等の指示> その都度、次週の準備を指示する。		
<テキスト> 文部科学省「生徒指導提要」（最新版） 文部科学省「中学校学習指導要領」（最新版） 文部科学省「高等学校学習指導要領」（最新版）		
<参考書・参考資料等> 水口洋「教育を考えるあなたに」（いのちのことば社） 他		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業後小レポート 30%、授業内発表 30%、討議への参加 10%、最終レポート 30%を合計して評価。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
教育相談・総合的な学習の時間の指導法	水口 洋	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> 〔旧法〕生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 〔新法〕道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 〔旧法〕教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 〔新法〕総合的な学習の時間の指導法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	
<授業のテーマ> 思春期の発達とその課題を知り、教師としての対応やカウンセリングマインドを持って接する際の問題点を知り、総合的な学習の時間の指導法を用いて、人間理解と具体的な対応力を身につけていく。		
<到達目標> ①思春期・青年期の発達の課題を理解する。 ②生徒をわかろうとする心（カウンセリングマインド）を働かす現場の必要を理解する。 ③総合的な学習の時間の指導法を学び、それを用いての人間理解を深めていく。 ④カウンセリングの基礎理論及び知識の習得と教育相談の実際を学ぶ。		
<授業の概要> 教育相談が成立するためには、教師と生徒の関係性が構築されていなければならない。教師が自分の準拠枠を外して生徒の心に寄り添うにはカウンセリングマインドを持って接することが大事とされる。生活指導とカウンセリングが車の両輪として、教師の人格の中に、学校という組織の中に矛盾なく存在するために、磨くべき知識と行動を学ぶ。学校に起こる現実問題を事例として「総合的な学習の時間」の指導法を用いて学び、実際の対応力を身につける。		
<履修条件> 教職課程履修者		
<授業計画> 第 1 回 カウンセリングの基礎知識①～生徒を理解する 第 2 回 カウンセリングの基礎知識②～日本の学校教育と相談活動 第 3 回 カウンセリングの基礎知識③～生徒をどう観るのか 第 4 回 「総合的な学習の時間の指導法」の意義と原理①～役割、目標、実施 第 5 回 「総合的な学習の時間の指導法」の意義と原理②～評価の方法とその留意点 第 6 回 総合的な学習の時間を創造する①～総合的な学習の時間の内容と年間計画・単元計画の立て方 第 7 回 総合的な学習の時間を創造する②～各教科・特別活動との連携の実際 第 8 回 総合的な学習の時間を創造する③～主体的・対話的な授業展開の創造（演習） 第 9 回 発達障害を理解する①～生徒の特性 第 10 回 発達障害を理解する②～支援の方法 第 11 回 事例を通して考える①～不登校、いじめ 第 12 回 事例を通して考える②～自傷、依存、摂食障害 第 13 回 事例を通して考える③～暴力行為、非行 第 14 回 事例を通して考える④～保護者対応 第 15 回 まとめと総括		
<準備学習等の指示> 授業ごとに次週の授業の指示を行う。		
<テキスト> 文部科学省「中学校学習指導要領」（最新版） 文部科学省「高等学校学習指導要領」（最新版）		
<参考書・参考資料等> 水口 洋 「人生の季節の中で」（いのちのことば社） 他		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業後の小レポート 30% 授業内発表 30% 討議への参加度 10% 最終レポート 30%を合計して評価。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
教育実習Ⅰ	小泉 健 長山 道	<担当形態> 複数
通年・5単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校）、選択科目（高等学校）	
	<科目> [旧法] 教育実習 [新法] 教育実践に関する科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 教育実習 [新法] 教育実習	
<授業のテーマ> 教育実習校での実習を中心として、学校教員の働きを実地に学ぶ。		
<到達目標> 聖書科授業を行うための実践的教授力、指導力を身に着ける。その他の学校教員の職務について理解する。		
<授業の概要> キリスト教学校で教育実習が行われる。学内では事前、事後の指導を行う。		
<履修条件> 前年度に教育実習予備登録を済ませ、実習校から受け入れ通知を得ていること。		
<授業計画>  1. 教育実習事前指導 4月8日（月）9時～16時 教育実習の意義と心得、内容、生徒理解等について講義を行う。  2. 実習校での教育実習  3. 教育実習事後指導 11月25日（月）9時～16時 全員が教育実習の振り返りの報告をし、それに基づいて討論する。 報告すべき内容については、あらかじめ通知する。  事前指導と事後指導を含む全体で本学の授業としての「教育実習」が構成されている。事前指導、事後指導を欠席すると、教育実習の単位そのものを取得できない。必ず出席すること。		
<準備学習等の指示> 実習校での実習にあたっては、事前指導に基づいて適切に準備すること。 事後指導では報告の発表を求めるので、準備した上で授業に臨むこと。		
<テキスト> 必要に応じてプリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> 『キリスト教学校に勤めるということ——現場からの声』キリスト教学校教育同盟 『キリスト教学校の教職員をこころざす人たちへ——志望者のためのガイドブック』キリスト教学校教育同盟 いずれも担当者が用意する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習校からは「成績報告書」が送られてくる。そこでの評価を参考にしつつ、さらに事後指導での発表、討論を踏まえて総合的に評価する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
教育実習Ⅱ	小泉 健 長山 道	<担当形態> 複数
通年・3単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（高等学校）	
	<科目> [旧法] 教育実習 [新法] 教育実践に関する科目	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 教育実習 [新法] 教育実習	
<授業のテーマ> 教育実習校での実習を中心として、学校教員の働きを実地に学ぶ。		
<到達目標> 聖書科授業を行うための実践的教授力、指導力を身に着ける。その他の学校教員の職務について理解する。		
<授業の概要> キリスト教学校で教育実習が行われる。学内では事前、事後の指導を行う。		
<履修条件> 前年度に教育実習予備登録を済ませ、実習校から受け入れ通知を得ていること。		
<授業計画>  1. 教育実習事前指導 4月8日（月）9時～16時 教育実習の意義と心得、内容、生徒理解等について講義を行う。  2. 実習校での教育実習  3. 教育実習事後指導 11月25日（月）9時～16時 全員が教育実習の振り返りの報告をし、それに基づいて討論する。 報告すべき内容については、あらかじめ通知する。  事前指導と事後指導を含む全体で本学の授業としての「教育実習」が構成されている。事前指導、事後指導を欠席すると、教育実習の単位そのものを取得できない。必ず出席すること。		
<準備学習等の指示> 実習校での実習にあたっては、事前指導に基づいて適切に準備すること。 事後指導では報告の発表を求めるので、準備した上で授業に臨むこと。		
<テキスト> 必要に応じてプリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> 『キリスト教学校に勤めるということ——現場からの声』キリスト教学校教育同盟 『キリスト教学校の教職員をこころざす人たちへ——志望者のためのガイドブック』キリスト教学校教育同盟 いずれも担当者が用意する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習校からは「成績報告書」が送られてくる。そこでの評価を参考にしつつ、さらに事後指導での発表、討論を踏まえて総合的に評価する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
教職実践演習（中・高）	小泉 健	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 教職課程の最終段階で履修する	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> [旧法] ー [新法] 教育実践に関する科目	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> [旧法] 教職実践演習 [新法] 教職実践演習	
<授業のテーマ> 教職課程全体を振り返り、不足している知識、技能を補い、教員として必要な資質能力を養う。		
<到達目標> 教職に関する科目と教科に関する科目とが統合され、学校教員として必要な資質能力として結実すること。		
<授業の概要> 各自が自分で補うべきテーマを発見、設定し、役割演技、事例研究、模擬授業などを行いながら、教員としての資質能力を実践的に確認する。		
<履修条件> 第1回の授業に、記入済みの「履修カルテ」を持参すること。 教育実習を終えているか、もしくは本年度に教育実習を行う者であること。		
<授業計画>  第1回 教職課程の振り返りと課題の発見 第2回 キリスト教学校の使命と宗教主任の役割 第3回 カリキュラムの構想 第4回 授業をする力 第5回 教師としての話し方・聞き方 第6回 聖書教育、道徳教育、こころの教育 第7回 教会との協力 第8回 生徒理解 第9回 個々の子どもの特性や状況への対応 第10回 いじめや不登校への対応 第11回 学級経営 第12回 他の教職員との協力 第13回 保護者会、保護者への伝道 第14回 学校礼拝の形成 第15回 学校行事での役割		
<準備学習等の指示>		
<テキスト> 必要に応じて、授業時にプリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> これまでの教職課程の授業で用いた文献、ノート等がすべて参考資料となる。 発表に必要な参考資料については、個別に指導する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 演習における発表と参加によって評価する。共通評価指標（1）の④と⑤を重視する。		